

Milesight



VS125

AIステレオビジョン人流計測システム

**VS125** 屋内シリーズ ユーザーガイド

# 目次


<b>第1章 はじめに</b> .....	<b>4</b>
<b>第2章 製品紹介</b> .....	<b>7</b>
概要.....	7
梱包明細書.....	8
ハードウェア構成.....	9
電源.....	11
配線図.....	12
<b>第3章 設置</b> .....	<b>13</b>
設置リファレンス.....	13
推奨される設置シナリオ.....	13
検知エリアの参考.....	13
SIMカードの取り付け（セルラー版のみ）.....	17
デバイスの取り付け.....	18
インストール後のプレビュー異常のトラブルシューティング.....	22
<b>第4章 Web設定</b> .....	<b>24</b>
デバイスへのアクセス.....	24
ダッシュボードを確認してください.....	31
ルールの設定.....	34
基本カウント機能の設定.....	34
属性認識機能の設定.....	53
デジタル出力トリガーの設定.....	65
デジタル入力の設定.....	68
ヒートマップの設定.....	70
複数のデバイスを結合する.....	71

通信パラメータの設定 .....	81
ネットワークパラメータの設定.....	82
データ受信者を追加する .....	91
BACnet パラメータの設定 (PoE バージョンのみ) .....	96
MQTT API パラメータの設定 (セルラー版のみ) .....	99
レポートの生成 .....	102
画像パラメータの設定 .....	105
オクルージョンアラームの設定を行う .....	107
深度検知の較正を設定する .....	108
ビデオ検証の設定.....	111
システムパラメータの設定.....	114
デバイスパラメータの設定 .....	114
ユーザーパラメータの設定 .....	114
時間パラメータの設定.....	118
リモート管理パラメータの設定.....	119
システムメンテナンスパラメータの設定.....	121
<b>第5章 アップリンクデータとダウンリンクコマンド .....</b>	<b>124</b>
アップリンクデータ .....	124
リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例.....	124
定期レポート用のアップリンクデータ例.....	132
アラーム報告用のアップリンクデータ例.....	138
MQTT API コマンド .....	141
<b>第6章 サービス.....</b>	<b>151</b>

# 第1章 はじめに

## 著作権表示

本ガイドは、Xiamen Milesight IoT Co.,Ltd (以下、「Milesight」といいます)の事前の書面による許可なく、いかなる形式または手段によっても複製したり、翻訳、改変、翻案などの派生作品を作成したりすることはできません。本ドキュメントの日本語版は、Milesight社の許諾のもと、ウェーブクレスト株式会社により翻訳されたものです。本書の記載内容と英語版の原本との間に相違や齟齬がある場合は、英語版の内容が優先されるものとします。

 当社は、事前の通知なしに本ガイドおよび仕様を変更する権利を留保いたします。すべてのMilesight製品の最新仕様およびユーザーマニュアルは、当社の公式ウェブサイト <http://www.milesight.com> でご覧いただけます。

## 安全上の注意

Milesightは、操作ガイドの指示に従わなかったことにより生じた損失や損害について、一切の責任を負いません。



### 警告：

これらの警告を無視した場合、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

- 本機器の設置は、現地の電気安全規制を厳守し、有資格者によって行われることを確認してください。
- 火災や感電を防ぐため、設置前は本機を雨や湿気から遠ざけてください。
- 高温になっている部分には触れないでください。
- 電源プラグがコンセントにしっかりと差し込まれていることを確認してください。
- 本体がしっかりと固定されていることを確認してください。
- 本製品を分解したり、改造したりしないでください。



### 注意：

これらの注意事項を無視すると、怪我や機器の損傷を引き起こす恐れがあります。

- 本機器は、指定された温度範囲外で動作しないでください。
- 本製品に衝撃を与えないでください。
- レーザー機器がある環境での本装置の動作は避けてください。
- 過熱を防ぐため、本機の周囲に十分な換気を行ってください。



- レンズの清掃には、柔らかく乾いた布をご使用ください。頑固な汚れの場合は、布を中性洗剤の溶液で湿らせ、レンズを拭いた後、すぐにしっかりと乾かしてください。
- アルコール、ベンゼン、シンナーなどの揮発性溶剤は、装置の表面を損傷する恐れがありますので、使用しないでください。

## 性別に関する声明

Milesightは、ジェンダー表現のスペクトラム上のあらゆる位置、あるいはその枠を超えたものを含め、多様性のあらゆる側面を尊重し、受け入れています。

技術的な理由により、本デバイスに組み込まれたアルゴリズムは、性別分類（女性／男性）において、視覚的に識別可能な特徴のみを認識します。個人の生物学的性別の確実な検出は不可能であり、またその意図もありません。私たちは、性別が個人のアイデンティティであることを十分に認識し、尊重しており、本技術の出力は、それを軽視したり無効化したりすることを意図したものではありません。

## 変更履歴

日付	ドキュメント版	説明
2024年7月17日	V1.0	初期版
2024年9月30日	V1.1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マルチデバイス・ステッチング機能を追加；</li> <li>2. スタッフ検出機能を追加；</li> <li>3. グループカウント機能を追加；</li> <li>4. ヒートマップ機能を追加；</li> <li>5. セルラー版でTCP/IP通信に対応しました。</li> </ol>
2025年1月4日	V1.2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ログイン時のWi-Fiパスワード設定を追加。ユーザーパスワードには4種類の文字が含まれている必要があります。</li> <li>2. 検証機能を追加しました。</li> <li>3. Uターン自動フィルタリングを追加しました。</li> <li>4. トラック開始/終了ポイントの記録および静的トラックラインの表示を追加しました。</li> <li>5. I/O設定を追加しました。</li> <li>6. 障害物回避および検出モードの選択機能を追加しました。</li> <li>7. グループカウントの個別フィルタリングに対応しました。</li> </ol>

日付	ドキュメント版	説明
		<ul style="list-style-type: none"> <li>8. トピックを購読する際に、デバイス情報の自動置換に対応します。</li> <li>9. LEDインジケータの切り替え機能と診断機能を追加します。</li> <li>10. リアルタイムの軌道線とプレビューレイアウトの表示形式を変更します。</li> <li>11. 視野角を変更しました。</li> <li>12. HTTPアクセス機能を削除します。</li> </ul>
2025年6月30日	V1.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 視線方向の検出機能を追加しました。</li> <li>2. スタッフバッジとスタッフエポレットを追加しました。</li> <li>3. プレビューレイアウトとダッシュボードの表示スタイルを変更しました。</li> <li>4. 検証画面での録画スペース表示のインターフェースを最適化しました。</li> </ul>
2025年9月22日	V1.4	VS125-LW バージョンを追加しました。
2026年3月10日	V1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. VS125-LWモデルに関する記述をすべて削除してください。このガイドはVS125モデルのみに適用されます。</li> <li>2. デジタル入力を対応します。</li> <li>3. マルチデバイススティッチングにおいて、フレームの非オーバーラップに対応しました。</li> <li>4. OpenVPN 通信を追加しました。</li> <li>5. オクルージョン検出機能を追加しました。</li> <li>6. 深度センシングの較正を追加しました。</li> <li>7. トリガーレポートのクールダウン期間を追加しました。</li> <li>8. リアルタイムデータレポートを追加しました。</li> <li>9. ダッシュボードにデバイスの表示情報を追加しました。</li> <li>10. システム管理でプライバシーモードの変更に対応しました。</li> <li>11. PLMN および DNS サーバーの手動変更に対応しました。(VS125-Cellular のみ) 802.1x 通信に EAP-TLS 認証タイプを追加しました。(VS125-P のみ) HTTPS ダイレクトインストール証明書キーのパスワードを追加しました。(VS125-P のみ) BACnet プロトコルに対応しました。(VS125-P のみ)</li> </ul>

## 第2章 製品紹介

この章では、製品の基本情報について説明します。

### 概要

VS125は、ディープラーニングAIと双眼ステレオビジョン技術を採用した、プロフェッショナル向けの人数カウントセンサーです。最大**99.8%**という驚異的なピープルカウンティング精度を誇り、低照度環境や完全な暗闇の中でも安定した性能を発揮します。さらに、性別、子供、スタッフなどの属性認識にも対応しています。プライバシー・バイ・デザイン（Privacy by Design）のアーキテクチャを採用しており、GDPRに準拠しています。

VS125は、ネットワーク接続用にセルラーおよびPoEインターフェースを、外部機器との連携用にRS485、DO、DIインターフェースに対応しています。設置が簡単なため、小売店、ショッピングモール、オフィス、地下鉄駅など、さまざまな用途に適しています。

本製品には以下の特徴があります：

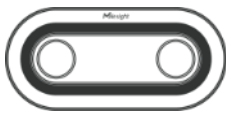
- **信頼性の高い性能：**
  - AIとステレオビジョン技術により、最大**99.8%**のピープルカウンティング精度を実現しています。
  - 暗闇を含む様々な照明条件下でも、安定した性能を維持します。
- **設置の柔軟性と自動校正技術：**
  - 最大**6m**の高天井への設置に対応しており、様々な環境において導入の柔軟性を高めます。
  - 最適な検知性能を維持するため、自動傾斜補正と赤外線調整に対応しています。
- **主な機能：**
  - ライン越えによるピープルカウンティング、エリア別人流計測、および滞留時間の検出に対応しています。
  - 性別、グループ人数の計測、子供、スタッフの識別などの属性認識機能に対応し、より深い洞察を提供します。
  - 人流の密度や分布を分析するためのヒートマップ機能を対応しています。
  - 複数デバイスの映像合成に対応しています。最大**16台**のデバイスを合成し、カバーエリアを拡大できます。
- **複数のインターフェース：**
  - 複数の接続オプション（PoE、セルラー）を提供します。
  - 外部機器との連携のために、RS485、DI、DOインターフェースに対応しています。
  - HTTP(s)/MQTT(s)プロトコルおよびAPIとの高い互換性を備え、カスタマイズされたプッシュコンテンツ配信方法に対応しています。
- **デバイス管理とデータセキュリティ：**

- Milesight DevicehubおよびMilesight Development Platformを通じて、迅速かつ簡単に管理できます。
- お客様が設定できるプレビューのプライバシー設定です。個人情報は一切送信されないため、GDPRへの準拠が確保されます。
- 安全なデータ収集のため、ローカルデータ保存およびデータの再送信に対応しています。

## 梱包明細書

この章では、同梱品リストについて説明します。以下のリストと照らし合わせて内容を確認し、すべての品目が揃っているかご確認ください。もし不足や破損がある場合は、担当の営業担当者までご連絡ください。

### 汎用アクセサリ



VS125 デバイス × 1



4 × 天井取り付けキット



1 × マルチインターフェースケーブル

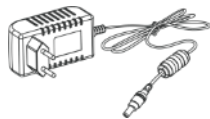


1 × 保証書



クイックガイド × 1

### セルラー版専用アクセサリ

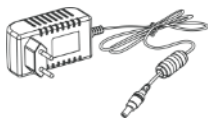


1 × 電源アダプター



SIMカード取り出しピン × 1

### PoEモデル専用アクセサリ



電源アダプター × 1 (オプション)

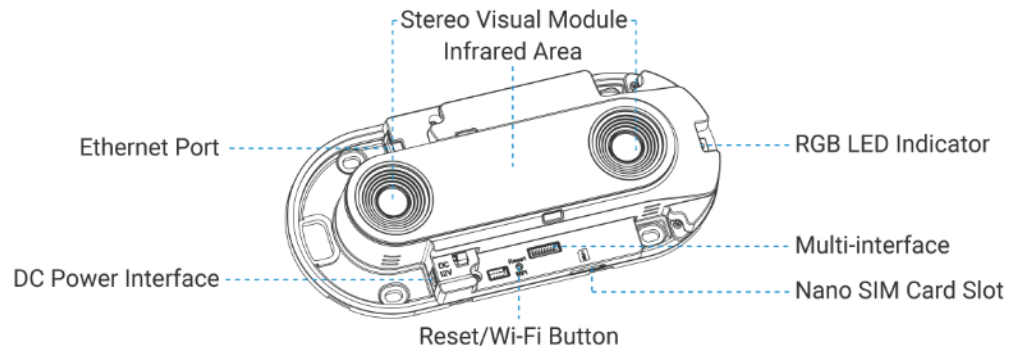
本製品は、別途購入可能な複数の取り付けキットやアクセサリにも対応しています。詳細については、[「Milesight ピープルカウンター用アクセサリ」](#) をご参照ください。

## ハードウェア構成

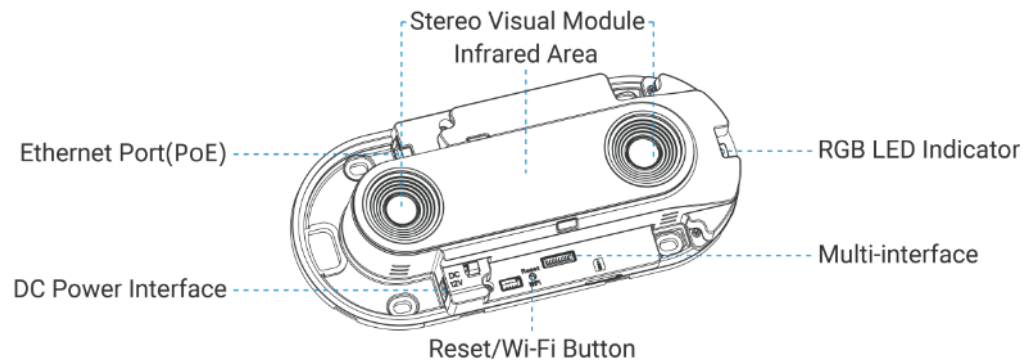
### 主要コンポーネント

次の図は、本デバイスの主要コンポーネントを示しています。

セルラー版：



PoEモデル：



各コンポーネントの説明については、以下の表をご参照ください：

名前	説明
Ethernet Port	データ通信および複数デバイスのステッチング機能を提供します。Power over Ethernet (PoE) に対応している場合、同じポートからデバイスへの給電も可能です。
DC Power Interface	外部DC電源アダプタを接続することで、デバイスへの電源供給を行います。
Stereo Visual Module	立体画像を撮影・処理するデュアルカメラモジュールです。

名前	説明
Infrared Area	目に見えない赤外線を照射してシーンを照らし、暗視機能を提供します。
RGB LED Indicator	多色LEDによる視覚的なステータス表示を行います。
Multi-interface	外部デバイス用の物理的な接続端子を備えています。
Nano SIM Card Slot	Nano-SIMカードを挿入して、携帯電話ネットワーク接続を確立するためのスロットです。
Reset/Wi-Fi Button	デバイスのリセットとWi-Fiペアリングモードの起動を行うデュアル機能ボタンです。

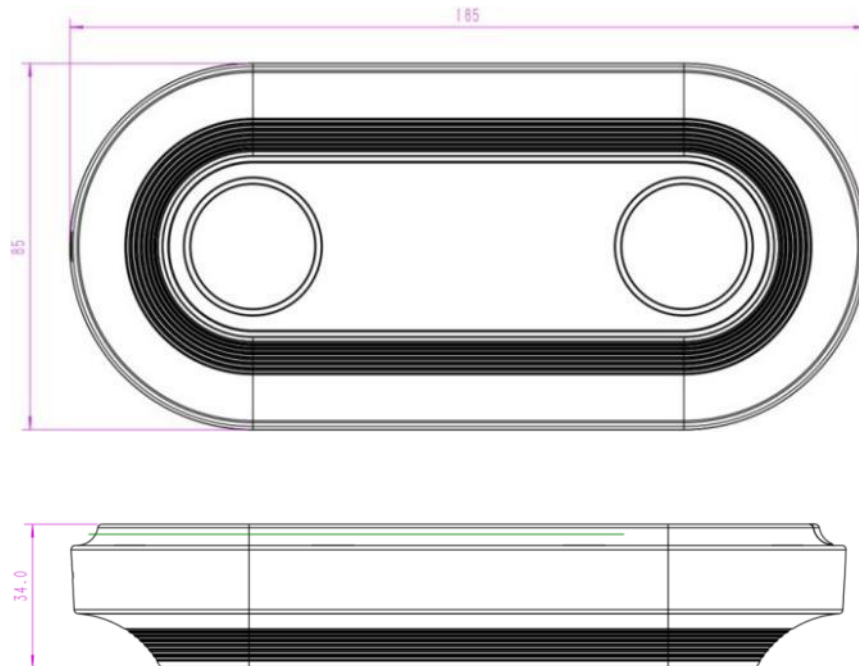
### 電源ボタンとLEDインジケータ

本デバイスには、電源ボタンと、Wi-Fiのオン/オフおよびリセット機能を示すLEDインジケータが搭載されています。電源ボタンの機能および対応するLEDインジケータの状態については、以下の表をご参照ください。

Function	動作	LEDインジケータ
Enable/Disable Wi-Fi	電源ボタンを3秒間長押ししてください。	有効/無効：青いライトが3秒間点滅します。Wi-Fi有効：青いライトが点灯しています。 Wi-Fi 無効：緑色のライトが点灯します。
Reset the device	電源ボタンを10秒間長押ししてください。	リセット処理が完了するまで、緑色のライトが点滅します。
Module or algorithm detection error	/	赤いランプが点灯しています。

### 外形寸法

次の図は、デバイスの外形寸法（単位：mm）を示しています



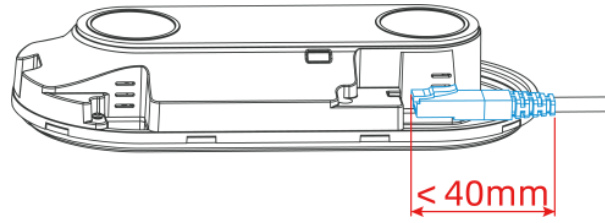
## 電源

本装置は、DC電源アダプタ（12V、1A）で動作させることができます。



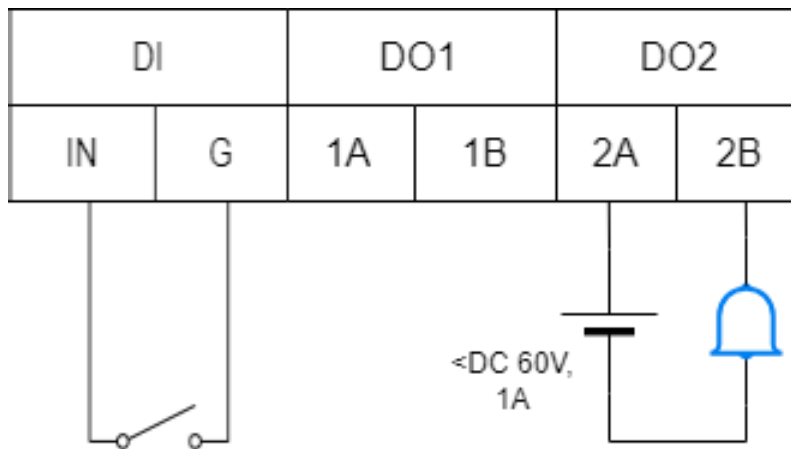
本デバイスは、PoEスイッチ（802.3af準拠）から給電可能です。これはPoEバージョンのみに適用されません。イーサネットケーブルのコネクタ端子の長さは40 mm未満である必要があります。





## 配線図

次の図は配線図を示しています。



**DI** : デフォルトでは、2つの接点が接続されている場合=ローレベル、2つの接点が切断されている場合=ハイレベルとなります。**DO** : 最大1A@60V DCの負荷に対応します。

# 第3章 設置

## 設置リファレンス

このセクションでは、推奨される設置シナリオ、精度に影響を与える要因、および検知範囲について説明します。

### 推奨される設置シナリオ

以下の表は、本デバイスの推奨および非推奨の適用シナリオを一覧にしたものです。本デバイスは多くのシナリオに適用可能です。表には代表的な適用例のみを記載しています。記載されていないシナリオについては、詳細をMilesightまでお問い合わせください。

Recommendation	設置シナリオ	例
Recommended	各種公共スペースおよびその出入り口	ショッピングモール、小売店
	スペースの有効活用が必要なエリア	オフィス、図書館
	人員のスケジュール管理や配置が必要なエリア	駅、空港
Not Recommended	本機が雨にさらされる可能性のある場所	公園
	プライベートエリア	トイレ

### 検知エリアの参考

次の表は、検知エリアの計算に関連するパラメータについて説明しています。

#### 1 台のデバイス単位

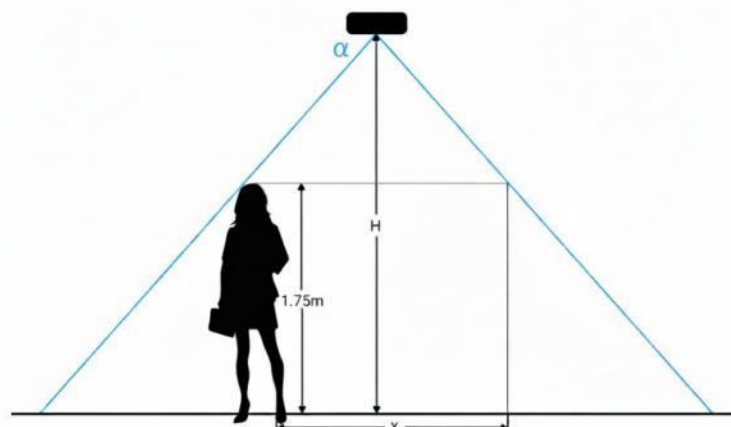
表 1. パラメータの定義

Parameters	説明	値
H	設置高さ	2.2~6 m 属性識別が必要な場合は、設置高さの要件について以下の表をご参照ください：

Parameters	説明	値	
		属性識別	設置高さ
		子供用・大人用の区別	2.2~4m
		性別認識	2.2~4m
		スタッフ検知	2.2~4m
		グループ計数	2.2~6m
		視線方向の検知	2.2~4m
h	対象物の高さ	例：1.7 m	
α	水平視野角	101°	
β	垂直視野角	70°	
x	検知範囲の長さ	$2 \times \tan(\alpha/2) \times (H-h+0.05)^*$	
y	検知範囲の幅	$2 \times \tan(\beta/2) \times (H-h+0.05)^*$	

\* 式中の「+0.05」は、天井面からの装置の取り付けオフセットを考慮したものです。

検知範囲は、装置の視野角、設置高さ、および対象物の高さに依存します。次の図では、説明のために水平視野角、設置高さ3メートル、対象物の高さ1.75メートルを例として示しています。



例：ターゲットの高さが $1.75\text{ m}$ の場合、各設置高さにおける検知範囲は以下の通りです：

表2. 検知範囲

Installation Height	検知範囲
2.2 m	$1.21 \times 0.7\text{ m}^2$
2.5 m	$1.94 \times 1.12\text{ m}^2$
3.0 m	$3.16 \times 1.82\text{ m}^2$
3.5 m	$4.37 \times 2.52\text{ m}^2$
4.0 m	$5.58 \times 3.22\text{ m}^2$
4.5 m	$6.80 \times 3.92\text{ m}^2$
5.0 m	$8.01 \times 4.62\text{ m}^2$
5.5 m	$9.23 \times 5.32\text{ m}^2$
6.0 m	$10.44 \times 6.02\text{ m}^2$

マルチデバイスユニット

表3. パラメータの定義

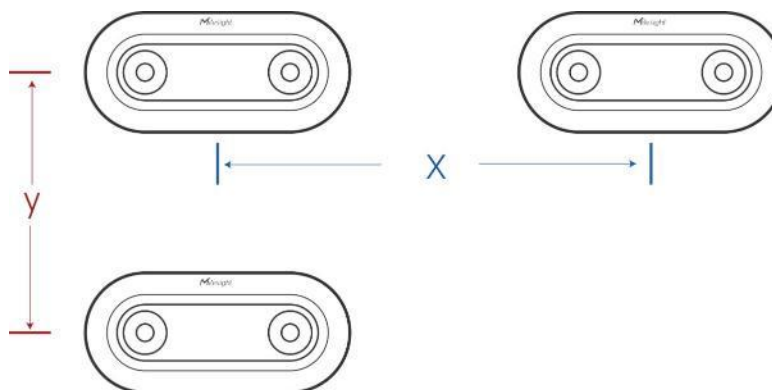
Parameters	説明	値
H	設置高さ	2.2~6 m

Parameters	説明	値												
		属性識別が必要な場合は、設置高さの要件について以下の表をご参照ください： <table border="1" data-bbox="760 422 1344 898"> <thead> <tr> <th>Attribute Identification</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Children&amp;Adult Differentiation</td> <td>2.2~4m</td> </tr> <tr> <td>Gender Recognition</td> <td>2.2~4m</td> </tr> <tr> <td>Staff Detection</td> <td>2.2~4m</td> </tr> <tr> <td>Group Counting</td> <td>2.2~6 m</td> </tr> <tr> <td>View Direction</td> <td>2.2~4m</td> </tr> </tbody> </table>	Attribute Identification	設置高さ	Children&Adult Differentiation	2.2~4m	Gender Recognition	2.2~4m	Staff Detection	2.2~4m	Group Counting	2.2~6 m	View Direction	2.2~4m
Attribute Identification	設置高さ													
Children&Adult Differentiation	2.2~4m													
Gender Recognition	2.2~4m													
Staff Detection	2.2~4m													
Group Counting	2.2~6 m													
View Direction	2.2~4m													
h	目標高さ	例 1.7 m												
$\alpha$	各デバイスの水平視野角	101°												
$\beta$	各デバイスの垂直視野角	70°												
x	各デバイスの検知範囲の長さ	$x = 2 \times \tan(\alpha/2) \times (H-h+0.05)$ (各デバイスにつき)												
y	各デバイスの検知範囲の幅	$y = 2 \times \tan(\beta/2) \times (H-h+0.05)$ (各デバイスにつき)												
a	カバレッジ長に沿って必要なデバイスの数	カバレッジ長 $\div$ x、設置要件に基づき、最も近い整数に丸めます												
b	カバレッジ幅に沿って必要なデバイス数	カバレッジ幅 $\div$ y、導入要件に基づき、最も近い整数に丸めます												

例：カバレッジ領域が 6m×3m（カバレッジ長さ×カバレッジ幅）で、VS125-P デバイスを高さ 3m (H) に設置し、目標高さ (h) が 1.75m の場合：

$x = 3.16$  m、a: カバー範囲の長さ  $\div$  x = 6  $\div$  3.16  $\approx$  1.90、a = [1.90]  $\approx$  2 台

$y = 1.82 \text{ m}$ ,  $b$ : カバレッジ幅  $\div y = 3 \div 1.82 \approx 1.65$ ,  $b = [1.65] \approx 2$  台



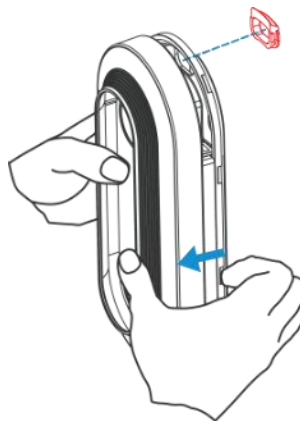
**結論** : 6m×3mのエリアを完全にカバーするには、 $2 \times 2 = 4$ 台のデバイスが必要です。

## SIMカードの取り付け（セルラー版のみ）

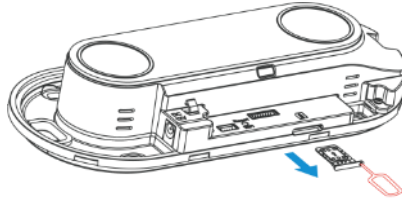
このセクションでは、セルラー版に必要なSIMカードの挿入方法について説明します。

手順 :

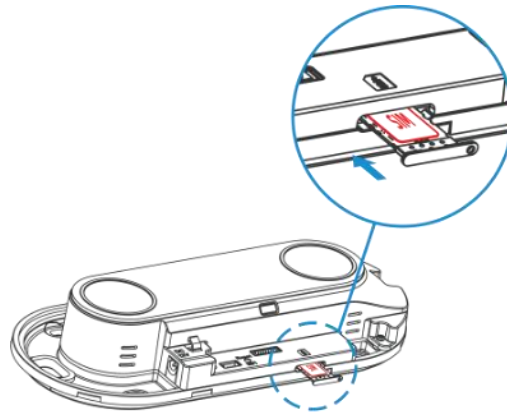
1. カバーを取り外します :
  - a. 両手の親指を赤外線センサー部分に当ててください。
  - b. 残りの4本の指を外側カバーの端に沿わせて対応してください。
  - c. 両手を使って、矢印の方向に押し、背面カバーを取り外します。



2. SIM取り出しツールを使用して、SIMトレイを取り出してください。



3. Nano SIMカードをトレイにセットし、トレイを端末に完全に差し込んでください。



## デバイスの取り付け

このセクションでは、本機を天井に取り付ける方法について説明します。また、[設置動画](#)をご覧ください。ながら設置することも可能です。

### 必要条件：

#### 設置場所の要件：

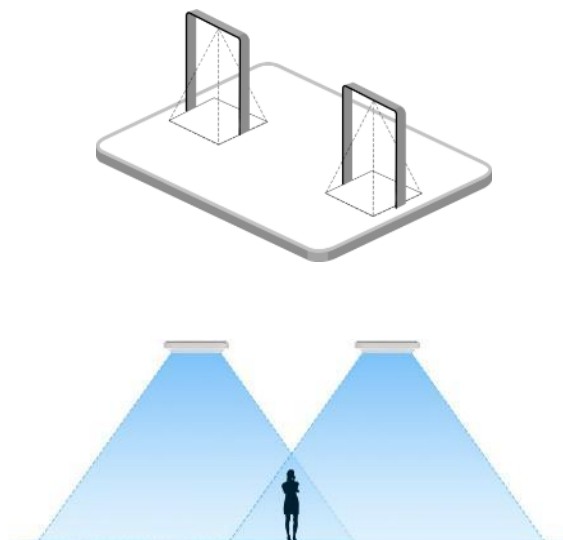
- 照明が安定しており、環境テクスチャが豊富な場所（模様のある床や壁など）。
- 反射面（ガラスや鏡など）がない場所。
- 視界が遮られない場所。
- 開き戸の上の天井への設置：本装置は、ドアの固定側（蝶番側）の上にある天井部分に設置してください。

**天井の要件：** 平らな天井、最小厚さ：30 mm、傾斜角度：10°以下。

#### 複数台でのステッチング要件：

- 設置高さ：すべてのデバイスは同じ高さに設置する必要があります。
- ソフトウェアのバージョン：すべてのデバイスで同じソフトウェアバージョンを実行する必要があります。

- 接続方式：PoEまたはセルラー接続に対応しており、ハイブリッドな組み合わせも可能です。
- 配置方法：重点エリアでの重複のないカバレッジ、または隣接設置による連続的なカバレッジ。



**注：**

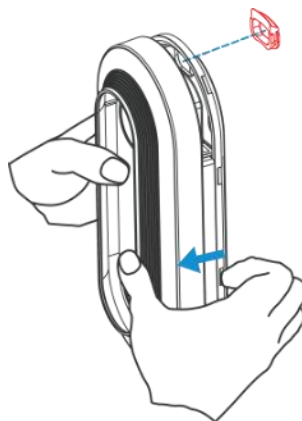
最適なステッチングを行うには、両方の視野の端付近にあるターゲットが、同時に完全に撮影・検出されるようにしてください。

**準備：**

- 梱包明細書に基づき、装置および付属品がすべて揃っていることを確認してください。
- 被験者に通知し、画像収集に関する同意を得てください。また、オプトアウトの権利について説明してください。
- **アクセサリ** オプションのアクセサリをご購入された場合は、動作手順について「Accessories」の項目をご参照ください。

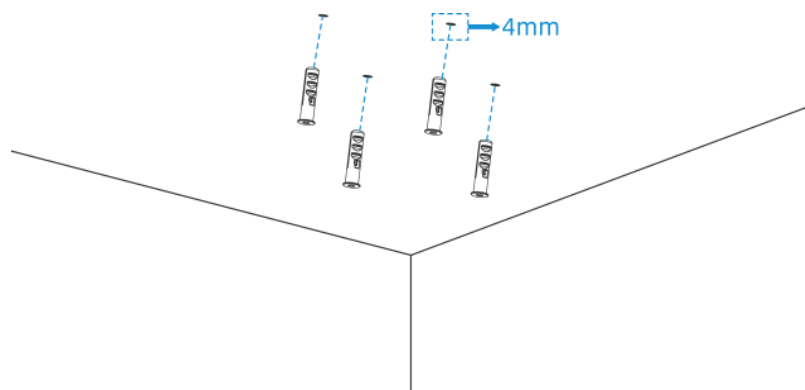
**手順：**

1. カバーを取り外します：
  - a. 両手の親指を赤外線センサー部分に当ててください。
  - b. 残りの4本の指を外側カバーの縁に沿わせて対応してください。
  - c. 両手で矢印の方向に押し、背面カバーを取り外してください。

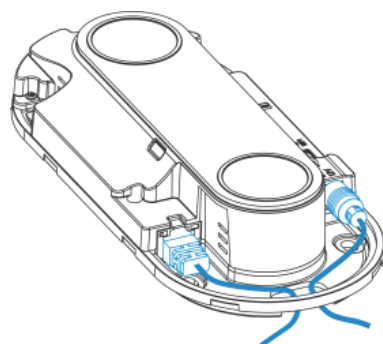


2. (オプション) ケーブルをデバイスの側面から通す場合は、ゴム製のプラグを取り外してください。
3. 拡張スリーブを取り付けます。

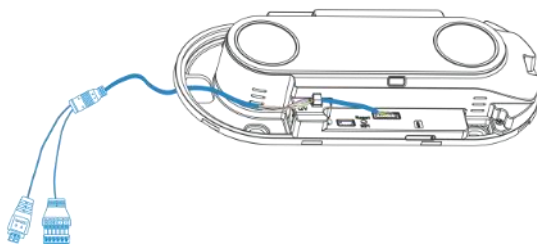
- a. マーカーペンまたはその他の適切な道具を使用して、本体の取り付け穴に合わせて天井に穴あけ位置を印付けしてください。
- b. 印をつけた位置に合わせて、天井に4mmの穴を4つ開けてください。
- c. 天井の穴に拡張スリーブを挿入してください。



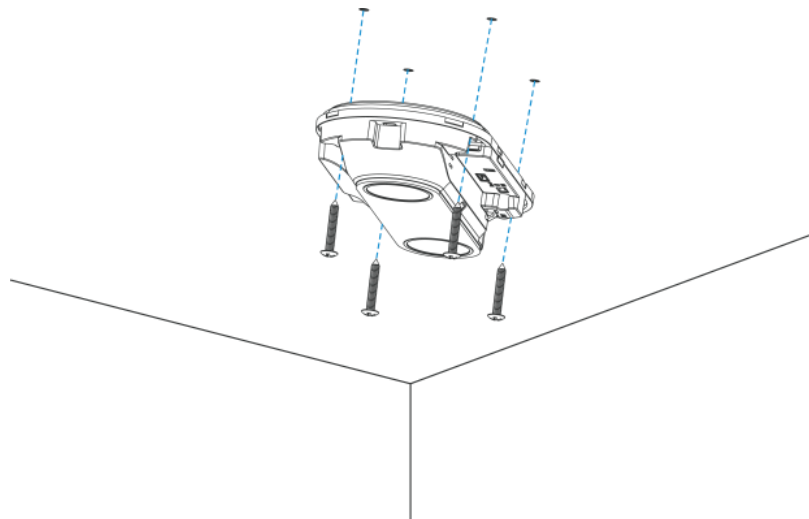
4. (任意) ケーブルを天井を通して配線する場合は、希望の位置に印を付けて、アクセス用の穴を開けてください。
5. ケーブルを通し、デバイスに接続してください。



(オプション) アラームI/Oを使用するには、マルチインターフェースケーブルをデバイスに接続する必要があります。

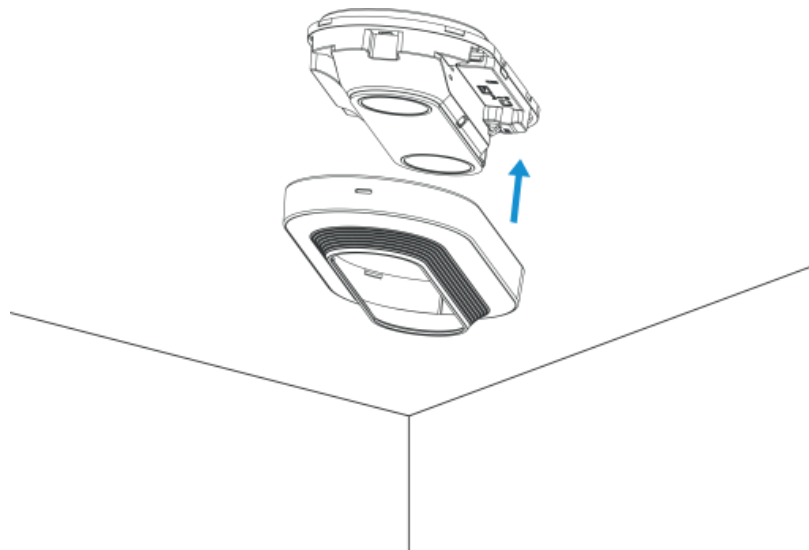


6. 取り付けネジを使用して、デバイスを天井に固定してください。



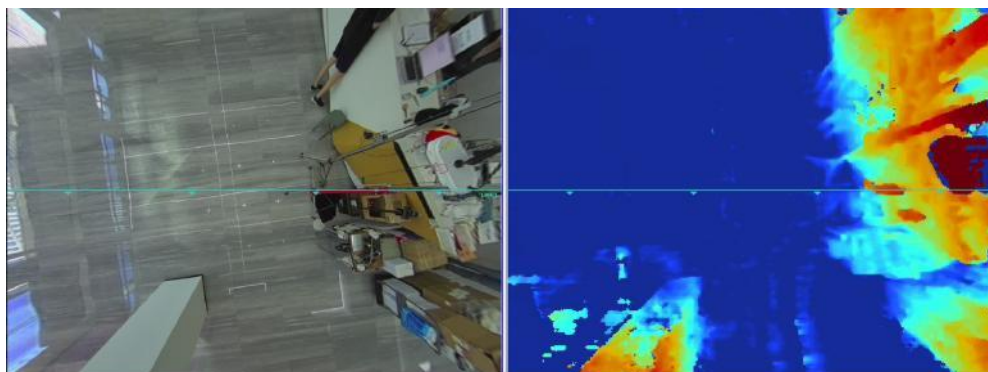
7. レンズの保護フィルムをはがしてください。

8. カバーをデバイスに取り付けてください。

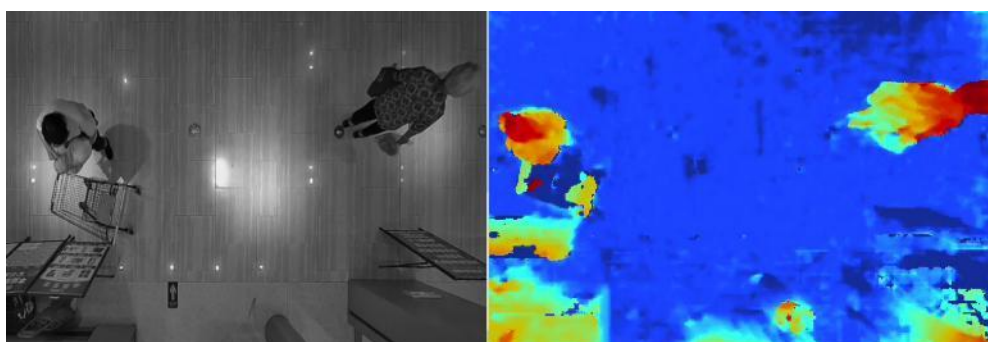


9. (オプション) 複数のデバイスを設置する場合は、手順1から8を繰り返してください。
10. [Web GUI](#) にログインし、[ダッシュボードページ](#)でプレビューを確認してください。

- 通常の環境における表示効果は以下の通りです。地面は水色または青色の斑点模様で描画されます。オブジェクトには高さに応じて色のグラデーションが適用され、背の高いオブジェクトほど赤みが強くなります。



- 通常のターゲットの表示効果は以下の通りです。検出されたターゲットに表示される鮮明な色のグラデーションは、効果的な奥行き認識を示しています。



#### トラブルシューティング：

ダッシュボードページのプレビューに異常が見られる場合は、「インストール後のプレビュー異常のトラブルシューティング」を参照して、トラブルシューティングを行ってください。

11. (任意) 複数のデバイスを使用する場合、隣接するデバイスの両方の視野の端付近にあるターゲットが、同時に完全に捕捉され、検出されることを確認してください。

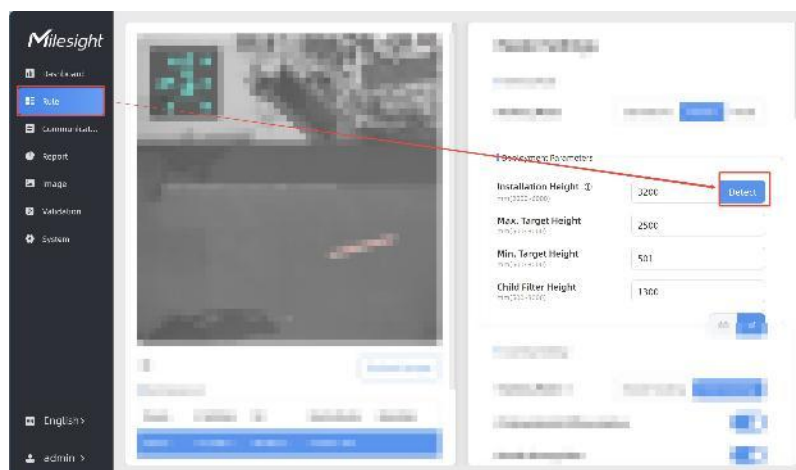
## インストール後のプレビュー異常のトラブルシューティング

このセクションでは、デバイスの設置後にダッシュボードのプレビューに異常が生じた場合のトラブルシューティング方法について説明します。

### 手順：

1. レンズ保護フィルムが剥がされていることを確認してください。
2. デバイスが水平 ( $\pm 10^\circ$  以内) に設置されていることを確認してください。

3. 本装置に近すぎる、または視野を遮っている物体（ペンダントライトやダウンライトなど）を特定し、取り除いてください。
4. **デバイスへのアクセス** Web GUI を使用して設置高さを調整してください。Web へのログイン方法については、「**Access the Device**」を参照してください。
  - a. Web GUIの「Rule」ページで、「Detection」をクリックすると、自動的に検出された高さの値が使用されます。



- b. 「Dashboard」ページに切り替えてプレビューを確認し、必要に応じて以下の調整を行ってください：
    - 深度マップが主に青色の場合 → 「Rule」ページに切り替えてください → 設置高さを50mm単位で上げてください（推奨）。
    - 深度マップが主に赤色になっている場合 → 「Rule」ページに切り替えてください → 設置高さを50mmずつ下げてみてください（推奨）。
5. 外見上の損傷が見られない場合でも、レンズがしっかりと固定されており、ハウジングに変形がないことを確認してください。
6. 問題が解決しない場合は、Milesightの営業担当者までご連絡ください。

## 第4章 Web設定

本デバイスはWeb経由で設定できます。このセクションでは、Web設定について説明します。

### デバイスへのアクセス

本デバイスは、Wi-Fi またはイーサネット経由でアクセス可能な Web GUI を通じて設定できます。このセクションでは、これら 2 つの方法を使用してデバイスにアクセスする方法について説明します。

**準備：**コンピュータとネットワークケーブル

**手順：**

1. 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

◦ ワイヤレスネットワーク経由でデバイスにアクセスする場合は：

- a. コンピュータで無線ネットワーク接続を有効にしてください。
- b. デバイスのWi-Fi SSIDを検索し、コンピュータに接続してください。Wi-Fi SSIDは「People Counter\_xxxxxx」という形式で、デバイスの物理的なラベルに記載されています。



c. ブラウザを開き、Wi-Fi IPアドレス「192.168.1.1」を入力してください。


「Activation」ダイアログボックスが表示されます。

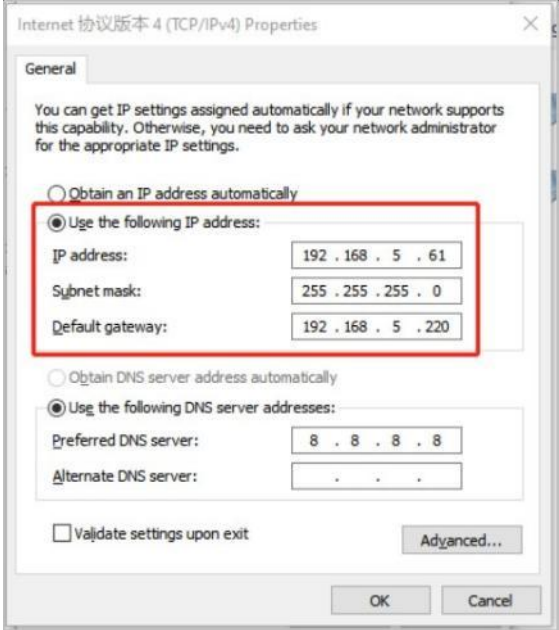

◦ イーサネットポート経由でデバイスにアクセスする場合：



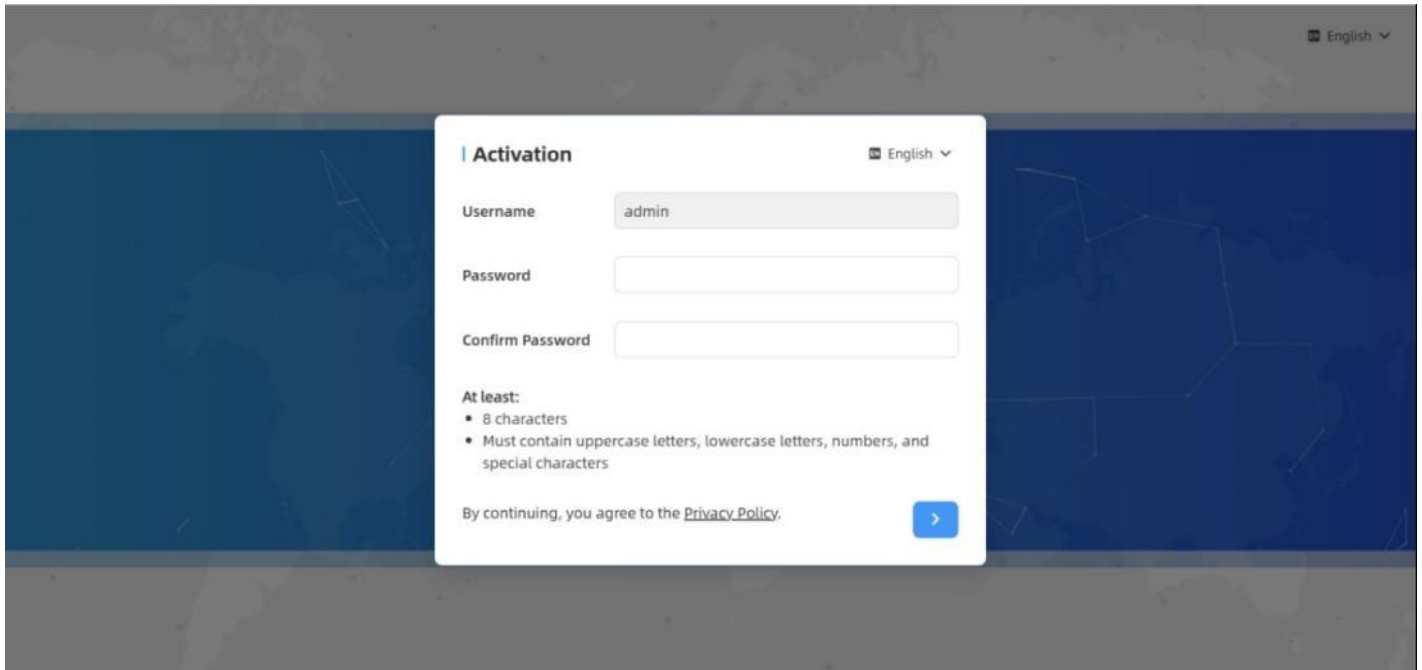
**注：**


ファームウェアバージョン1.0.5以降では、デバイスのIP割り当て方法はデフォルトで自動（DHCP）となっています。

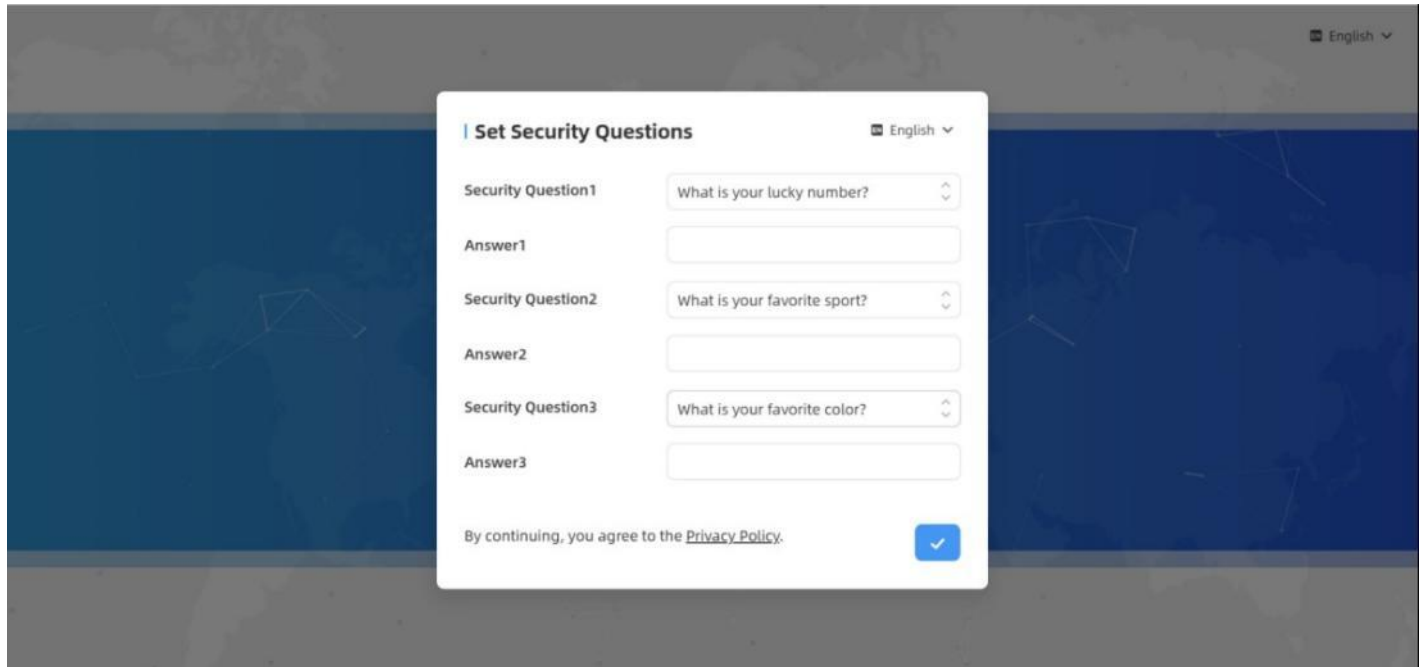
IP Assignment Method	説明
<p><b>Automatic (DHCP)</b></p>	<p>a. ネットワークケーブルを使用して、コンピュータとデバイスを DHCP サーバー（ルーターやスイッチなど）に接続してください。</p> <p>b. 以下のいずれかの方法で、デバイスの現在の IP アドレスを確認してください：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ DHCPサーバーにログインし、DHCPクライアント一覧を確認してください。</li> <li>▪ Milesight VSツールを使用して、ローカルネットワーク上のデバイスをスキャンしてください。</li> </ul> <p>c. ブラウザを開き、イーサネット IP アドレスを入力してください。「Activation」ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>電源投入後 30 秒以内にデバイスが IP アドレスを取得できない場合、自動的に静的 IP アドレス 192.168.5.220 に戻ります。「Manual (Static IP)」からデバイスにアクセスできます。</p>
<p><b>Manual (Static IP)</b></p>	<p>a. ネットワークケーブルを使用して、デバイスとコンピュータを接続します。</p> <p>b. <b>[Start] → [Control Panel] → [ネットワークとインターネット] → [Network and Sharing Center]</b> をクリックします。</p>  <p>The screenshot shows the Windows Network and Sharing Center window. The breadcrumb path is 'Control Panel &gt; Network and Internet &gt; Network and Sharing Center'. Under 'View your active networks', there is a section for 'Milesight 5G Public network' with 'Access type: Internet' and 'Connections: Ethernet'. The 'Ethernet' connection is highlighted with a blue box.</p> <p>c. 「Ethernet」 → 「Properties」 をクリックし、「Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)」をダブルクリックします。「Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4) Properties」ダイアログボックスが表示されます。</p>

IP Assignment Method	説明
	<div data-bbox="797 268 1352 894" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  </div> <p>d. <b>[Use the following IP address]</b> をクリックします。</p> <p>e. <b>[次の IP アドレスを使用する]</b> エリアで、以下の動作を行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>i. デバイスと同じサブネットにある <b>IP アドレス</b> (192.168.5.61 など) を入力します。</li> </ol> <div data-bbox="812 1192 1417 1367" style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>注：</b> この IP アドレスは一意である必要があり、ネットワーク上の他のデバイスで使用されていない必要があります。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>ii. 「<b>Subnet Mask</b>」を <b>255.255.255.0</b> に設定します。</li> <li>iii. 「<b>Default Gateway</b>」を <b>192.168.5.220</b> に設定します。</li> </ol> <p>f. <b>[OK]</b> をクリックしてください。</p> <p>g. ブラウザを開き、イーサネット IP アドレス「192.168.5.220」を入力してください。「Activation」ダイアログボックスが表示されます。</p>

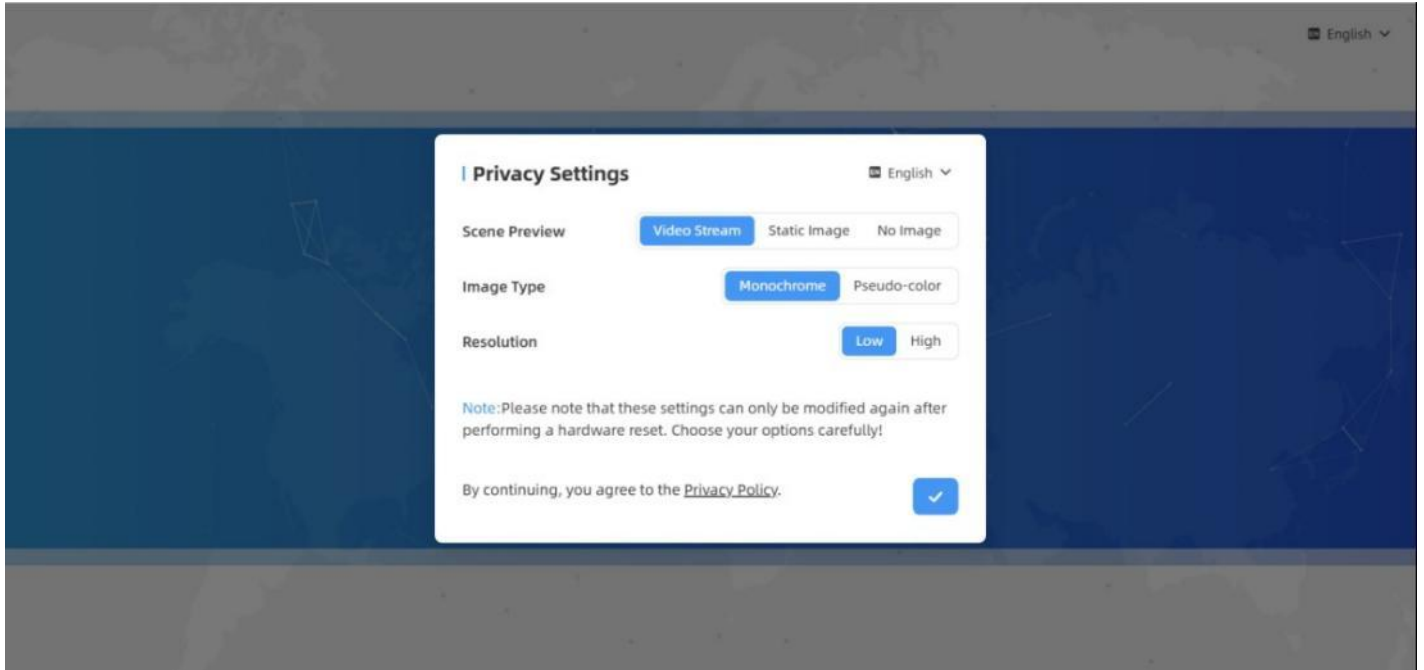
2. ログインパスワードを設定し、**[ ]** をクリックします。「Security Question Settings」ダイアログボックスが表示されます。



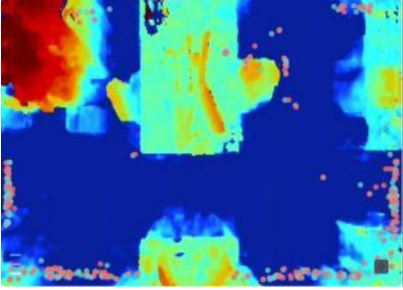

3. デバイスを初めて使用する場合は、3つのセキュリティの質問を設定し、 をクリックしてください。  
「Privacy Settings」ダイアログボックスが表示されます。



4. 「プライバシー設定」ダッシュボードにプレビュー画像を表示するには、必要に応じて以下のパラメータを設定してください。今後モードを切り替えたい場合は、「Privacy Settings」に移動してください。




Parameters	説明
<p><b>Scene Preview</b></p>	<p>オプション：動画ストリーム、静止画、画像なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>Video Stream</b>：カメラの視野のライブ映像プレビュー。</li> <li>- <b>Static Image</b>：シーンの静止画スナップショット。</li> <li>- <b>No Image</b>：画像は表示されません。</li> </ul>
<p><b>Image Type</b></p>	<p>オプション：モノクロまたは疑似カラー。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>Monochrome</b>：画像をグレースケール（黒、白、グレー）で表示します。</li> </ul> <div data-bbox="805 1440 1203 1740" style="text-align: center;"> </div>

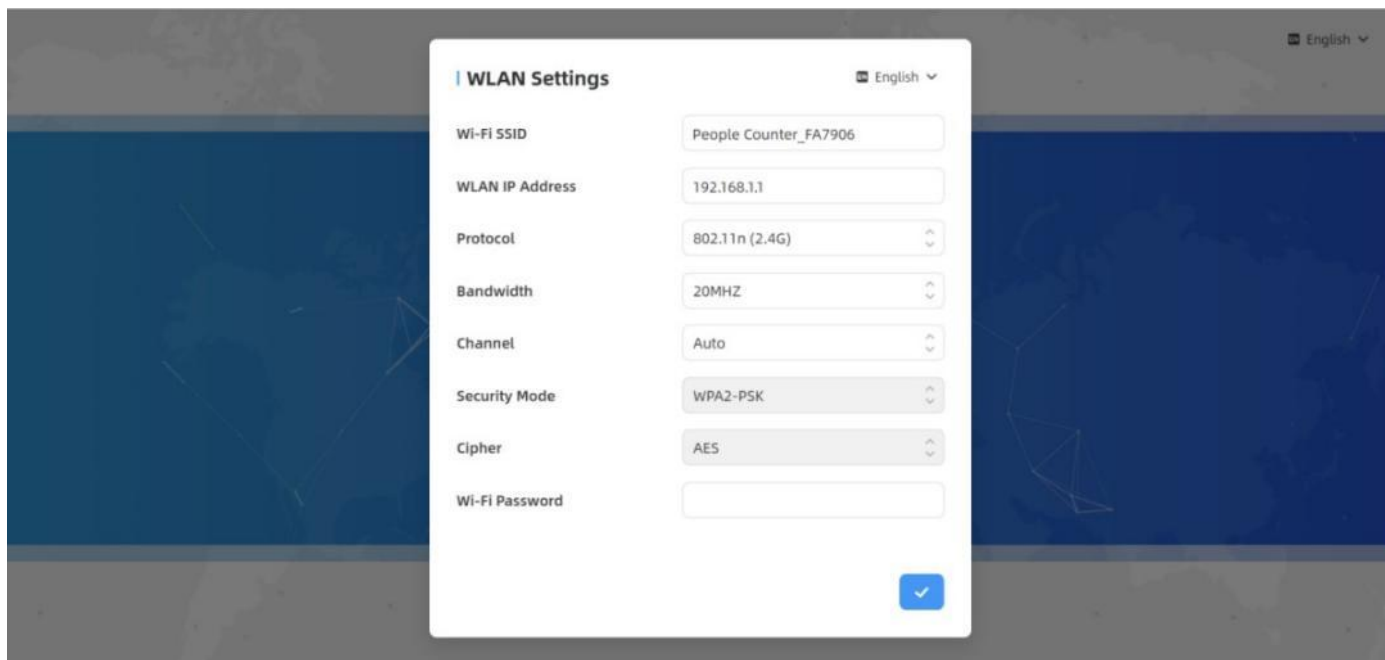
Parameters	説明
	<p>- <b>Pseudo-color</b> : グレースケールの濃淡をカラースペクトルにマッピングすることで、画像のディテールを強調します。</p> 
<b>Resolution</b>	<p> <b>注 :</b> このパラメータの選択は、<b>モノクロ</b>画像タイプの場合にのみ必要です。</p> <p>オプション : <b>Low</b>、<b>High</b>。</p> <p><b>Low</b> : 帯域幅をあまり使用しない低品質の画像を提供し、基本的なシーンの監視や動きの検出に適しています。</p> <p><b>High</b> : 顔の特徴などの細部を識別するために必要な、高品質で鮮明な画像を提供します。</p>

5. [Save]をクリックしてをクリックして設定を保存します。次のページが表示されます。



The image shows the Milesight login interface. At the top, the Milesight logo is displayed in white on a blue background, with the tagline "AI Stereo Vision People Counter" below it. There are two input fields: "Username" and "Password". Below the password field is a link for "Forget Password?". A blue "Login" button is centered below the fields. At the bottom, a line of text states "By continuing, you agree to the [Privacy Policy](#)."

6. ユーザー名 (admin) とログインパスワードを入力してください。「WLAN Settings」ダイアログボックスが表示されます。
7. Wi-Fi パスワードを設定し、 をクリックして設定を保存します。



The image shows a "WLAN Settings" dialog box overlaid on a blurred background. The dialog box has a title bar with "WLAN Settings" and a language dropdown set to "English". It contains several configuration fields:

Field	Value
Wi-Fi SSID	People Counter_FA7906
WLAN IP Address	192.168.1.1
Protocol	802.11n (2.4G)
Bandwidth	20MHZ
Channel	Auto
Security Mode	WPA2-PSK
Cipher	AES
Wi-Fi Password	

At the bottom right of the dialog box, there is a blue checkmark icon in a square button, which is highlighted in the instruction above.

注：

1. ログインパスワードとWi-Fiパスワードは、8文字から63文字で、数字、小文字、大文字、および特殊文字を含んでいる必要があります。パスワードを5回間違えて入力すると、アカウントは10分間ロックされます。
2. デバイスのセキュリティを強化し、不正アクセスを防ぐため、ユーザーは定期的にパスワードを更新することをお勧めします。
3. 事前にセキュリティの質問を設定しておけば、パスワードを忘れた際にログインページの「**Forgot Password?**」をクリックし、3つのセキュリティの質問に答えることでパスワードをリセットできます。

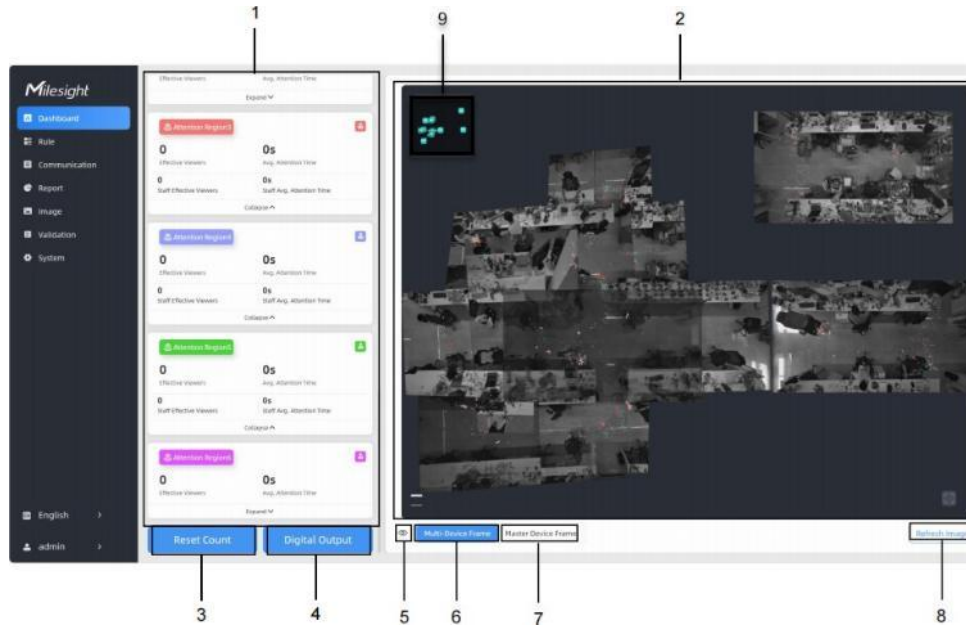
## ダッシュボードを確認してください




基本的なカウント機能と高度なAI再コロニー化機能の両方を設定すると、本デバイスはダッシュボード、レポート、コマンドライン出力など、複数のデータ表示オプションを提供します。

ダッシュボードは、重要なデータを一元化されたリアルタイムのレイアウトで可視化し、一目で状況を確認できるようにします。このセクションでは、説明の例としてマスターデバイスのダッシュボードを取り上げます。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**Dashboard**」をクリックします。ダッシュボードページが表示されます。
2. 必要に応じてデータを確認するか、動作を行ってください。ダッシュボードページの説明については、以下の表をご参照ください。



NO.	項目	説明
1	<p><b>Line, Region, Attention Region, Digital Input, Device Info data display area</b></p>	<p>「Line Crossing Counting」、「Area Surveillance」、「View Direction Detection」の各機能が設定されると、この領域に、対応するライン、エリア、および注視エリアのデータが表示されます。</p> <p> <b>Hide/Show Capacity</b> : データカウントの合計表示を非表示または表示します。</p> <p> <b>Children Included/Excluded</b> : 統計データに子供のデータを含めるか、除外するかを選択します。</p> <p> <b>Staff Included/Excluded</b> : 統計データにスタッフデータを含めるか、除外するかを選択します。</p> <p><b>Digital Input</b> : 手動 DI が有効になっている場合、現在の DI 情報を表示します。</p> <p><b>Device Info</b> : 現在の実行情報を表示します。</p>
2	<p><b>Preview</b></p>	<p>リアルタイムビデオ表示エリア。</p>

NO.	項目	説明
3	<b>Reset Count</b>	蓄積されたピープルカウンティングの値をすべてクリアします。
4	<b>Digital Output</b>	「手動DO」「Manual DO」が有効になっている場合、これをクリックすると、マルチインターフェースを介してハイレベル信号が出力されます。
5	<b>Edit Preview Layout</b>	<p> をクリックします。[Edit Preview Layout] ダイアログボックスが表示されます。必要に応じて、プレビューに表示する項目を選択してください。ここに表示される項目は、有効になっている機能によって異なります。</p> <p><b>リアルタイム・トラックライン</b>：プレビューにターゲットのトラックラインを表示または非表示にします。</p> <p><b>静的トラックライン</b>：プレビューにターゲットのトラックラインの履歴を表示または非表示にします。最大 1000 件の過去のトラック記録に対応しています。ページが更新されると、これらはクリアされます。</p> <p>Visual Configuration</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> Detection Line</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> U-turn Area</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> Detection Region</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> View Direction Related Region</li> </ul> <p>AI Result</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> Real-time Track Line</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> Static Track Line</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> View Direction</li> </ul> <p>Other</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> Track Start ● / Stop ● Points</li> </ul> <div data-bbox="597 1201 1055 1486" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>Start Time</b></p> <p><input type="text" value="🕒 2026-02-24 12:01"/></p> <p><b>End Time</b></p> <p><input type="text" value="🕒 2026-02-27 02:10"/></p> <p><input type="checkbox"/> End at current time</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="×"/> <input checked="" type="button" value="✓"/></p> </div>
6	<b>Multi-Device Frame</b>	マルチデバイスプレビューに切り替えます。デバイスの動作モードが「Master」の場合にのみ表示されます。
7	<b>Master Device Frame</b>	マスターデバイスのプレビューに切り替えます。デバイスの動作モードが「Master」の場合にのみ表示されます。

NO.	項目	説明
8	Refresh Image	クリックすると画像が更新されます。デバイスの動作モードが「Master」の場合にのみ表示されます。
9	Stitched Devices Preview	すべてのステッチされたデバイスの位置を表示します。デバイスの動作モードが「Master」の場合にのみ表示されます。

## ルールの設定

このセクションでは、「Rule」ページで基本的なカウント機能やAI認識機能を設定し、複数のデバイスをステッチする方法について説明します。

### 基本カウント機能の設定

デバイスを正常に動作させるためには、まず基本的なカウント機能を設定する必要があります。これには、展開パラメータ、デバイス戦略、ライン越えカウント、およびエリア監視の設定が含まれます。このセクションでは、それらの設定方法について説明します。

#### 制限事項：精度に影響を与える制御不能な要因

以下のターゲットに関連する要因は、ピープルカウンティングの精度に影響を与える可能性があります。これらは制御不能な要因であり、事前に予測したり防止したりすることはできません。

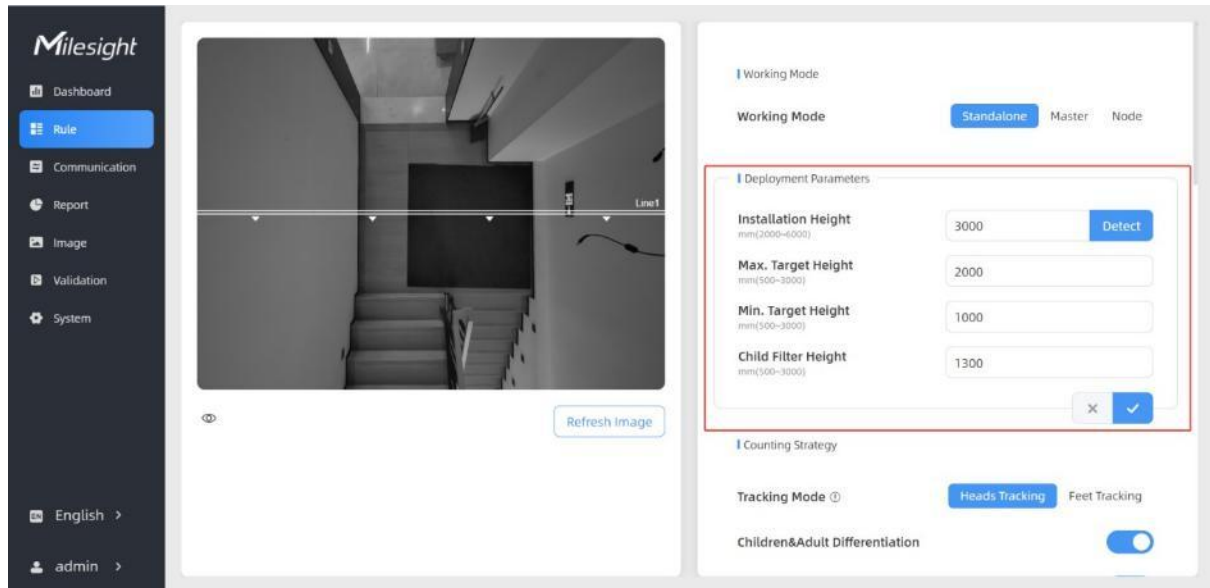
- 対象物の外観と特性：
  - 色のコントラストが低い場合：対象物と床の色が似ている場合、認識が困難になります。
  - 形状の類似性：人間のようなシルエットを持つ非人間的な物体が、誤検知を引き起こす可能性があります。
- 対象物の動きと密度：
  - 高速移動：時速2.5メートルを超える速度で歩行する人物については、追跡精度が低下する可能性があります。
  - 密集状態：ターゲット間の距離が30 cm未満の場合、精度が低下します。
- 特定の状況：
  - 部分的な遮蔽：対象が他の物体によって遮られる割合が大きくなるほど、検知漏れが発生するリスクが高まります。
  - 同時双方向通過：2人が反対方向から同時に、かつ至近距離で検知ラインを通過した場合、両者ともカウント漏れとなる可能性があります。
  - FOVの端におけるIDの継承：FOVの端において、あるターゲットが消え、別のターゲットが現れることが同時に発生すると、追跡IDの継承が生じる可能性があります。

## デプロイメントパラメータの設定

このセクションでは、デプロイメントパラメータの設定方法について説明します。


手順：


1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。



2. 右側の「Deployment Parameters」エリアで、必要に応じて以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Installation Height	<p>デバイスの設置高さを手動または自動で設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高さを手動で設定する場合：2000～6000 mm の値を入力してください。</li> </ul> <p><b>注：</b> 属性認識機能（性別認識、子供・大人の判別、スタッフ検知、視線方向検知）を最適に動作させるためには、設置高さは4メートルを超えてはなりません。</p>

Parameters	説明
	<p>◦高さを自動的に設定するには：「Detection」をクリックして、現在の設置高さを検出してください。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> <b>注：</b> 地表のテクスチャが乏しい場合や、夜間などの低照度環境では、自動高さ検出の精度が低下する可能性があります。</p> </div>
Max. Target Height	ターゲットの高さの最大値を設定します。この値を超える高さで検出された物体は、本装置によって無視されます。範囲：500～3000 mm。
Min. Target Height	ターゲットの最小高さを設定します。この値より下で検出された物体は、本装置によって無視されます。範囲：500～3000 mm。
Child Filter Height	「子供と大人の識別」の設定このパラメータは、「Children & Adult Differentiation」機能が有効になっている場合にのみ表示されます。子供の最大身長を設定します。範囲：500～3000 mm。設定の詳細については、「Children & Adult Differentiation」の設定を参照してください。

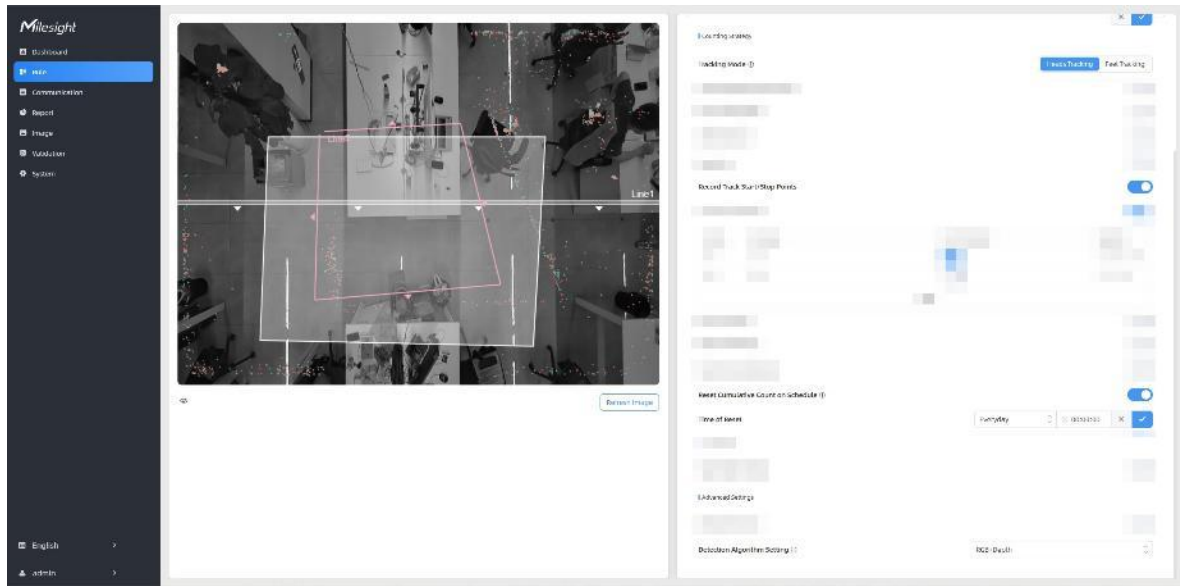
3. クリックして  をクリックして設定を保存してください。

## デバイス戦略の設定

このセクションでは、動作モード、追跡モード、トラックの開始/終了ポイントの記録、検出アルゴリズムの設定、およびスケジュールに基づく累積カウントのリセットを含む、デバイス戦略の設定方法について説明します。


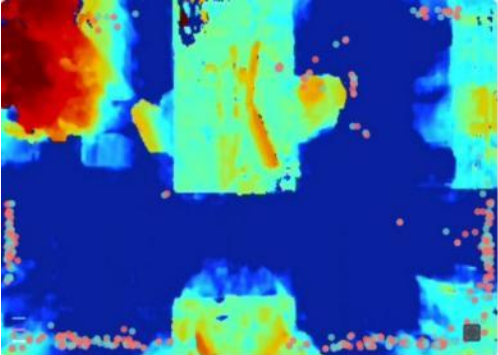
手順：


1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[Rule]** をクリックします。



2. 必要に応じて、以下のパラメータを設定します。

Parameters	説明
<p><b>Working Mode</b></p>	<p>オプション : <b>Standalone, Master, Node</b>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>Standalone</b> : デバイスは独立して動作します。</li> <li>- <b>複数のデバイスの接続</b> <b>Master</b> : マスターデバイスが、すべての機能設定、カウント、およびデータ送信を処理します。複数のデバイスを接続するには、この設定が必須です。詳細については、「<b>Connect Multiple Devices</b>」を参照してください。</li> <li>- <b>複数のデバイスの結合</b> <b>Node</b> : その主な機能は、検知範囲全体を拡大することです。複数のデバイスを結合するには、この設定が必須となります。詳細については、「<b>Stitch Multiple Devices</b>」をご参照ください。</li> </ul>
<p><b>Tracking Mode</b></p>	<p>カウントの追跡モードを設定します。オプション : <b>Heads Tracking</b> 頭部追跡と <b>Feet Tracking</b> 足部追跡。</p> <p><b>Heads Tracking</b> : 視野 (FOV) 内でターゲットの頭部と肩を検知すると、デバイスはその移動経路に基づいて軌跡線を生成します。このモードは、ほとんどの検知シナリオに適用されます。</p>

Parameters	説明
	<p><b>Feet Tracking</b> : 対象の両足が視野 (FOV) 内に検出された場合、デバイスはその移動経路に基づいて軌跡線を生成します。他の検出シナリオでは、ほとんど使用されません。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e0f2f1; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>注 :</b> マルチデバイススティッチング動作モードでは、足追跡モードのみが対応しています。</p> </div>
<b>Detection Algorithm Setting</b>	<p>具体的な利用シーンに合わせて、検出アルゴリズムを設定してください。</p> <p><b>RGB+深度</b> : ほとんどのシナリオに適しています。</p> <p><b>RGB</b> : 高度な属性分析を有効にします。このモードは、多くの無生物が誤って人物と識別されてしまう環境において、誤検知を減らすために使用できます。例えば、持ち運ばれている物が誤って人物と識別されてしまうような倉庫の出入り口などが挙げられます。</p> <p><b>Depth</b> : プライバシーが重視される環境に最適です。このモードは、人間のような静止物が高密度に存在する環境において、検知精度を高めるために使用できます。マネキンや人形が置かれている人形店などの環境において、誤認識を効果的に最小限に抑えます。</p>
<b>Record Track Start/Stop Points</b>	<p>このパラメータを有効にすると、検出ラインの調整のために、ライブビュー上で人物の軌跡の開始点と終了点を記録できます。システムは最大5,000個の追跡ポイントを保存でき、緑色は開始点を、赤色は終了点を示します。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>

Parameters	説明
<b>Reset Cumulative Count on Schedule</b>	<p>1. このパラメータを有効にすると、設定されたスケジュールに従って累積カウントが定期的のリセットされます。最大5つのリセットスケジュールが対応されています。累積カウントには以下が含まれます：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各検知ラインの総入出数</li> <li>各検知領域の最大／平均滞留時間</li> <li>各注目領域の総有効視聴者数および平均注目時間</li> <li>デジタル入力トリガーカウント</li> </ul> <p>2. 「Time of Reset」を設定し、「」をクリックしてください。</p>

## ライン横断カウントの設定

このセクションでは、ライン横断カウント機能の設定方法について説明します。

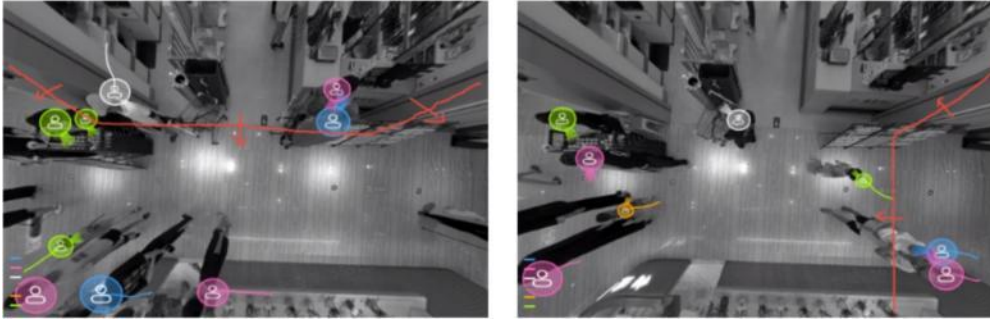
### 検知ラインの追加

このセクションでは、入退場者数をカウントするための検知ラインの描画方法について説明します。

#### 検知ラインの描画要件：

検知精度を高めるためには、検知ラインは以下の要件を満たす必要があります：

- 対象物が完全に横切る必要があります。
- 移動方向に対して垂直であること。
- 検知エリアの中央に配置されていること。
- 隣接する障害物がないこと。
- プレビュー画面の中心にできるだけ近い位置にあること。
- 両側に十分な識別スペースを確保してください。

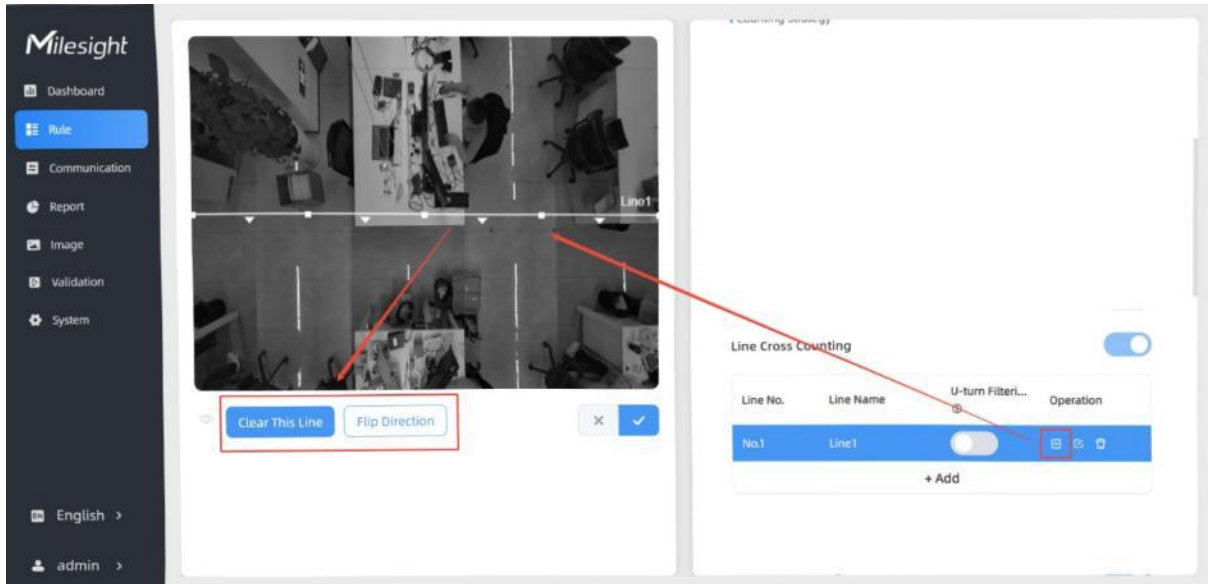


#### 前提条件：

デプロイメントパラメータとデバイス戦略が設定されています。

#### 手順：








1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[Rule]** をクリックします。
2. 右側の「**Line Crossing Counting**」エリアで、「**+Add**」をクリックします。
3. プレビュー画面に検知ラインを描画します。ポリラインは最大4本まで、1ポリラインあたり最大9つの線分を描画できます：
  - a. 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。線分の中央にある矢印は、入力方向を示しています。
  - b. 左クリックで頂点を追加し、方向を変更して、ドラッグして別の線分を描画します。
  - c. 必要に応じて、手順 **b** を繰り返して、さらに線分を描画してください。
  - d. 右クリックして終了します。
  - e. (任意) ドラッグして線の位置や長さを調整します。
  - f. (任意) 線を再描画するには、「**Clear This Line**」をクリックしてください。
  - g. (任意) 線の向きを反転させるには、「**Reverse Direction**」をクリックしてください。



h.  [ ]をクリックして設定を保存します。

4. 線情報は、「**Line Cross Counting**」エリアに一覧表示されます。

Line Cross Counting

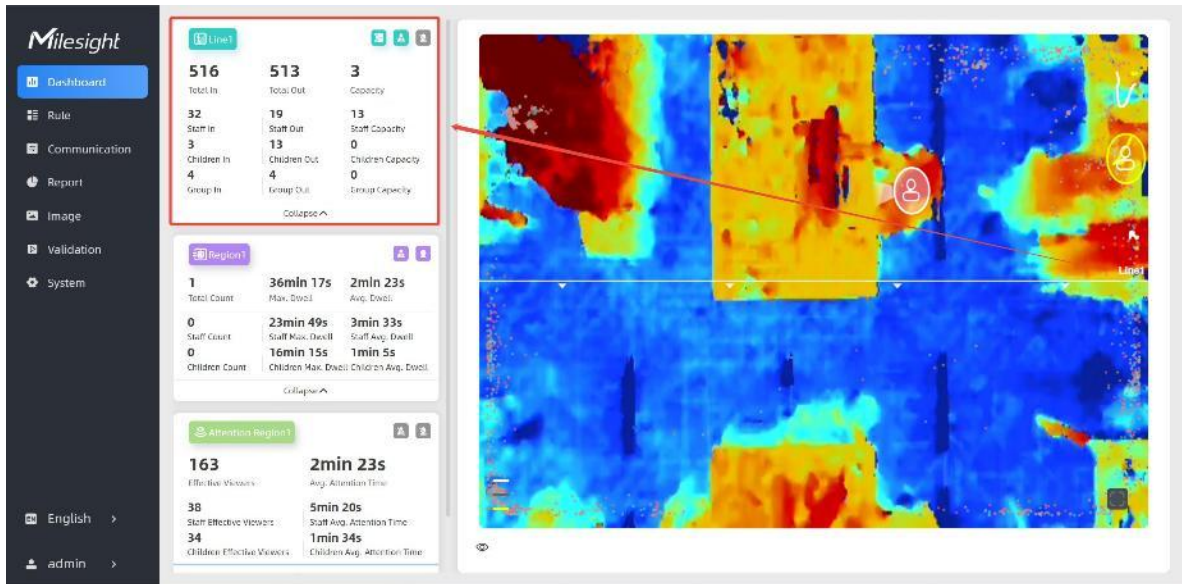
Line No.	Line Name	U-turn Filtering 	Operation
No.1	Line1	<input type="checkbox"/>	  
No.2	Line2	<input type="checkbox"/>	  
+ Add			

5. (オプション)  をクリックして、ライン名をカスタマイズします。

6. 「**Uターンフィルタリングの設定**」 (オプション) Uターンフィルタリングを有効にするには、  
[  ]をクリックしてください。詳細な設定については、「**Configure U-turn Filtering**」を参照してください。

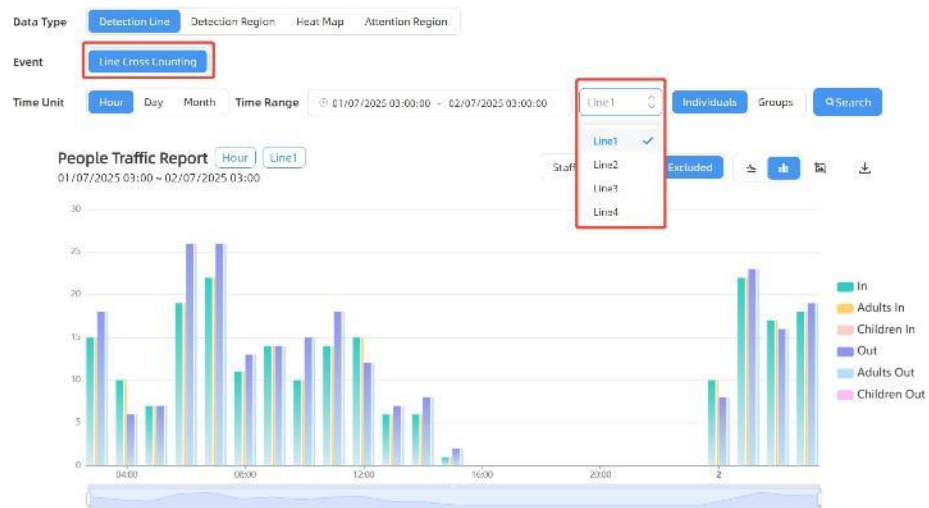
7. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：

。視覚的な設定効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから **[Dashboard]** をクリックしてく

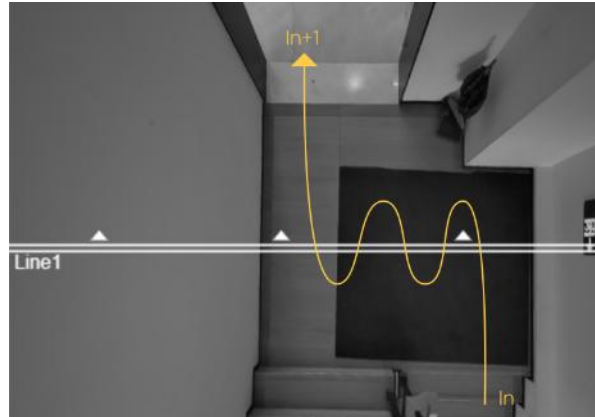


ださい。

。レポートの作成」特定の期間のラインデータを表示し、レポートを作成するには、左側のナビゲーションツリーから「**Report**」をクリックしてください。詳細については、「レポートの作成」を参照してください。

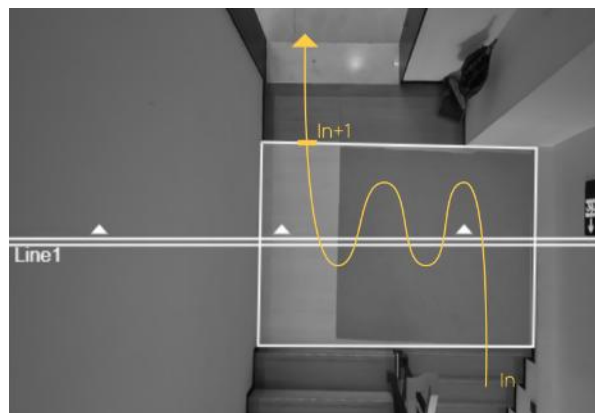






- Uターンフィルタリングが有効で、検出ラインのUターンエリアが描画されている場合の集計例：

統計情報の適時性を重視する場合は、Uターンエリアを描画することができます。

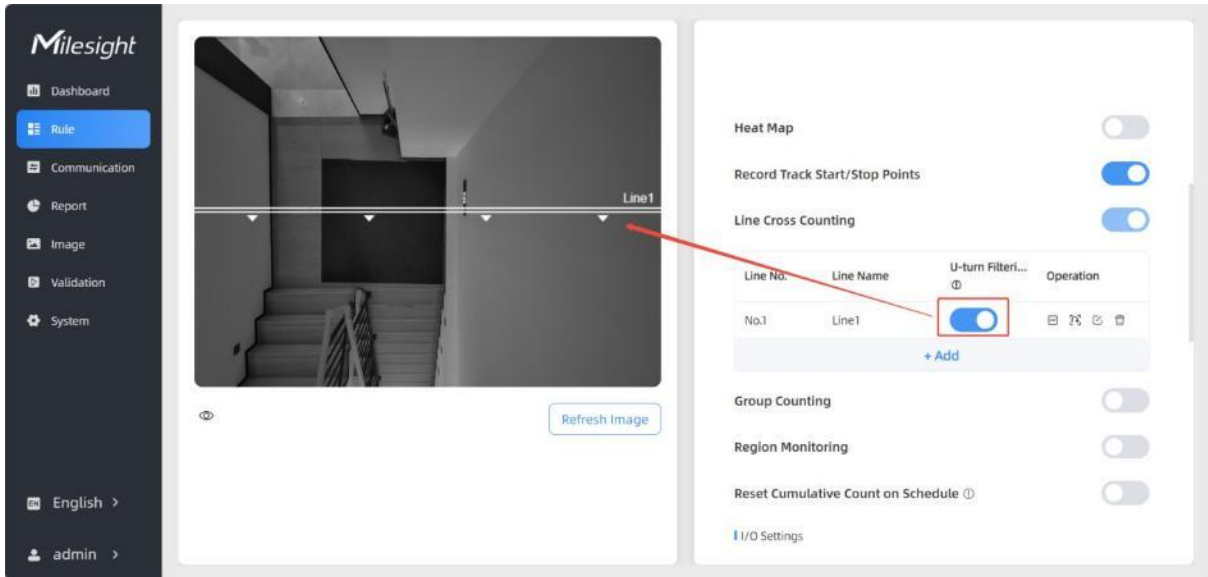


前提条件：

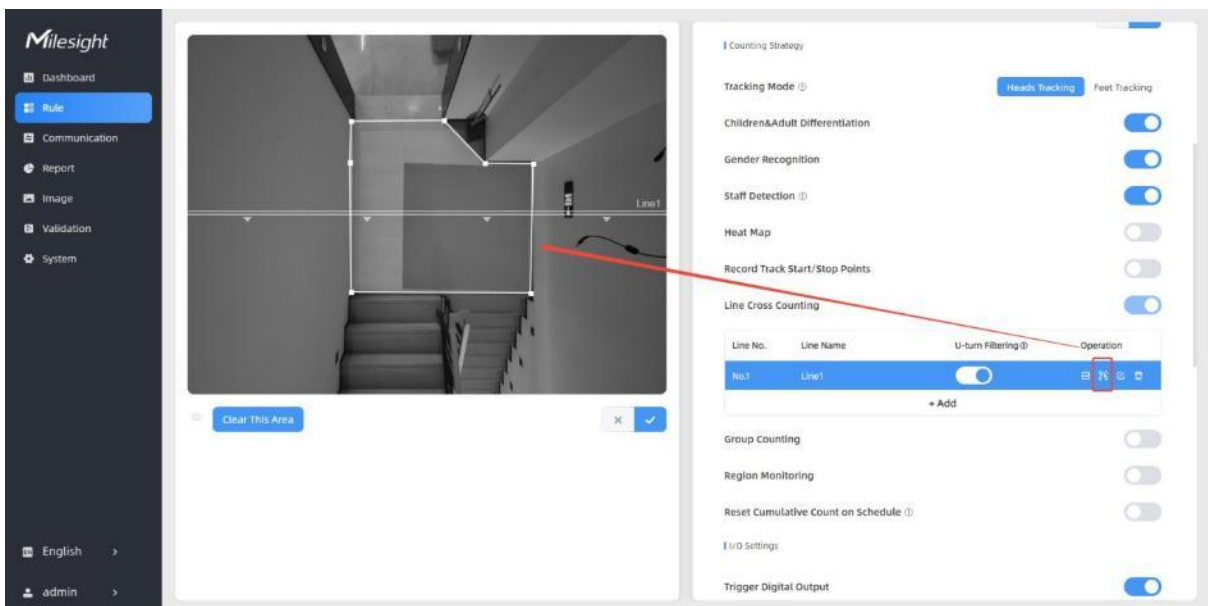
**[Rule]** ページの **[ライン横断カウント]** エリアに検知ラインが追加されていること。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックしてください。
2. 「Line Crossing Counting」エリアで、「U-turn Filtering」を有効にし、重複したカウントを除外します。




3. をクリックして をクリックして、プレビュー内の検出ライン用にUターン領域を描画します。



4. (オプション) 検出ラインの U ターン領域を描画します。最大 4 つの領域を描画でき、各領域につき最大 10 個の線分を使用できます：

- a. 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。
- b. 左クリックして頂点を追加し、方向を変更して、ドラッグして別の線分を描画します。
- c. 必要に応じて、手順 b を繰り返して、さらに線分を描画してください。
- d. 右クリックして完了します。
- e. (任意) ドラッグして領域を調整します。
- f. (オプション) 領域を再描画するには、「Clear This Region」をクリックします。

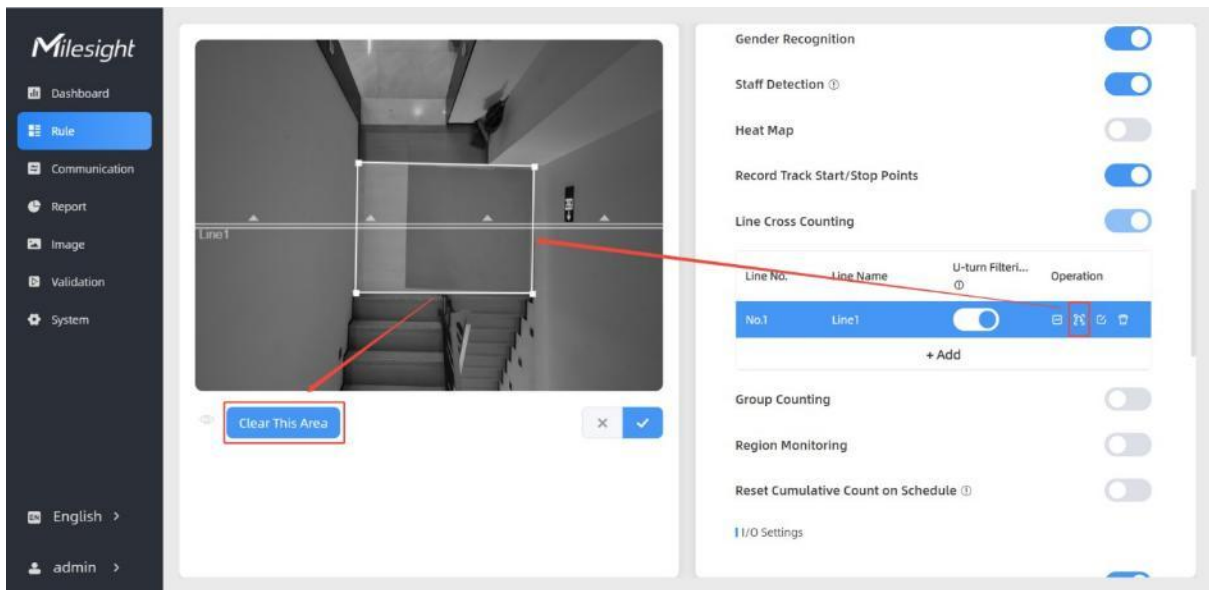
g. [  ] をクリックしてをクリックして設定を保存します。



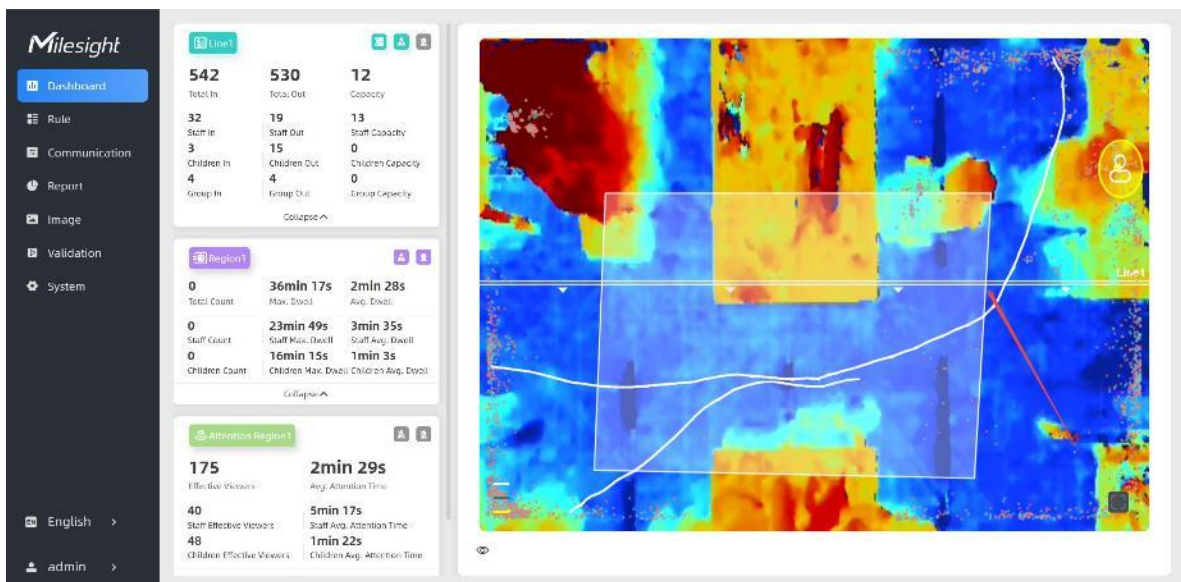
注：

移動経路が完全に含まれていることを確認してください。

5. (オプション) Uターンエリアを削除するには、をクリックし、「Clear This Area」をクリックします。



6. 視覚的な設定効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックします。



## エリア監視の設定

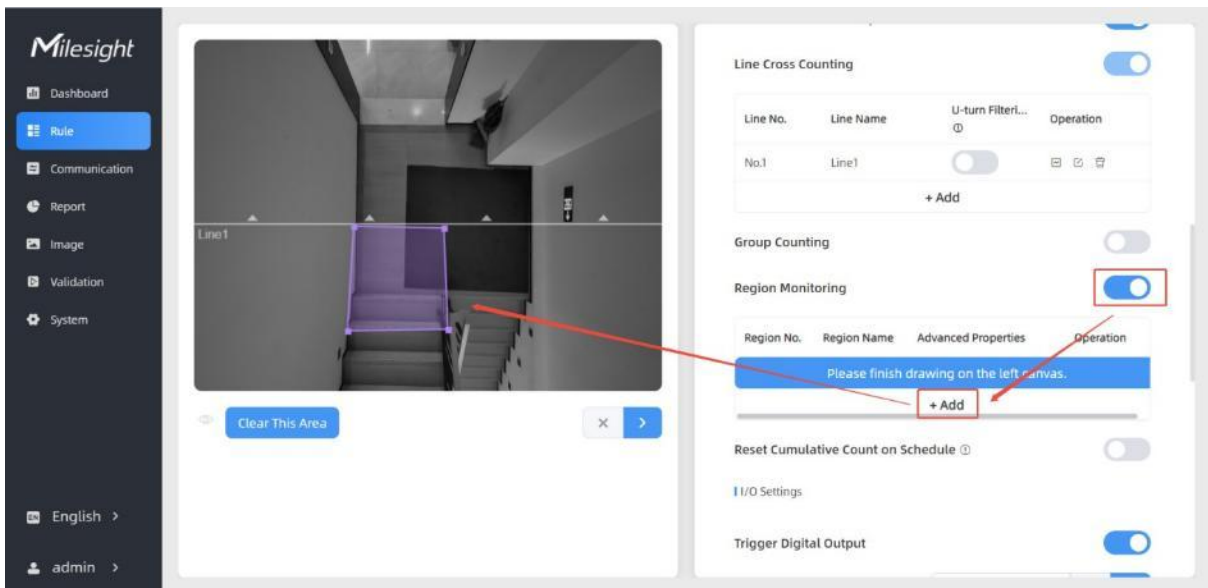
本デバイスは、設定されたエリア内の人数や滞在時間を追跡することでエリア監視に対応し、有益な分析データを生成します。このセクションでは、エリア監視の設定方法について説明します。

### 前提条件：

デプロイメントパラメータとデバイス戦略が設定済みであること。

### 手順：


1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[ルール]** をクリックします。
2. 右側の「Area Surveillance」を有効にし、「+Add」をクリックします。






3. ライブビュー上で監視対象の領域を描画してください。最大4つの領域を描画でき、各領域につき最大9本の線分を使用できます：
  - a. 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。
  - b. 左クリックして頂点を追加し、方向を変更してからドラッグして、別の線分を描画します。
  - c. 必要に応じて、手順 b を繰り返して、さらに線分を描画します。
  - d. 右クリックして終了します。
  - e. (オプション) ドラッグして領域を調整します。
  - f. (任意) 領域を再描画するには、「Clear This Region」をクリックしてください。
4. **[>]** をクリックします。 **[Advanced Properties]** ダイアログボックスが表示されます。

5. 詳細プロパティのパラメータを設定します。
  - a. [Zone name] エリアで、領域名をカスタマイズします。
  - b. 少なくとも 1 つの詳細プロパティを有効にしてください。オプション：「People Counting」および「Dwell Time Detection」。
  - c. 必要に応じて、以下の動作を行ってください。




If	実行
If Region People Counting is enabled	[通過フィルタリング] テキスト ボックスに、必要に応じて値を入力してください。
If Dwell Time Detection is enabled	「Minimum Stay Duration」 テキストボックスに、必要に応じて値を入力してください。




- d. 「」をクリックして設定を保存します。リージョン情報は右側のリストに表示されます。

No.	Region Name	Advanced Properties	Operation
No.1	Region1	Region People Counting(5s)	  
+ Add			

れます。

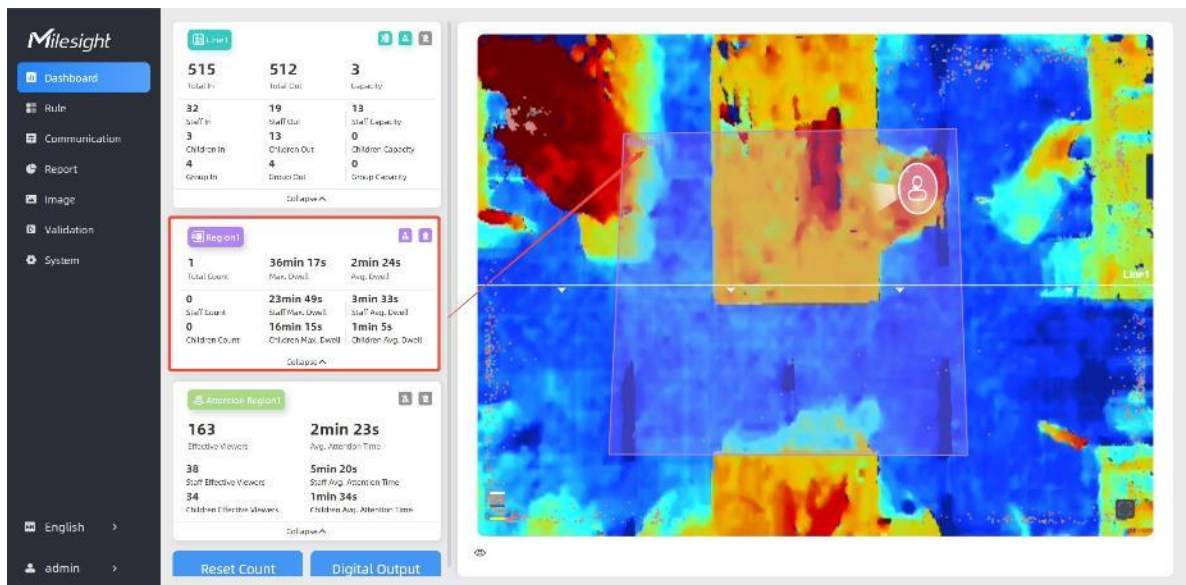
6. (オプション) 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

- 領域を再描画するには、 をクリックします。
- リージョンの詳細プロパティを変更するには、 をクリックします。
- その領域を削除するには、 をクリックしてください。

Region Monitoring <span style="float: right;">[Toggle]</span>			
No.	Region Name	Advanced Properties	Operation
No.1	Region1	Region People Counting(5s)	  
+ Add			

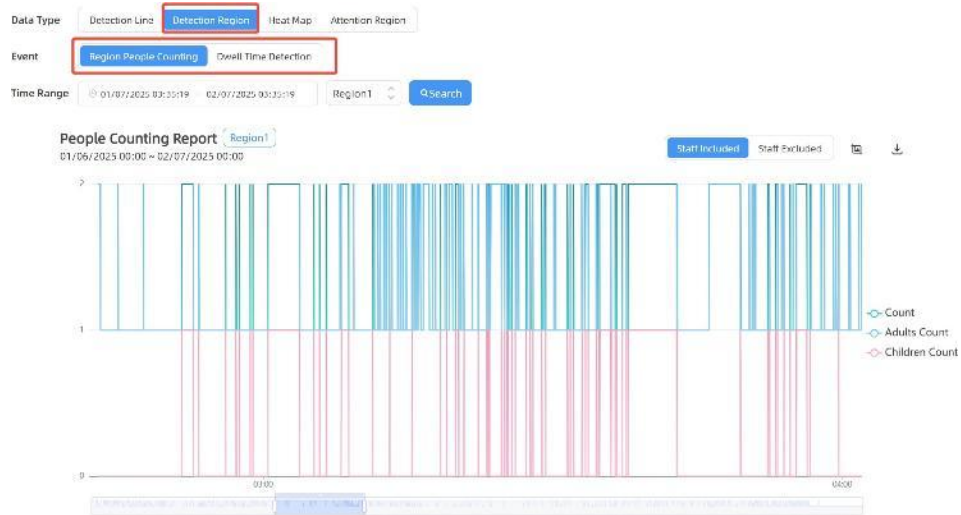
7. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：

- 視覚的な設定の効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。



The screenshot displays the Milesight web interface. On the left is a navigation menu with 'Dashboard' selected. The main content area shows several data cards: 'Level 1' with counts for Total In, Staff In, Children In, and Groups; 'Region1' with metrics for Total Count, Staff Count, and Children Count; and 'Attention Region1' with metrics for Effective Viewers, Staff Effective Viewers, and Children Effective Viewers. At the bottom are 'Reset Count' and 'Digital Output' buttons. On the right is a heatmap map with a red box highlighting a region and a red arrow pointing from the 'Region1' card to it.

- 「レポートの作成」特定の期間の地域データを表示し、対応するレポートを作成するには、左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックしてください。詳細については、「レポートの作成」を参照してください。



- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。  
「region\_data」については、「定期レポート用のアップリンクデータ例」を参照してください。  
「region\_trigger\_data」については、「リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例」を参照してください。

```

"region_data": {
  "dwell_time_data": [{
    "avg_dwell_time": 308367,
    "children_avg_dwell_time": 0,
    "children_max_dwell_time": 0,
    "female_avg_dwell_time": 0,
    "female_max_dwell_time": 519934,
    "male_avg_dwell_time": 0,
    "male_max_dwell_time": 96799,
    "max_dwell_time": 519934,
    "staff_max_dwell_time": 1522,
    "staff_avg_dwell_time": 1522,
    "region": 1,
    "region_name": "Region1",
    "region_uuid": "bd1e6ce2-e113-4ce4-a9b6-0633f7083cac"
  }
],
  "region_count_data": [{
    "total": {
      "current_female": 0,
      "current_male": 1,
      "current_total": 2
    },
    "children": {
      "current_female": 0,

```

```

"region_trigger_data":
{
  "region_count_data":
[
  {
    "total": {
      "current_female": 0,
      "current_male": 1,
      "current_total": 2
    },
    "children": {
      "current_female": 0,
      "current_male": 1,
      "current_total": 2
    },
    "staff": {
      "current_female": 0,
      "current_male": 1,
      "current_total": 2
    },
    "region": 1,
    "region_name": "Region1",
    "region_uuid": "bd1e6ce2-e113-4ce4-a9b6-0633f7083cac"
  }
]
}

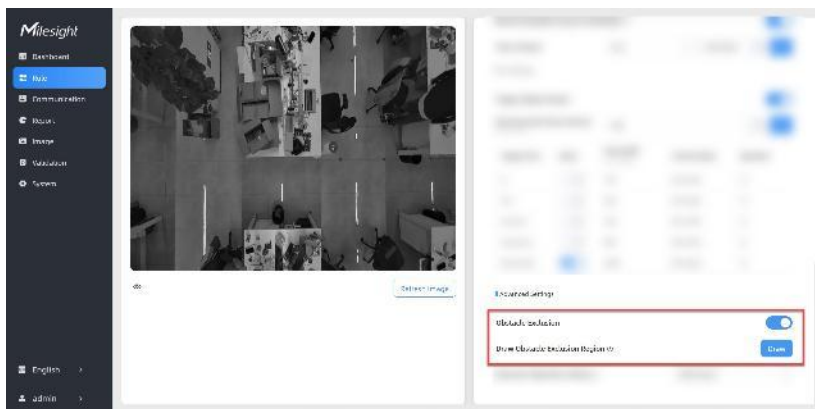
```

## 障害物除外機能の設定

本デバイスは障害物除外機能に対応しています。検知ラインや検知領域の調整によって回避できない、人間のような静止障害物を検知対象から除外することができます。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[Rule]** をクリックします。
2. 右下の「Advanced Settings」エリアで、「Obstacle Exclusion」を有効にし、「Draw」をクリックします。



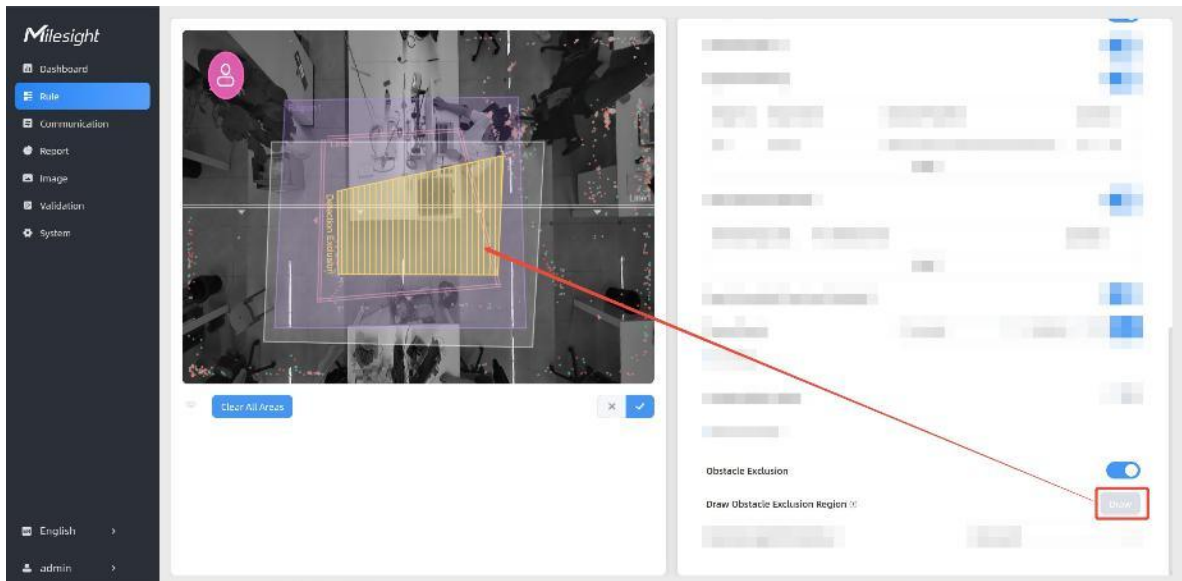
3. 障害物除外領域を描画します。最大4つの領域を描画でき、各領域につき最大10個のセグメントを設定できます：
  - a. 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。
  - b. 左クリックして頂点を追加し、方向を変更して、ドラッグして別の線分を描画します。
  - c. 必要に応じて、手順 b を繰り返して、さらに線分を描画してください。
  - d. 右クリックして完了します。
  - e. (任意) ドラッグして領域を調整します。
  - f. (オプション) 領域を再描画するには、「Clear This Region」をクリックします。
  - g. 除外方法を選択してください：

- **Detection Exclusion検知除外**：このエリアを検知したくない場合は、こちらを選択してください。障害物の最も高い部分を描画するだけで結構です。本機はこの最も高い部分を基準として、この特定のエリアを自動的に除外します。

例えば、棚を撮影する場合、棚の上端を枠で囲むだけで、棚が誤って人物として検出されるのを防ぐことができます。

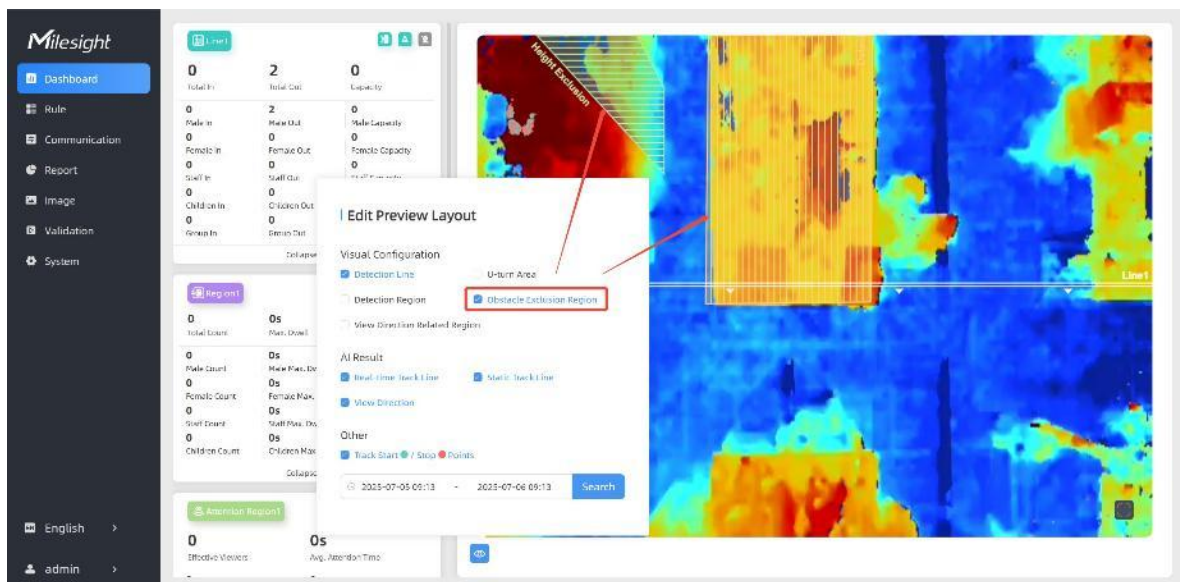
- 「Height Exclusion」：障害物とターゲットが混在することで誤検出が発生するのを防ぎたい場合に選択してください。ターゲットと混同しやすい部分を囲んで除外することができます。

例えば、ゲートを通るシーンでは、誤分類を防ぐためにゲートの構造を輪郭で囲むことができます。これにより、たとえ子供のシルエットがゲートの構造と重なって



しまっても、通過する子供が大人として識別されることを防ぐことができます。

4. [Save]をクリックしてをクリックして設定を保存します。
5. 視覚的な設定の効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから [Dashboard] をクリックしてくださ



い。

## 属性認識機能の設定

**基本カウント機能の設定** 本デバイスはAI認識機能を活用し、さまざまな対象物の属性をインテリジェントに識別します。これらの機能をご利用になる前に、「**Configure Basic Counting Functions**」のセクションに従って、基本カウント機能をあらかじめ設定しておく必要があります。

### 「Children & Adult Differentiation」の設定

本装置は、子供フィルタの閾値を下回る個人を子供として分類します。このセクションでは、**Children&Adult Differentiation**子供と大人の識別機能の設定方法について説明します。

#### 制限事項：精度に影響を与える制御不能な要因

以下の子供に関連する状況では、カウント数が過少になる可能性があり、本機能の検出精度に影響を与える場合があります：

- 身長1.1 m未満の子供
- ベビーカーやショッピングカートに乗っている子供
- 抱っこされている子供
- 大人によって視界が遮られている子供

#### Applicable Installation Height 設置可能高さ：2.2～4 m

手順：

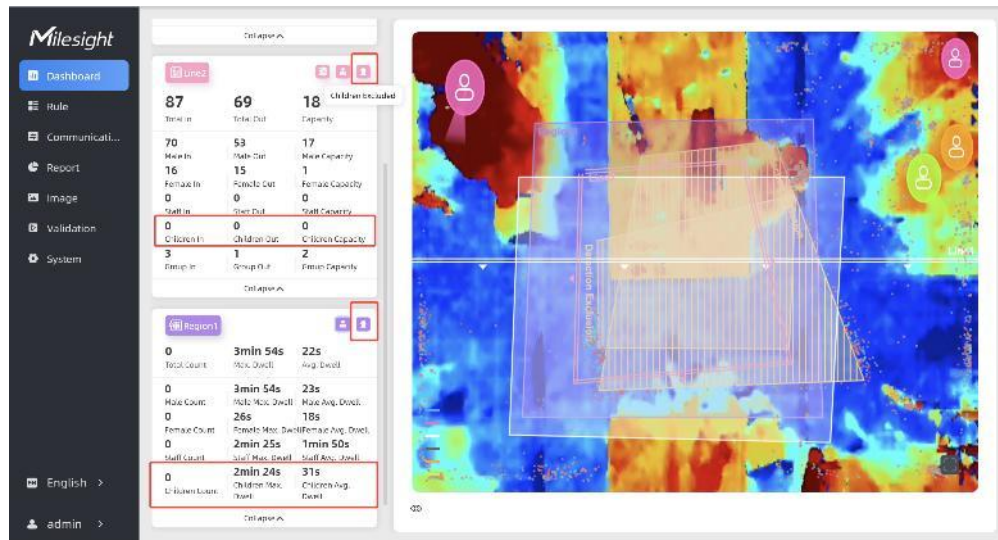
1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 「Children & Adult Differentiation」を有効にします。「Children Filter Height」パラメータが「Deployment Parameters」エリアに「Child Filter Height」パラメータが表示されます。

The screenshot shows the 'Deployment Parameters' section of a configuration interface. It includes several input fields for height-related parameters:

- Installation Height** (mm(2000-6000)): 2459
- Max. Target Height** (mm(500-3000)): 1998
- Min. Target Height** (mm(500-3000)): 1000
- Child Filter Height** (mm(500-3000)): 1500 (highlighted with a red box and a red arrow)

Below these fields is the 'Counting Strategy' section, which includes a 'Tracking Mode' dropdown set to 'Heads Tracking' and a 'Children&Adult Differentiation' toggle switch that is turned on (highlighted with a red box).

3. 「Child Filter Height」テキストボックスに閾値を入力し、「」をクリックして設定を保存します。デバイスは、この値未満で検出された個人をすべて子供として分類します。
4. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：
  - 視覚的な設定の効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。



- **レポートの生成** 特定の期間の子データを表示し、対応するレポートを生成するには、左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックしてください。詳細については、「レポートの生成」を参照してください。



- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。詳細については、「定期レポート用のアップリンクデータ例」および「リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例」を参照してください。

## 性別認識の設定

本デバイスは性別認識機能に対応しており、外見や服装のスタイルに基づいて、その人物が男性か女性かを判別することができます。このセクションでは、**性別認識機能**の設定方法について説明します。

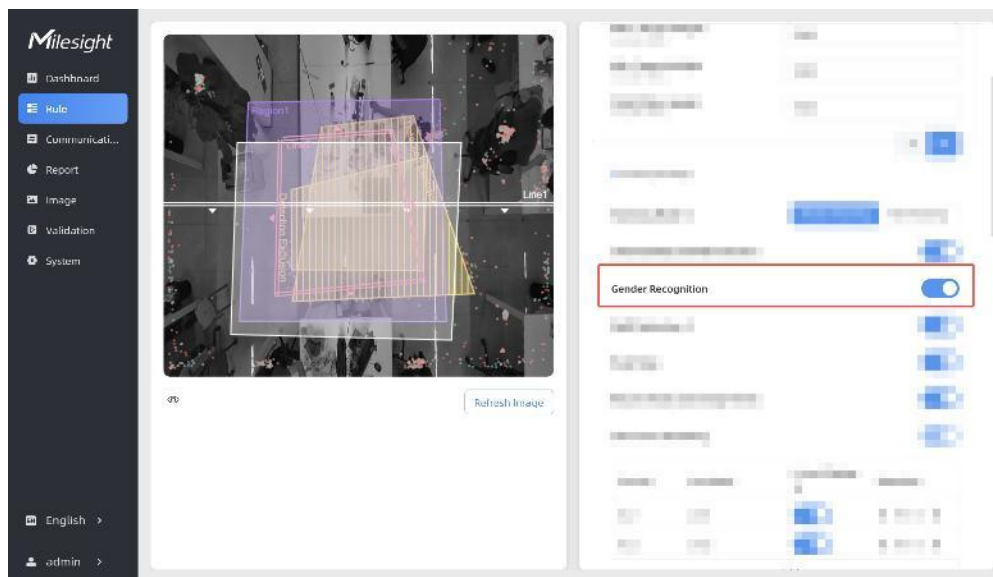
### 制限事項：精度に影響を与える制御不能な要因

- 標的の髪型は、一般的な性別のイメージとは対照的です（例：男性の長い髪、女性の短い髪など）。
- 被験者の髪や服の色は、床の色に近いものです。
- 対象者は、大きな覆いとなるアクセサリ（例：ヘッドスカーフなど）を身につけています。
- 通過速度が2.5 m/sを超えると、検知し損ねる可能性があります。

設置可能高さ：2.2～4 m

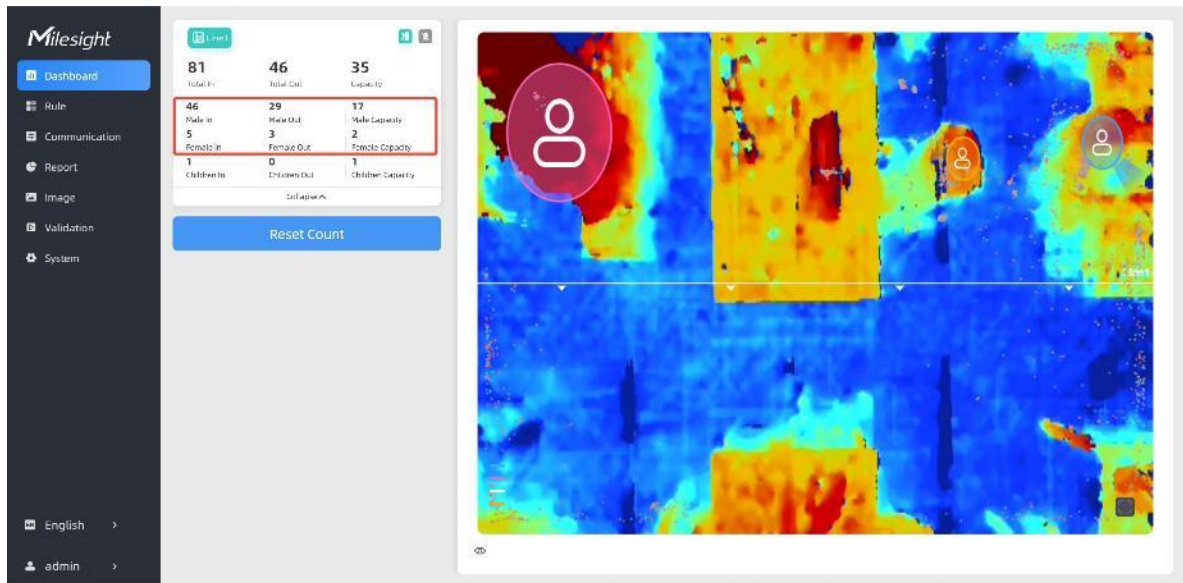
手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。

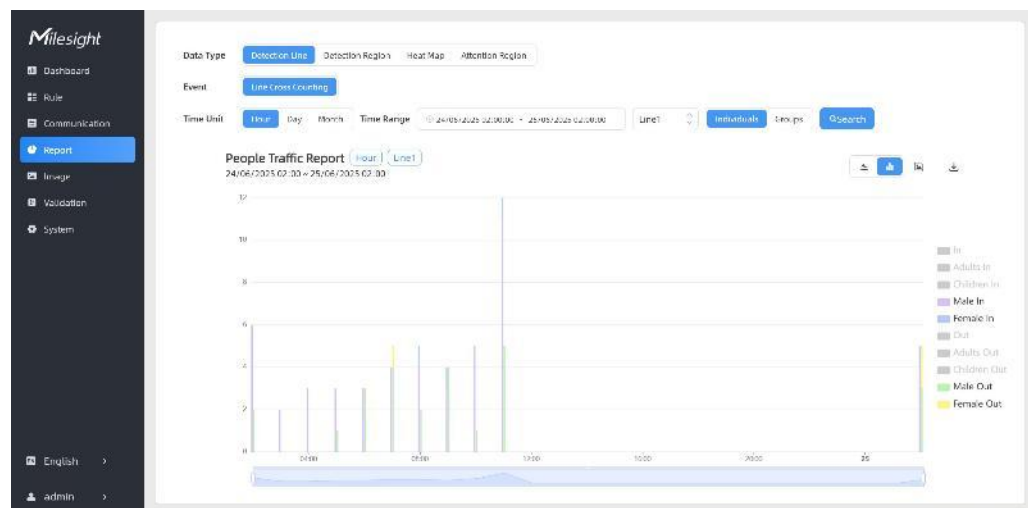


2. 「Gender Recognition」を有効にします。
3. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：

- 。視覚的な設定効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。



- 。レポートの作成」特定の期間の性別別データを表示し、対応するレポートを作成するには、左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックしてください。詳細については、「レポートの作成」を参照してください。



- 。受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。詳細については、「定期レポート用のアップリンクデータ例」および「リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例」を参照してください。

## スタッフ検出の設定

本デバイスは、指定されたアクセサリを装着している要員を識別することで、スタッフ検出に対応しています。このセクションでは、スタッフ検出機能の設定方法について説明します。

**制限事項：精度に影響を与える制御不能な要因**

- 2人が並んで歩いている場合、この装置は、スタッフ用のアクセサリーを身につけていない人を誤ってスタッフと判定し、一方でアクセサリーを身につけている実際のスタッフを認識できないことがあります。
- スタッフのストラップに似た模様（縞模様など）のある衣類は、誤検知の原因となる可能性があります。
- 通過速度が2.5 m/sを超えると、検知漏れが発生する可能性があります。

#### スタッフのアクセサリーに関する要件：

スタッフ用アクセサリーに関する詳細な要件については、以下の表をご参照ください。

Item	要件
Accessory selection	<p>Milesightが提供するスタッフ用アクセサリーのご使用をお勧めします。</p> <p>スタッフ用アクセサリーは、黒と赤の2色をご用意しております。暗い色のスタッフ制服に対して最適な検知を行うため、赤色のアクセサリーの使用をお勧めします。</p>
Usage specifications	<p>スタッフ用アクセサリー（ネックストラップ、バッジ、肩章）は、それぞれ個別にテストを行う必要があり、同時に使用してはなりません。</p> <p>同一のシーンにおいて、複数の種類のアクセサリーを同時に使用することは禁止されています。</p>
Wearing requirements	<p>アクセサリーを着用する際は、襟、スカーフ、髪、その他の物によって隠れることなく、常に完全に視認できる状態でなければなりません。</p> <p>スタッフは、指定された場所にこれらのアクセサリーを着用しなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スタッフ用ストラップ：首にかけてください。</li> <li>• スタッフバッジ：胸の上部の片側に付けてください。</li> <li>• スタッフ用肩章：両肩につけてください。</li> </ul>

設置可能高さ：2.2～4 m

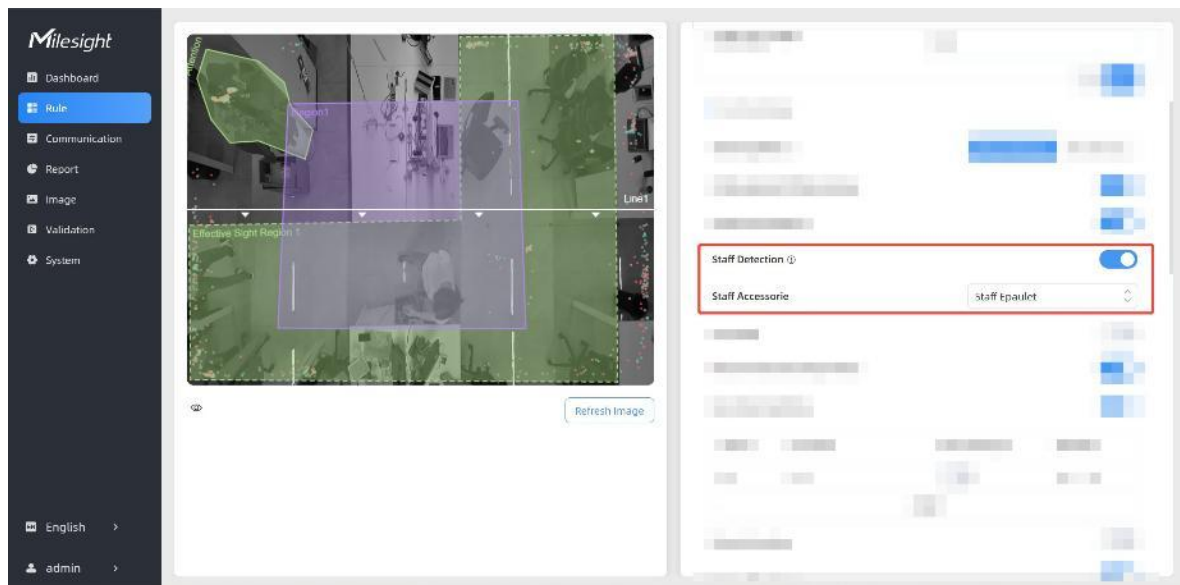


注：

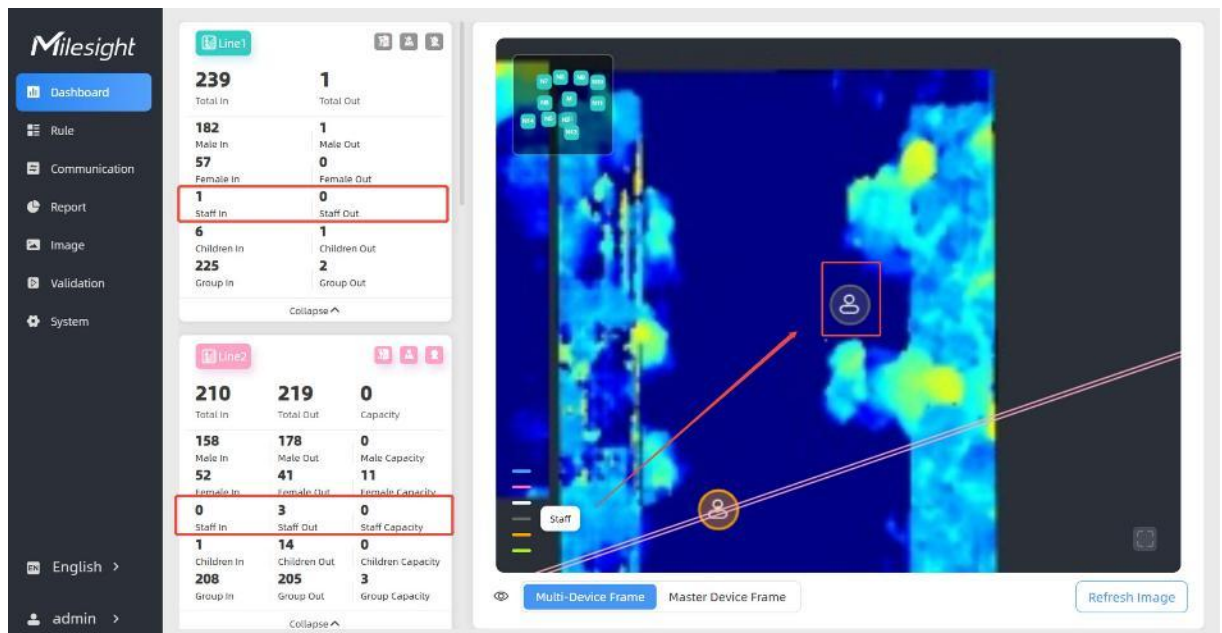
3.5 mを超える高さでのバッジ検知については、画像の鮮明度が低下するため、検知精度が大幅に低下します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 「Staff Detection」を有効にし、対応するアクセサリーを選択します。



3. 「Staff Detection Accessory」のドロップダウンリストから、スタッフ検出用のアクセサリーを選択してください。
4. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：
  - 視覚的な設定効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。



- 特定の期間のスタッフデータを表示し、対応するレポートを生成するには、**[Report]** 左側のナビゲーションツリーからレポートを作成します。詳細については、「レポートの生成」を参照してください。

Data Type: **Detection Line** | Detection Region | Heat Map | Attention Region

Event: **Line Cross Counting**

Time Unit: **Hour** | Day | Month | Time Range: 22/06/2025 08:00:00 - 23/06/2025 08:00:00 | Line1 | **Individuals** | Groups

People Traffic Report **Hour** | Line1

22/06/2025 08:00 ~ 23/06/2025 08:00

**Staff Included** | Staff Excluded

- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。詳細については、「[定期レポート用のアップリンクデータ例](#)」および「[リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例](#)」を参照してください。

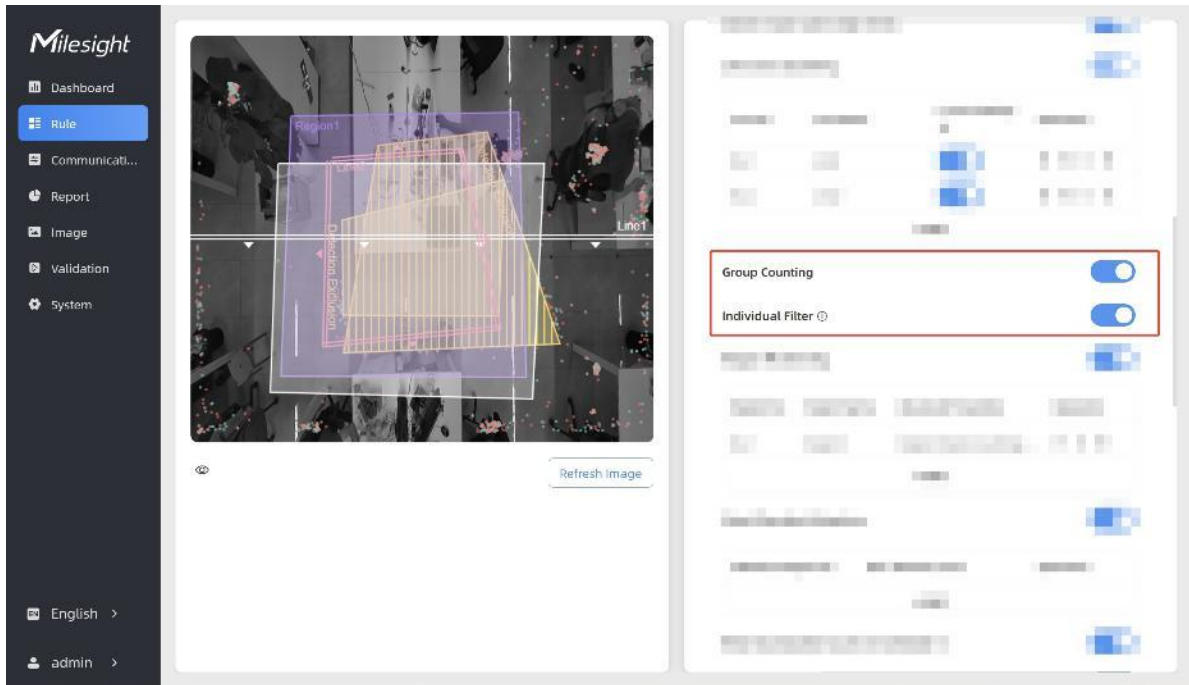
## グループカウントの設定

本装置は、検知エリア内での複数人の認識およびカウントに対応しています。人の間隔、移動方向、速度の違いを分析することで、高度な顧客行動分析を提供します。グループカウント機能は、ライン横断検知機能に基づいて構築されています。このセクションでは、**Group Counting**グループカウント機能の設定方法について説明します。

設置可能高さ：2.2～6 m

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。



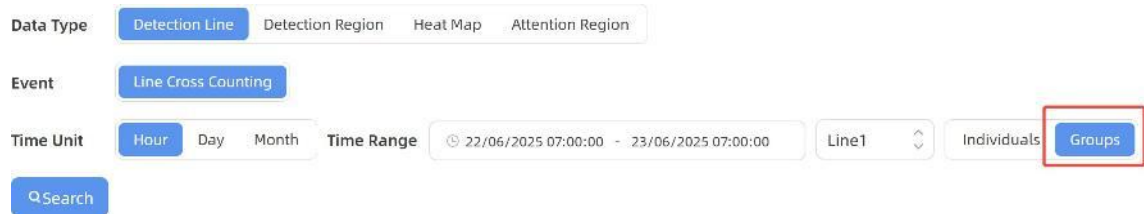
2. 「グループカウント」機能を有効にしてください。本デバイスは、個人および2人以上のグループをすべて「Group」として分類します。
3. (オプション) 2人以上のグループのみをグループとして分類するには、「個人フィルター」を有効にしてください。有効にすると、個人はグループとしてカウントされなくなります。
4. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：
  - ・視覚的な設定の効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。

Line2		
<b>171</b> Total In	<b>136</b> Total Out	<b>35</b> Capacity
<b>138</b> Male In	<b>110</b> Male Out	<b>28</b> Male Capacity
<b>32</b> Female In	<b>25</b> Female Out	<b>7</b> Female Capacity
<b>0</b> Staff In	<b>0</b> Staff Out	<b>0</b> Staff Capacity
<b>0</b> Children In	<b>0</b> Children Out	<b>0</b> Children Capacity
<b>10</b> Group In	<b>2</b> Group Out	<b>8</b> Group Capacity

Collapse ^

- 特定の期間のグループデータを表示し、対応するレポートを生成するには、左側のナビゲーションツリーから

[レポートの生成](#) 左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックしてください。詳細については、「レポートの生成」を参照してください。



- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。詳細については、「[定期レポート用のアップリンクデータ例](#)」および「[リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例](#)」を参照してください。

## 受信方向検出の設定

本デバイスは「View Direction Detection」機能を対応しています。ターゲットの視線軌跡を追跡し、広告のリーチ・スルーを効果的に評価します。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。

設置可能な高さ：

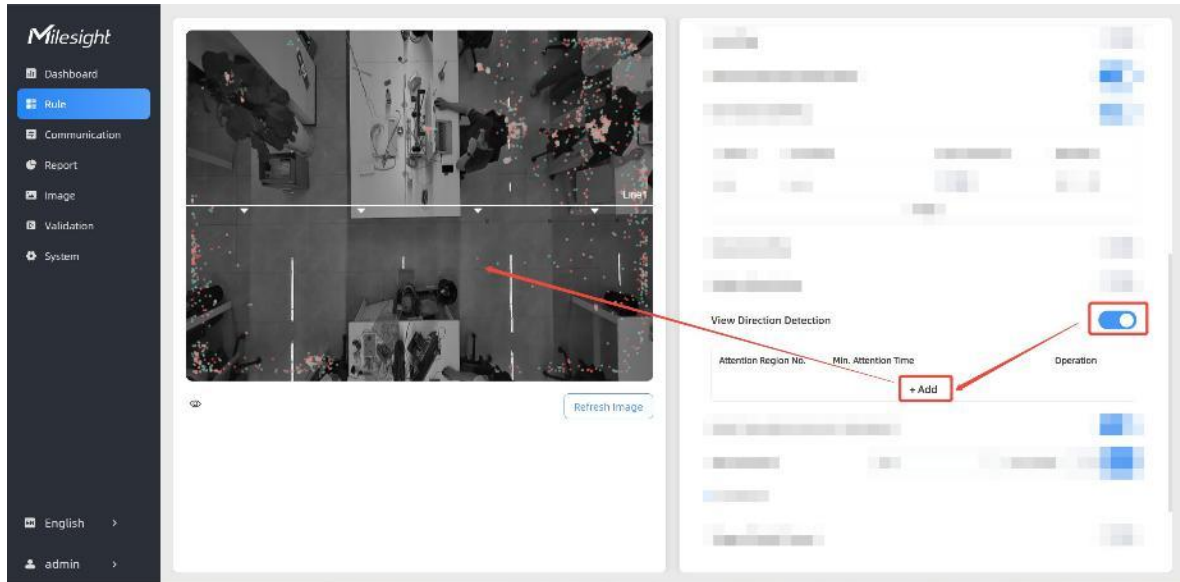
適用設置高さ：2.2～4 m

前提条件：

- 追跡モードが「ヘッドトラッキング」に設定されていること。
- 動作モードが「スタンドアロン」に設定されていること。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 右側の「View Direction Detection」を有効にし、「+Add」をクリックします。「How-to Settings」情報ボックスが表示されます。



3. 手順を確認し、クリックしてください  をクリックしてください。

## | How-to Settings

### Step 1

Please draw the Attention Region based on advertisement or shelf shape.



### Step 2

Please draw the Effective Sight Region without being blocked by obstacles.



### Step 3

Please configure the Min. Attention Time for people to focus on the Attention Region.




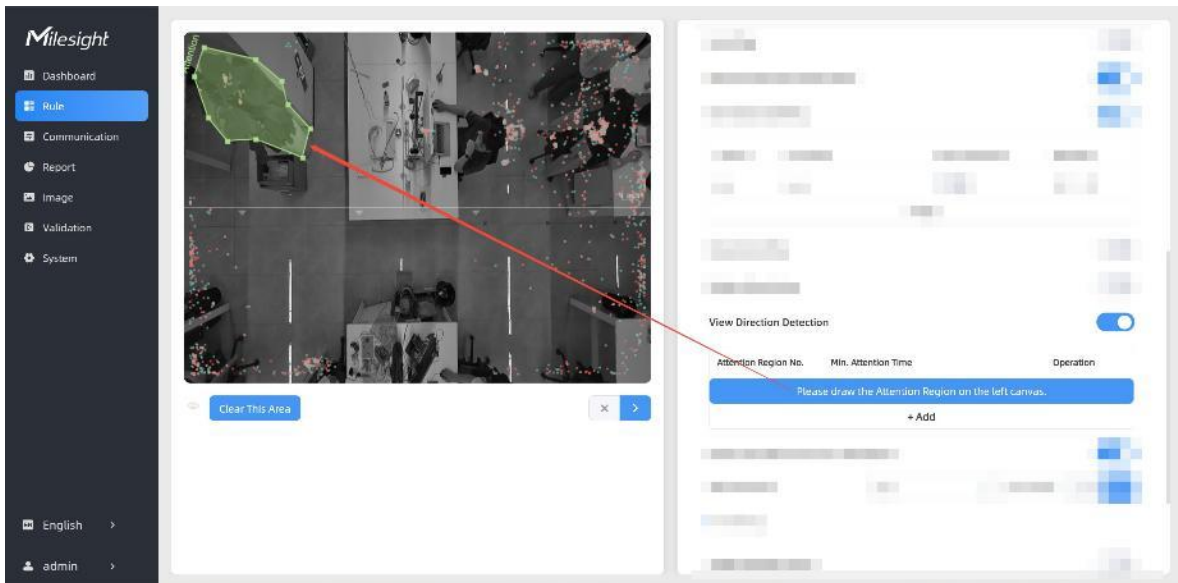
Do not remind me again



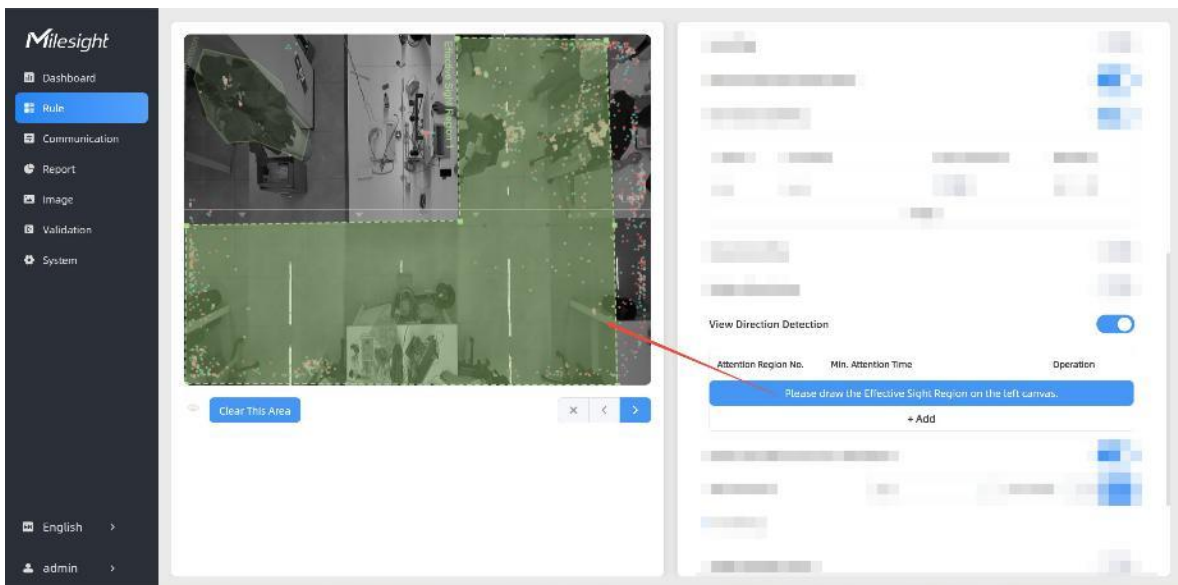
4. 顧客エンゲージメントレベルの分析が必要な注目領域を描画します。最大6つの領域を描画でき、各領域につき最大10本の線分を使用できます：
- 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。
  - 左クリックして頂点を追加し、方向を変更してから、ドラッグして別の線分を描画します。
  - 必要に応じて、手順 b を繰り返して、さらに線分を描画します。
  - 右クリックして終了します。
  - (オプション) ドラッグして領域を調整します。

f. (オプション) 領域を再描画するには、「Clear This Region」をクリックします。

g.  「」をクリックします。



5. ステップ4と同じ手順に従って有効な視認領域を描画すると、最大6つの領域を作成でき、各領域につき最大10本の線分を使用できます：



この領域内の個人は、すべて、注目領域を遮るものなく見渡せる必要があります。

設定が完了すると、デバイスは以下のロジックに基づき、有効視界領域内の視線方向を分析します：

- 有効な視聴者：注目時間が「最小注目時間」を超えているターゲット
  - 蓄積開始：視線が注目領域と1秒以上重なったとき
  - 蓄積の一時停止：視線が注目領域の外へ移動した場合
6. 「>」をクリックします。「詳細プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

### Advanced Properties

**Min. Attention Time**  
s(1-60)

× ✓

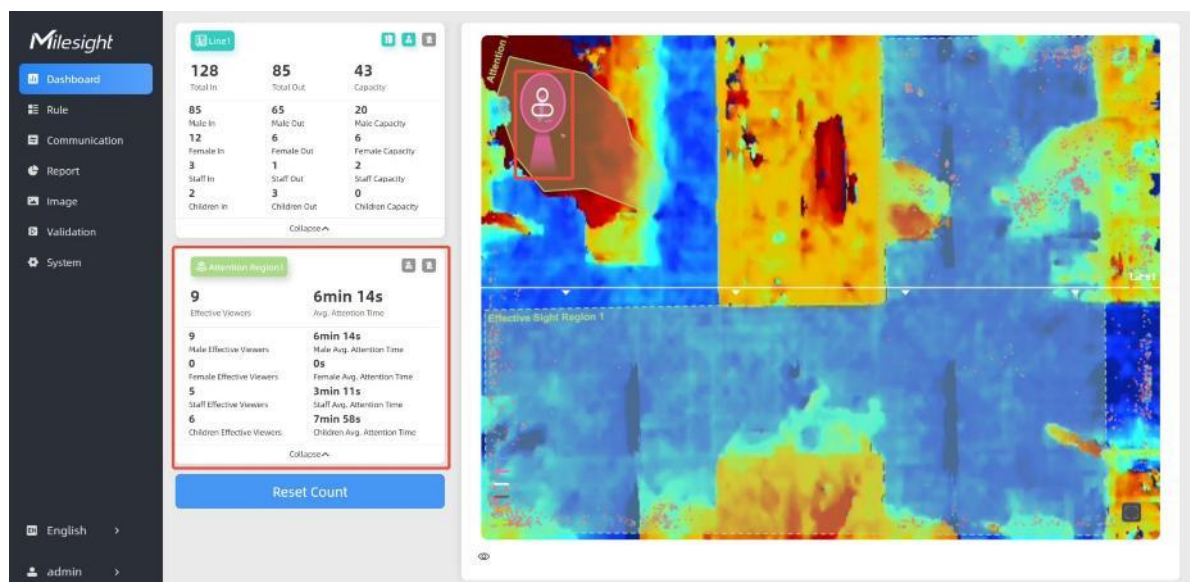
7. 「Min. Attention Time」を設定し、「✓」をクリックして設定を保存します。これにより、対象者の視線が指定した値以上、注目領域に留まっている場合、その対象者を有効な視聴者として識別するようになります。

8. 設定を確認するには：

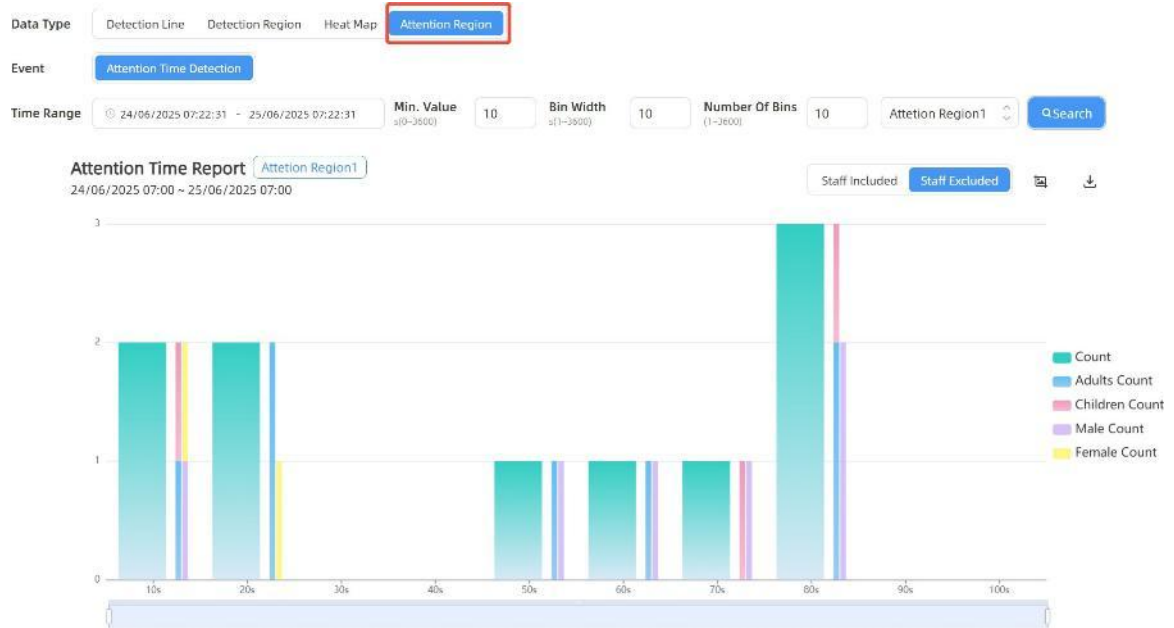
- 有効な視線領域に立ち、注目領域の方を見ます。
- ダッシュボード上のリアルタイム追跡を確認します。
- 視線の方向が正確に表示されていることを確認してください。
- ターゲットを見つめているときに、注視時間が蓄積されることを確認してください。

9. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：

- 視覚的構成効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。



- **レポートの作成** 特定の期間の注目領域データを表示し、対応するレポートを作成するには、左側のナビゲーションツリーから「**Report**」をクリックしてください。詳細については、「レポートの作成」を参照してください。



- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。  
「`attention_region_total_data`」については、「[定期レポート用のアップリンクデータ例](#)」を参照してください。「`attention_region_trigger_data`」については、「[リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例](#)」を参照してください。

## デジタル出力トリガーの設定

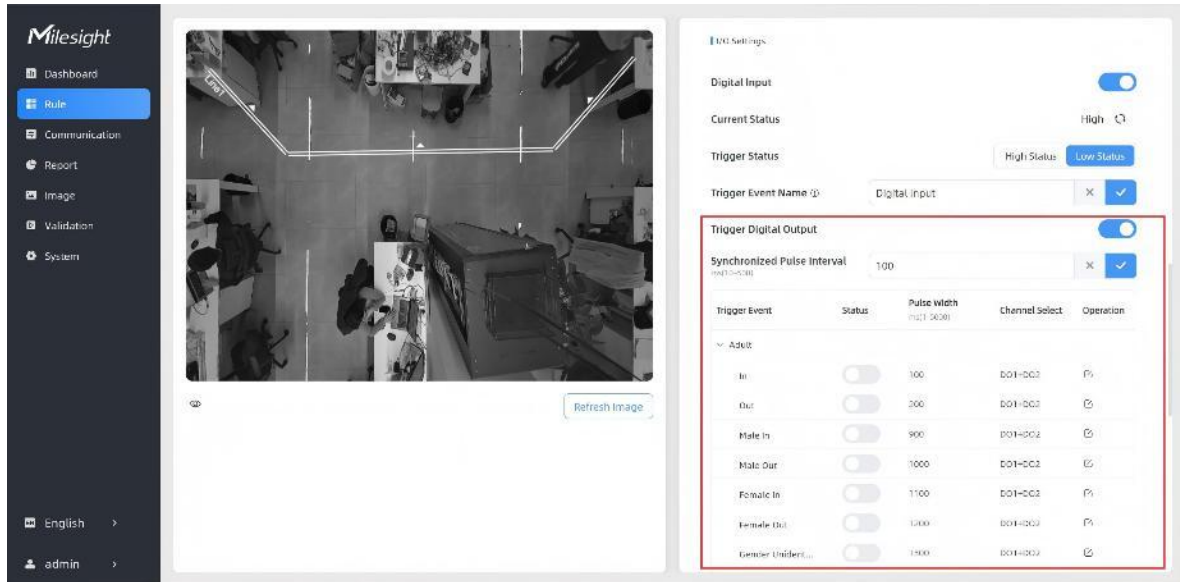
「デジタル出力トリガー」機能が有効になっている場合、ターゲットが検出ラインを通過した際に、デバイスはパルス信号を送信できます。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。


### 前提条件：

[配線図](#)に従い、マルチインターフェースケーブルを使用して、本機を対応する外部機器に接続してください。

### 手順：




1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**Rule**」をクリックします。
2. 右側の「**I/O Settings**」エリアで、「**Trigger Digital Output**」を有効にしてください。



3. 「**Synchronized Pulse Interval同期パルス間隔**」テキストボックスに値を入力し、 をクリックします。



Parameters	説明
<b>Synchronized Pulse Interval</b>	複数の人が通過したり、複数のイベントが同時にトリガーされたりした場合の、複数のパルス間隔です。

4. 特定のトリガーイベントを有効にします。各パラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

-  をクリックしてください。
- イベントについては、 をクリックしてください。
- パルス幅を設定します。
- [Channel Select]** ドロップダウンリストからチャンネルを選択してください。
- クリック  。デバイスは、マルチインターフェースを介して自動的にハイレベル信号を出力します。

Trigger Event	Status	Pulse Width ms(1-5000)	Channel Select	Operation
▼ Adult				
In	<input type="checkbox"/>	100	DO1+DO2	
Out	<input type="checkbox"/>	200	DO1+DO2	
Male In	<input type="checkbox"/>	900	DO1+DO2	
Male Out	<input type="checkbox"/>	1000	DO1+DO2	
Female In	<input type="checkbox"/>	1100	DO1+DO2	
Female Out	<input type="checkbox"/>	1200	DO1+DO2	
Gender Unident...	<input type="checkbox"/>	1300	DO1+DO2	
Gender Unident...	<input type="checkbox"/>	1400	DO1+DO2	
> Children				
▼ Staff				
In	<input type="checkbox"/>	500	DO1+DO2	
Out	<input type="checkbox"/>	600	DO1+DO2	
Manual DO	<input checked="" type="checkbox"/>	5000	DO1+DO2	

Parameters	説明
Trigger Event	<p>DOがパルス信号を送信するようにトリガーするイベントです。</p> <p> 注： スタッフイベントによってパルス信号がトリガーされた場合、本装置は性別または成人検知イベントに対する同期出力を開始しません。</p>
Status	パルス信号の出力をトリガーするイベントを有効または無効にします。
Pulse Width	パルス信号の持続時間。

Parameters	説明
Channel Select	パルス信号を出力するDOポートを選択します。
Operation	  をクリックして、上記のパラメータを編集します。

## デジタル入力の設定

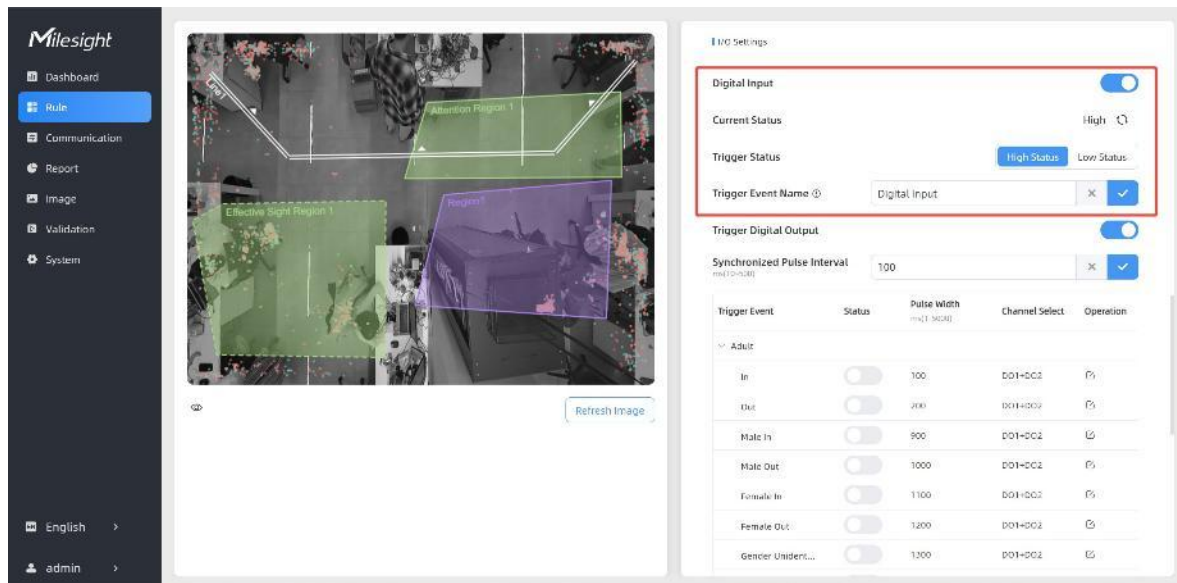
デジタル入力機能が有効になっている場合、本デバイスはDIポートを介して、外部デバイス（ボタンやセンサーなど）からのハイレベルおよびローレベルの信号を収集することができます。これらの外部からの物理信号はデジタル信号に変換され、本デバイスが外部イベントを監視できるようになります。

### 前提条件：

[配線図](#)に従い、マルチインターフェースケーブルを使用して本機を外部機器に接続してください。

### 手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 右側の「I/O Settings」エリアで、「デジタル入力」を有効にします。



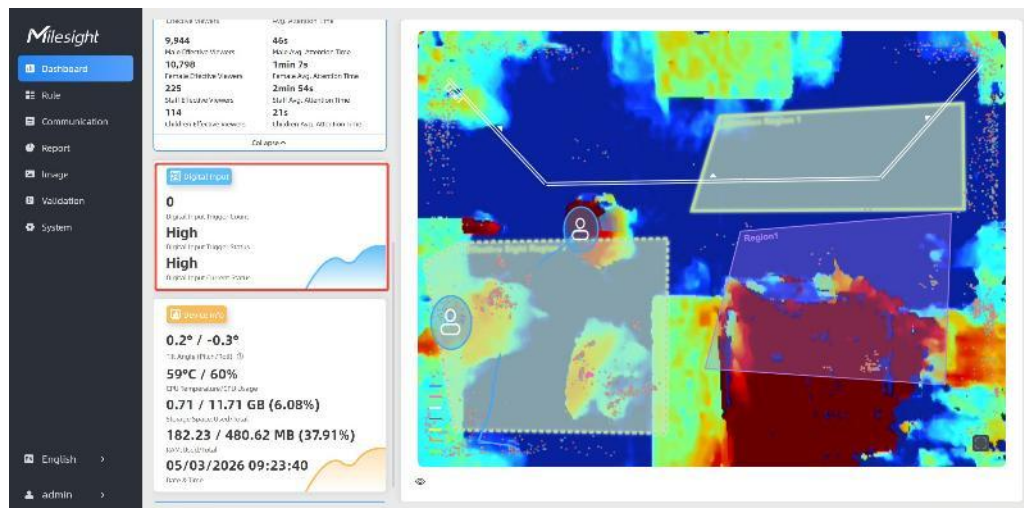
3. 必要に応じて、以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Current Status	DI インターフェースのステータスを表示します。

Parameters	説明
Trigger Status	<p>オプション : <b>High Status</b>、<b>Low Status</b>。</p> <p>トリガーステータスが現在のステータスと同じ場合のみ、デバイスはデータをカウントします。</p> <p>デフォルトでは、2つの接点が接続されている状態が「低レベル」、2つの接点が切断されている状態が「高レベル」となります。</p>
Trigger Event Name	トリガーイベント名をカスタマイズします。

4. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください :

- DI設定の効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。



- 特定の期間のDIデータを表示し、対応するレポートを生成するには、[左側のナビゲーションツリーからレポートを作成します。詳細については、「レポートの生成」を参照してください。
- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。詳細については、「定期レポート用のアップリンクデータ例」および「リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例」を参照してください。

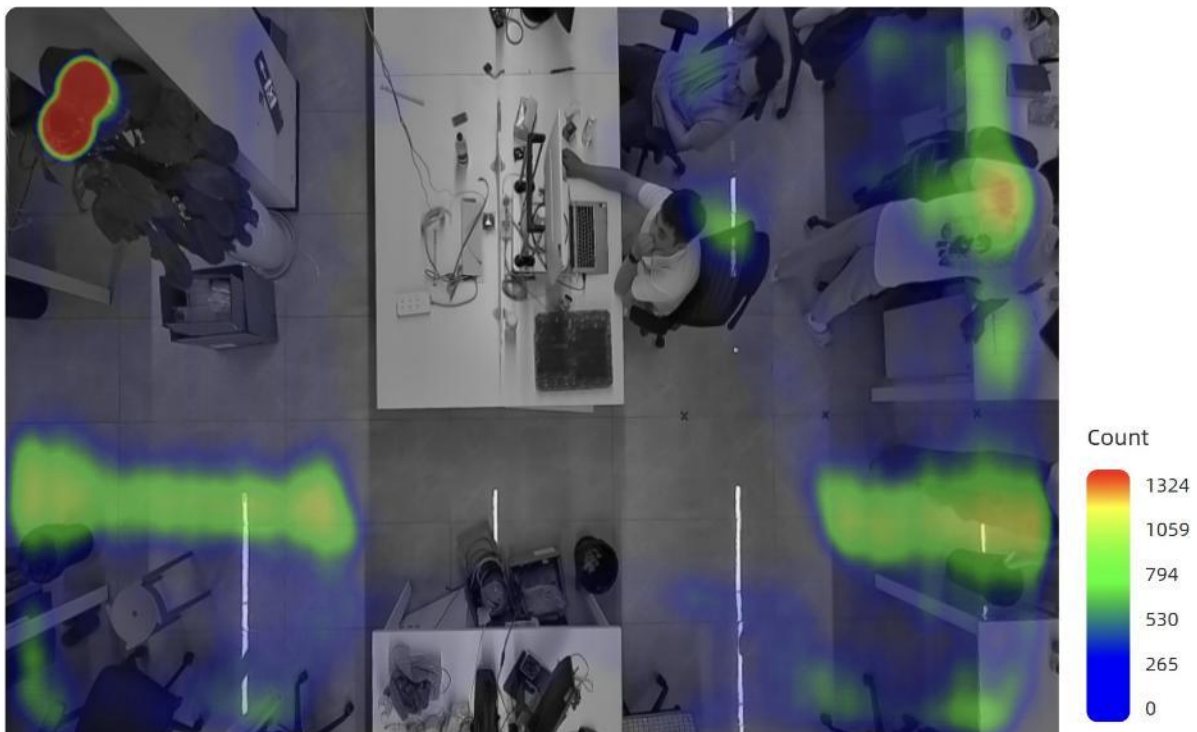
例 :

VS361は、VS125のDIインターフェースに接続された外部デバイスとして機能します。VS361がラインを越える人物を検知すると、VS125に信号を送信し、VS125はそのイベントをカウントします。

## ヒートマップの設定

**Heat Map** ヒートマップ機能は、人の動きや滞在時間のデータを分析し、その結果を色分けした時間的または空間的な視覚化を通じて表示します。これにより、より良い事業運営のための洞察が得られます。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。

本デバイスは、**Motion Heatmap** モーションヒートマップと **Dwell Heatmap** ドウェルヒートマップに対応しています。**Motion Heatmap** モーションヒートマップは、歩行者の通行密度が最も高いエリアを可視化し、**Dwell Heatmap** ドウェルヒートマップは、滞在時間が最も長いエリアを可視化します。



手順：

1. **Heat Map**機能を有効にします。
2. 特定の期間のヒートマップデータを表示し、対応するレポートを生成するには、クリックしてください。左側のナビゲーションツリーから**Report**を作成します。詳細については、「[レポートの生成](#)」を参照してください。

**Data Type**    Detection Line    Detection Region    **Heat Map**    Attention Region

**Event**    **Motion Heatmap**    Dwell Heatmap

**Time Range**    🕒 22/06/2025 09:00:00 - 23/06/2025 09:00:00    🔍 Search

## 複数のデバイスを結合する

本デバイスはマルチデバイス・ステッチングに対応しており、単一のデバイスでは不可能な範囲まで監視範囲を拡大できます。最大**16**台のデバイスをステッチングできます。このセクションでは、複数のデバイスをステッチングする方法について説明します。

### ステッチされたシステムにおけるデバイスの役割：

- **マスターデバイス**：1台のデバイスが**Master**に設定されます。このデバイスは、すべての機能設定、カウント、およびデータ送信を処理します。
- **ノードデバイス**：その他のすべてのデバイスは**Node**として設定されます。その主な機能は、全体の検知範囲を拡大することです。

### 準備：

- **インストール**：「[デバイスのインストール](#)」の手順に従って、複数のデバイスをインストールします。
- **ネットワーク**：すべてのデバイスは同じサブネット上に配置する必要があります。
- **ファームウェア**：すべてのデバイスを最新バージョンに更新する必要があります。

### 設定手順：

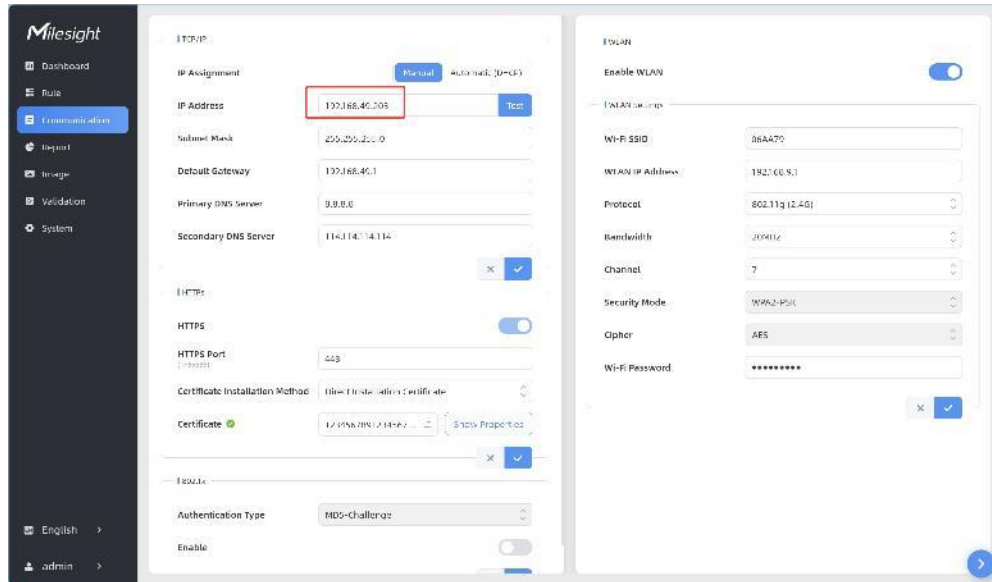
準備が完了したら、1台のデバイスをマスターデバイスとして指定し、残りのデバイスをノードデバイスとして指定し、以下の手順に従ってください。

## ノードデバイスの設定

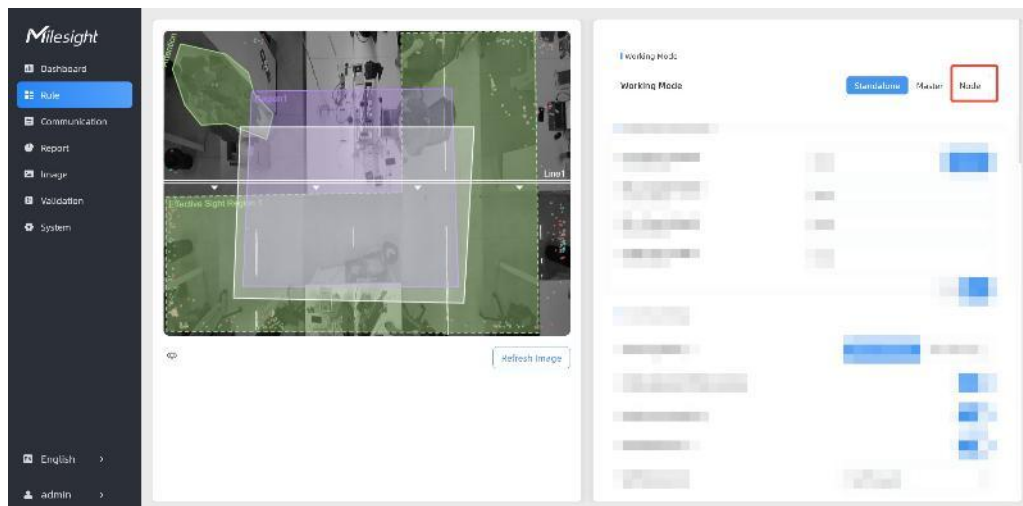
このセクションでは、ノードデバイスの設定方法について説明します。

### 手順：

1. ノードデバイスの**Web GUI**にログインし、左側のナビゲーションツリーから「**Communication**」をクリックします。
2. 「**TCP/IP**」エリアの「**IP Address**」テキストボックスに、ノードデバイスの**IPアドレス**を入力します。



3. 左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。



4. 右側の「Working Mode」エリアで、「Node」をクリックします。「Tips」情報ボックスが表示されます。

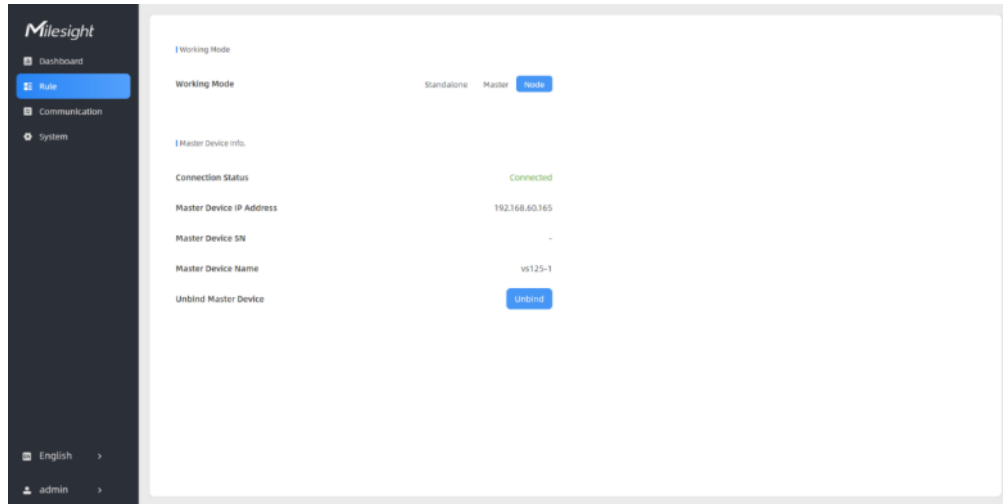
### Tips

The device needs to reboot to switch to the new Working Mode.  
Continue?



5. 「」をクリックし、デバイスの再起動を待ちます。

ステッチングが正常に完了すると、次のページが表示されます。「**Master Device Info.**」エリアのパラメータの説明については、次の表を参照してください。



Parameters	説明
<b>Connection Status</b>	ノードデバイスとマスターデバイス間の接続ステータスです。
<b>Master Device IP Address</b>	マスターデバイスの IP アドレスです。この IP アドレスがノードデバイスと同じサブネット内にある場合、ノードデバイスをマスターデバイスにバインドできます。
<b>Master Device SN</b>	マスターデバイスのシリアル番号。
<b>Master Device Name</b>	マスターデバイスの名前。
<b>Unbind Master Device</b>	「 <b>バインド解除</b> 」をクリックして接続を解除します。このデバイスは、マスターデバイスのリストから削除されます。

## マスターデバイスとノードデバイスの結合


このセクションでは、マスターデバイスとノードデバイスを結合する方法について説明します。これには、以下の手順が含まれます：

1. **Working Mode** 動作モードを「**Master**」に設定してください。
2. ノードデバイスを選択してください。
3. ノードデバイスをマスターデバイスにバインドします。

すべてのステッチング設定が完了すると、ユーザーはスタンドアロンデバイスと同じ方法で、ステッチされたプレビュー上に検知ラインやUターンエリアを描画することができます。**Multi-Device Frame**マルチデバイスフレームと**Master**

**Device Frame**ページには、マルチデバイスフレームとマスターデバイスフレームが表示され、それぞれステッチされたマルチデバイスのプレビューとマスターデバイスのプレビューを確認できます。

### 動作モードを「Master」に設定します

1. マスターデバイスのWeb GUIにログインし、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 右側の「Working Mode」エリアで、「Master」をクリックします。「Tips」情報ボックスが表示されます。
3. 「」をクリックし、デバイスの再起動を待ちます。

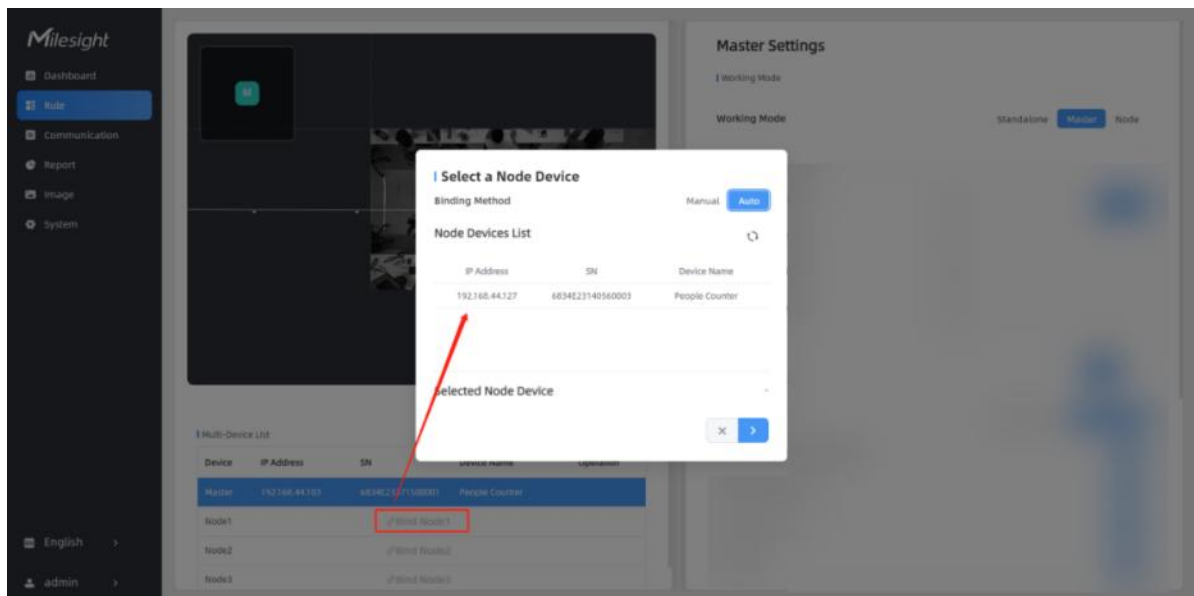
#### Tips

The device needs to reboot to switch to the new Working Mode.  
Continue?




### ノードデバイスを選択します

1. 再起動が完了したら、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 「Multi-Device Listマルチデバイス一覧」エリアで、「Bind Node1」をクリックします。「Select a Node Deviceノードデバイスを選択」ダイアログボックスが表示されます。




3. 追加するノードデバイスを選択してください。

- ノードデバイスを手動で選択するには :

- a. 「**Manual**」をクリックします。
- b. 対応するテキストボックスに、IPアドレス、HTTPポート、ユーザー名、またはパスワードを入力してください。
- c. 「」をクリックしてください。「**Bind the Node Device**」ページが表示されます。

- ノードデバイスを自動的に選択するには：

- a. 「**Auto**」をクリックします。すると、デバイスは自動的にマルチキャストプロトコルを使用して、同じローカルネットワーク内の未バインドのノードデバイスを検出します。検出されたデバイスは「**Node Devices List**」に一覧表示されます。
- b. 追加するノードデバイスを選択し、「」をクリックします。「**Confirm Authorization**」ダイアログボックスが表示されます。

#### Confirm Authorization

Selected Node Device

192.168.44.127

Node Device Username

admin

Node Device Password

×

<

>

c. ノードデバイスのログインパスワードを入力し、「>」をクリックします。「Bind the Node Device」ページが表示されます。

### Bind the Node Device

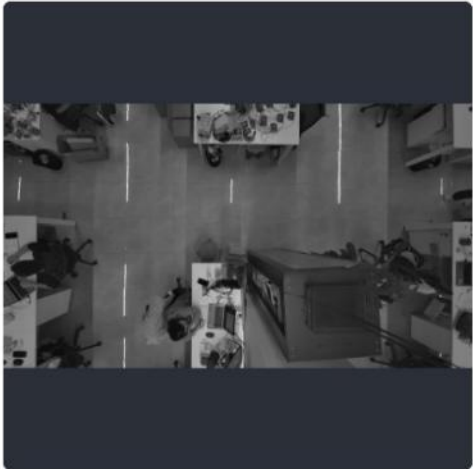
Stitch Device Frame Frame Overlapping  Frame Non-overlapping

Node Device Deployment Parameters

Installation Height  Detect ✕ ✔


Stitch Device Frame

Selected Node Device: 192.168.44.105



Stitching Point: (0/4)

Selected Stitched Device: -



Please select the device on the right side for frame stitching first

Stitched Device

- 192.168.44.100
- 192.168.44.126
- 192.168.44.128
- 192.168.44.101
- 192.168.44.104
- 192.168.44.103
- 192.168.44.123
- 192.168.44.124
- 192.168.44.122
- 192.168.44.106

Stitching Point: (0/4)

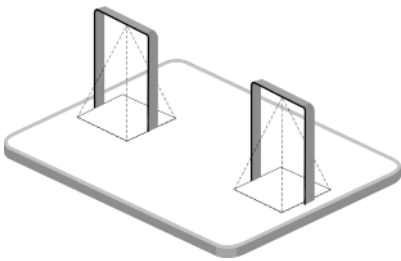
Tips:

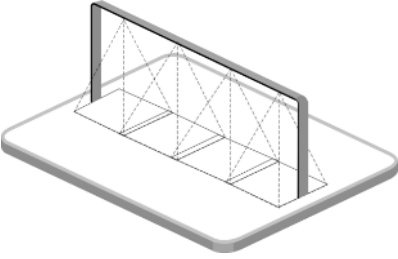
- After image stitching, the device will clear the historical heatmap data.
- Please draw four points for each device to stitch device frame.
- The points can only be drawn on the floor in the frame.
- Please arrange the stitching points in a shape of a quadrangle.
- Please place the points as far from each other as possible, without being too close to the edges of the image.

✕ < ✔

## ノードデバイスをマスターデバイスにバインドする

1. 必要に応じて、「Frame Overlapping」または「Frame Non-overlapping」のスティッチ接続を選択してください。

Stitch Method	説明	図
<b>Frame Non-overlapping</b>	<p>デバイスのカバレッジには、重なり合う領域は必要ありません。対象となる領域のみをカバーすれば十分です。</p> <p>ファームウェアバージョン 1.0.5 以降でのみ利用可能です。</p>	

Stitch Method	説明	図
<b>Frame Overlapping</b>	ターゲットを確実に追跡するためには、デバイスのカバレッジ範囲に重なり合う領域が必要です。	

。「フレームのオーバーラップ」が選択されている場合は、以下の手順に従ってください：

- a. 「Installation Height」エリアに、ノードデバイスの設置高さを入力するか、**[Detect]** をクリックして、設置高さを自動的に測定します。

Node Device Deployment Parameters

Installation Height  
mm(2000-6000)

3272

Detect


×

✓

- b. 右側の「IP Address」をクリックして、結合されたデバイスのプレビューを表示し、このノードデバイスとカバレッジ領域が重なっているデバイスを選択してください。


Stitch Device Frame

Selected Node Device: 192.168.44.104



Stitching Point: (0/4)

Selected Stitched Device: 192.168.44.100



Stitching Point: (0/4)

Stitched Device

192.168.44.100

192.168.44.106

192.168.44.103

192.168.44.101

192.160.44.102

Tips:

- After image stitching, the device will clear the historical heatmap data.
- Please draw four points for each device to stitch device frame.
- The points can only be drawn on the floor in the frame.
- Please arrange the stitching points in a shape of a quadrangle.
- Please place the points as far from each other as possible, without being too close to the edges of the image.

×

✓

- c. 両方のデバイスプレビューにおいて、4つの校正ポイントをマークして四角形を形成し、重なり合う範囲を定義してください。その後、システムはこれらのポイントに基づいて自動的に画像のスティッチングを行います。

**i** ヒント :

重なり合う部分は、人の往来が少ない場所に配置してください。重なり合う部分の床面には、タイルやテーブル、テープなどの物を使って、継ぎ目を目印として示しておくことをお勧めします。

Stitch Device Frame

Selected Node Device: 192.168.44.104

Selected Stitched Device: 192.168.44.100

Stitched Device

192.168.44.100

192.168.44.106

192.168.44.103

192.168.44.101

192.168.44.102

Stitching Point: (4/4) Point 1 Point 2 Point 3 Point 4

Stitching Point: (4/4) Point 1 Point 2 Point 3 Point 4

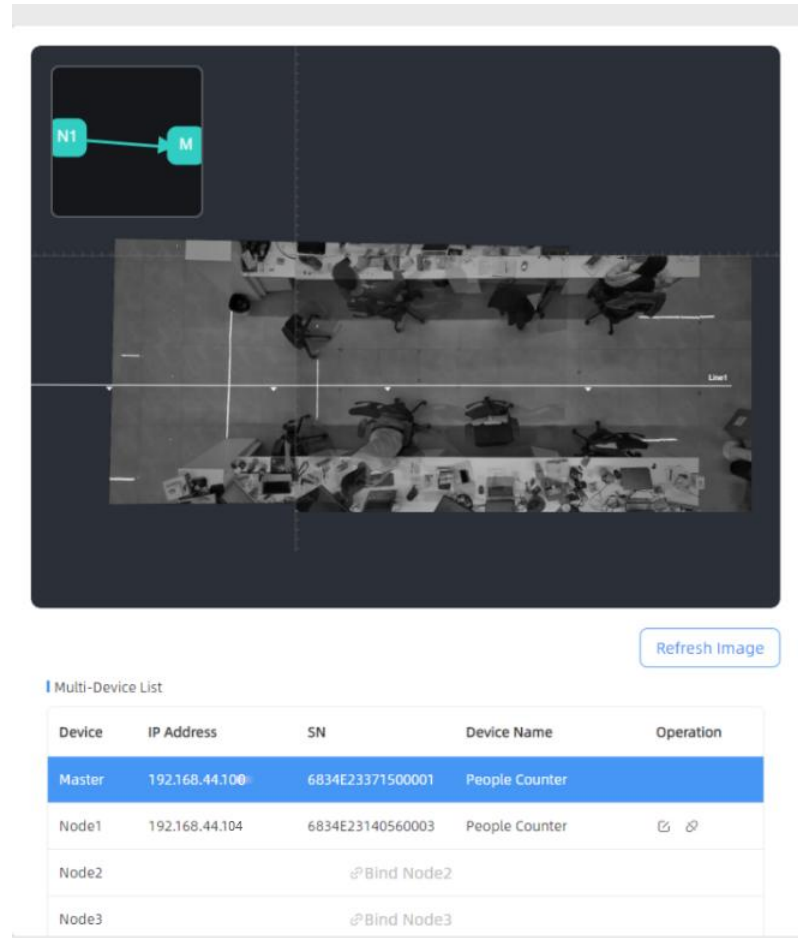
Tips:

- After image stitching, the device will clear the historical heatmap data.
- Please draw four points for each device to stitch device frame.
- The points can only be drawn on the floor in the frame.
- Please arrange the stitching points in a shape of a quadrangle.
- Please place the points as far from each other as possible, without being too close to the edges of the image.

Point 1 Point 2 Point 3 Point 4

- d. (任意) 校正ポイントを変更するには、 をクリックして、対応するポイントを削除し、再度ポイントをマークしてください。

- e. クリックして設定を保存します。ノードデバイスが「Multi-device List」に表示されます。次の図は、2つのデバイスをステッチングした後の状態を示しています。



- 。「Frame Non-overlappingフレーム非重複」が選択されている場合は、以下の手順に従ってください：
  - 。「Installation Height」の欄に、ノードデバイスの設置高さを入力するか、「Detect」をクリックして設置高さを自動的に測定してください。マスターデバイスに対する画像の回転角度を設定してください。

**Bind the Node Device**

Stitch Device Frame Frame Overlapping Frame Non-overlapping

Node Device Deployment Parameters

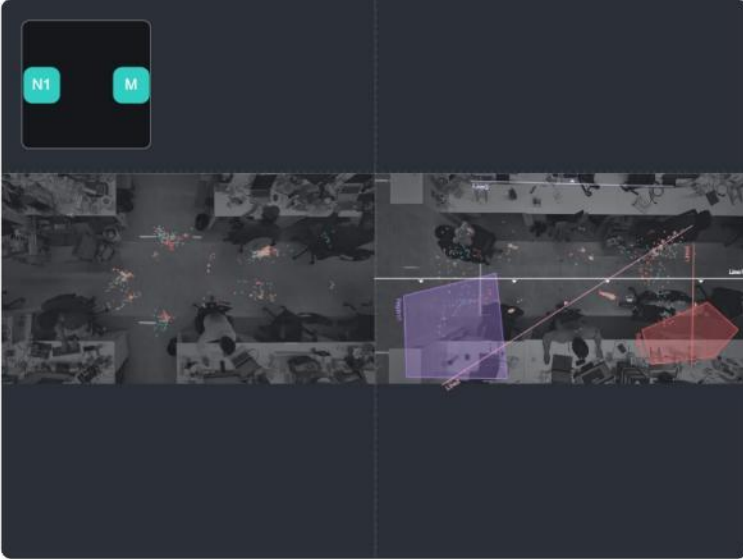
Selected Node Device 192.168.44.104

Installation Height mm(2000~6000)  Detect




Relative Angle °(180~180)

✕ ✓

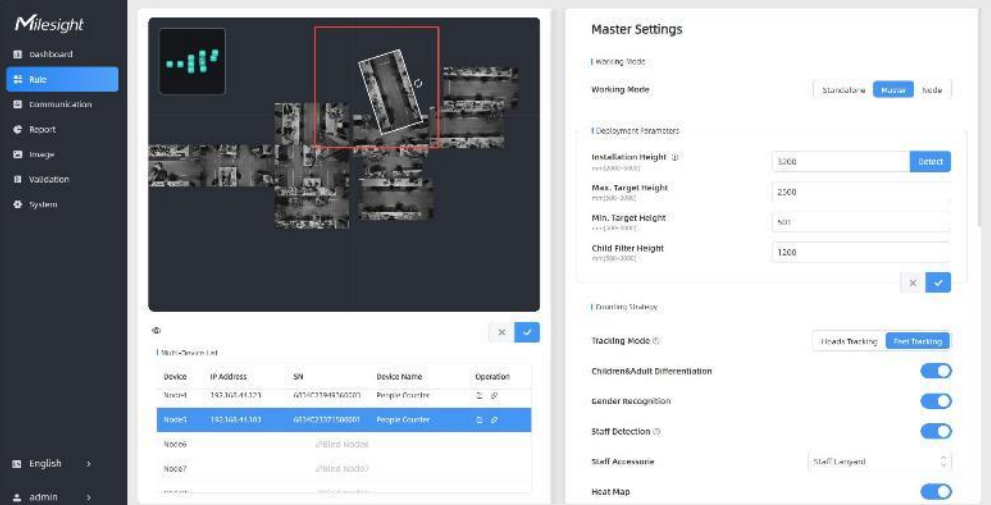
- b. [  ] をクリックして をクリックして設定を保存します。ノードデバイスが「Multi-device List」に表示されます。次の図は、2つのデバイスを結合した後の効果を示しています。



The screenshot shows a top-down view of a building layout with camera feeds. A purple rectangular zone and a red polygonal zone are overlaid on the feeds. A red line connects two points on the map. Below the feeds is a 'Refresh Image' button and a 'Multi-Device List' table.

Device	IP Address	SN	Device Name	Operation
Master	192.168.44.127	6834E231405600...	People Counter1	
Node1	192.168.44.106	6834E232961600...	People Counter	 
Node2				 Bind Node2

- c. (オプション) ユーザーは、プレビュー画面を通じてノードデバイスの位置を調整することもできます。

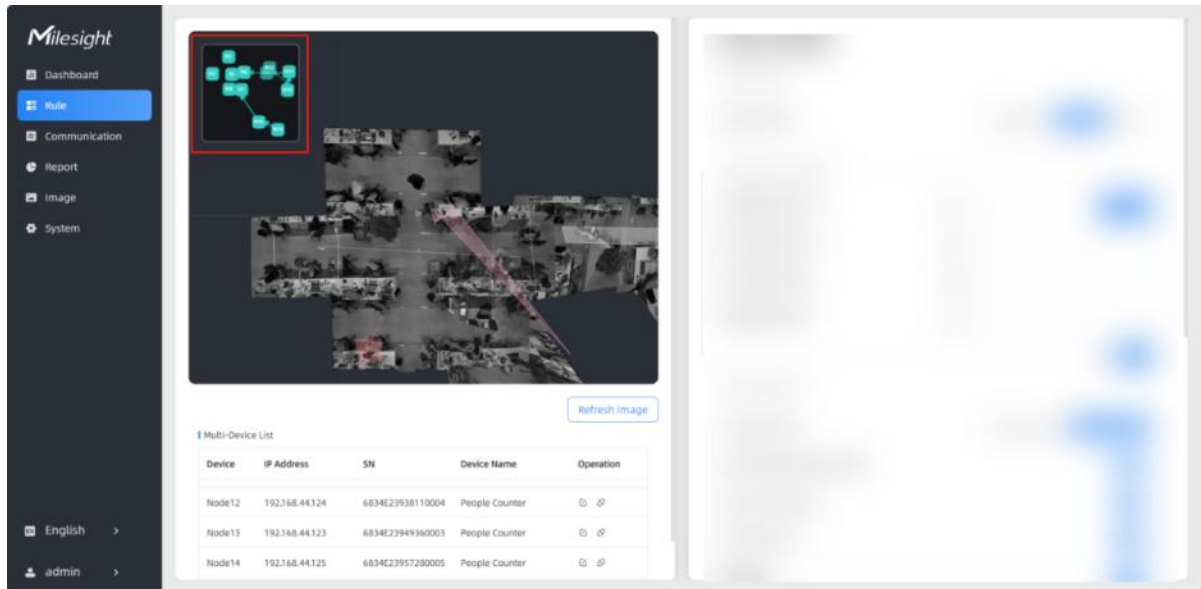


The screenshot shows the Milesight web interface. On the left is a sidebar with navigation options: Dashboard, Rule, Communication, Report, Image, Visualization, and System. The main area is split into a preview window and a settings panel. The preview window shows a camera feed with a red box around a device icon. The settings panel is titled 'Master Settings' and includes sections for Working Mode, Deployment Parameters, and Tracking Strategy.

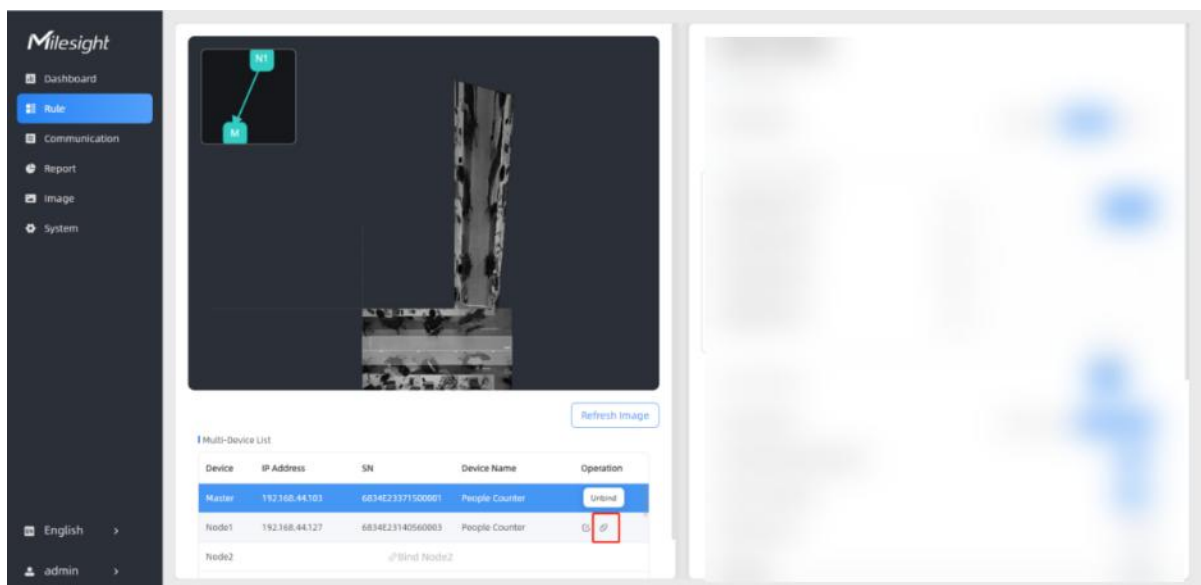
**Master Settings**

- Working Mode:  Standalone  Master  Node
- Deployment Parameters:
  - Installation Height: 3.00 [SET]
  - Max. Target Height: 2.500 [SET]
  - Min. Target Height: NOT [SET]
  - Child Filter Height: 1.200 [SET]
- Tracking Strategy:
  - Tracking Mode:  Fixed Tracking  Free Tracking
  - Children/Adult Differentiation:
  - Gender Recognition:
  - Staff Detection:
  - Staff Accession: Staff (any) [SET]
  - Heat Map:

2. さらにデバイスを追加するには、手順1から5に従って、それらを順番に接続してください。プレビュー画面の左上にある小さなマップには、接続されたデバイスの位置が表示されます。



3. (オプション) ノードデバイスを切断するには、**Operation**動作エリアでクリックしてください。



## 通信パラメータの設定

このセクションでは、通信パラメータの設定方法について説明します。これには、セルラーパラメータ、TCP/IPパラメータ、HTTPSパラメータ、802.1xプロトコルパラメータ、WLANパラメータ、受信者パラメータ、およびMQTT APIパラメータが含まれます。

## ネットワークパラメータの設定

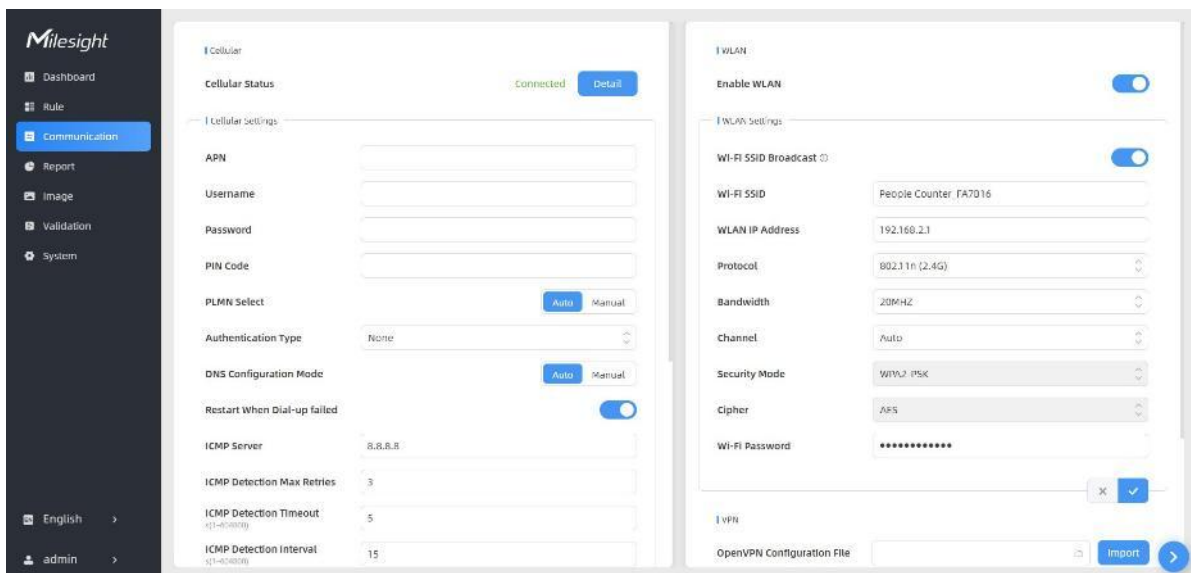
このセクションでは、ネットワークパラメータの設定方法について説明します。これには、セルラーパラメータ（セルラー版のみ）、TCP/IPパラメータ、HTTPSパラメータ、802.1xパラメータ、およびWLANパラメータが含まれます。

### セルラーパラメータの設定（セルラー版のみ）

このセクションでは、セルラーパラメータの設定方法について説明します。

手順：


1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。



2. 「Cellular Status」エリアで、「Detail」をクリックし、Cellularステータスの詳細を確認します。
3. 「モバイル設定」エリアで、必要に応じてモバイル通信のパラメータを設定してください。パラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameters	説明
APN	ローカルのISPが提供するセルラーダイヤルアップ接続用のアクセスポイント名です。最大文字数：31文字。
Username	地域のインターネットサービスプロバイダ（ISP）が提供する携帯電話回線接続用のユーザー名です。最大文字数：31文字。
Password	地域のISPが提供する携帯電話ダイヤルアップ接続用のパスワードです。最大文字数：31文字。
PIN Code	SIMのロックを解除するためのPINコードです。文字数：4～8文字。

Parameters	説明
PLMN Select	PLMNの設定方法を選択してください。
PLMN ID	PLMN ID を手動で入力してください。
Authentication Type	オプション：なし、PAP、CHAP、PAP および CHAP。
Roaming	ローミング機能を有効にします。
DNS Configuration Mode	<p>オプション：自動、手動。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ DNS 設定モードが「Auto」に設定されている場合、デバイスはキャリアから割り当てられた DNS を自動的に取得します。</li> <li>◦ DNS 設定モードが「Manual」に設定されている場合は、プライマリおよびセカンダリの DNS サーバーアドレスを両方とも入力する必要があります。</li> </ul>
Restart When Dial-up Failed	ダイヤルアップが複数回フェイルした場合に、デバイスを自動的に再起動します。
ICMP Server	ICMP検出サーバーのIPアドレスを設定します。
ICMP Detection Max Retries	ICMP 検出がフェイルした際の再試行の最大回数を設定します。
ICMP Detection Timeout	ICMP 検出のタイムアウト時間を設定します。
ICMP Detection Interval	ICMP 検出の間隔を設定します。

4.  をクリックしてをクリックして設定を保存します。

## TCP/IP パラメータの設定

本デバイスは、データ伝送および複数デバイスのステッチングにイーサネットポートを使用します。このセクションでは、TCP/IP パラメータの設定方法について説明します。

モバイル通信版の場合、データ送信は現在のネットワークに依存します。モバイル通信とイーサネット接続の両方が利用可能な場合、本デバイスはデータ送信においてモバイル通信を優先します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。

**TCP/IP**

IP Assignment Manual Automatic (DHCP)

IP Address  Test

Subnet Mask


Default Gateway

Primary DNS Server



Secondary DNS Server

✕ ✓

2. 「TCP/IP」エリアで、必要に応じてTCP/IPパラメータを設定してください。パラメータの説明については、以下の表を参照してください。

Parameters	説明
IP Assignment	<p>IP 割り当て方法を設定します。オプション：手動または自動 (DHCP)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「Manual」を選択した場合、以下のパラメータを手動で設定する必要があります。</li> <li>- 「Automatic自動 (DHCP)」が選択された場合、デバイスには自動的にIPアドレスと設定パラメータが割り当てられます。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> <b>注：</b> サーバーに表示されるホスト名は、デバイス名に合わせて更新されます。変更は20秒以内、またはDHCPリースの有効期限が切れた時点で反映されます。</p> </div>
IP Address	イーサネットポートのIPv4アドレスを設定します。デフォルト値： <b>192.168.5.220</b> 。
Test	<b>[Test]</b> をクリックして、IP アドレスの競合を確認します。
Subnet Mask	イーサネットポートのネットマスクを設定します。

Parameters	説明
Default Gateway	イーサネットポートのIPv4アドレスのゲートウェイを設定します。
Primary DNS Server	プライマリ IPv4 DNS サーバーを設定します。
Secondary DNS Server	セカンダリ IPv4 DNS サーバーを設定します。

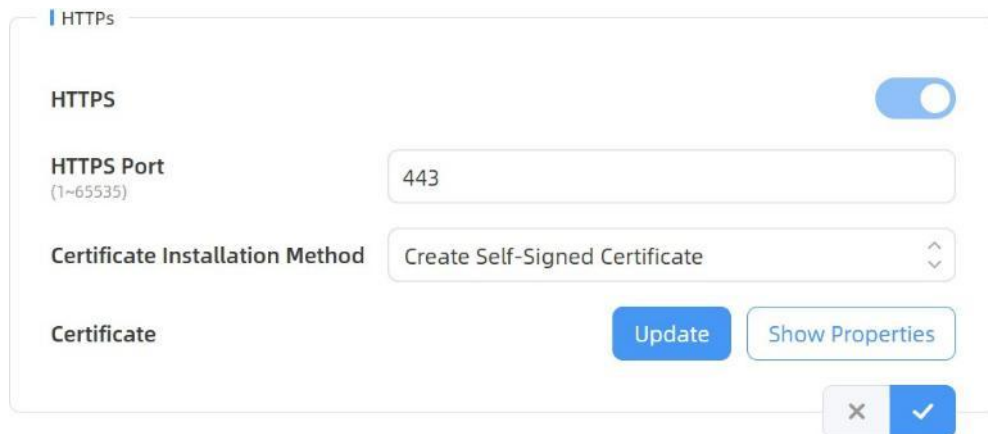
3. [  ] をクリックして [  ] をクリックして設定を保存します。

### HTTPS パラメータの設定 (PoE バージョンのみ)

HTTPSは、Webブラウザとサーバー間で送信されるデータを暗号化します。これにより、機密性が確保され、サーバーの真正性が検証され、データの完全性が改ざんから保護されます。このセクションでは、安全な通信を確保するためのHTTPSパラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。



2. [HTTPS] エリアで、[HTTPS] を有効にします。
3. Web GUIのログインポートを設定するには、「HTTPSポート」を設定してください。デフォルトは**443**です。
4. **Certificate Installation Method**証明書のインストール方法を選択してください。オプション：  
**Create Self-Signed Certificate, Direct Installation Certificate**自己署名証明書の作成、証明書の直接インストール。
5. 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

If	以下の操作を行ってください
<p>- <b>Certificate Installation Method</b>証明書インストール方法が<b>Create Self-Signed Certificate</b>自己署名証明書の作成に設定されている場合</p>	<p>a. <b>[Update]</b> をクリックします。 <b>[Update Certificate Information]</b> ダイアログボックスが表示されます。</p>  <p>b. 必要に応じて証明書情報を更新し、「」をクリックします。証明書がアップロードされます。</p> <p>c. (任意) 証明書のプロパティを確認するには、「<b>View Properties</b>」をクリックします。「<b>Certificate Properties</b>」情報ボックスが表示されます。</p> 
<p>- <b>Certificate Installation Method</b>証明書インストール方法が<b>Direct Installation Certificate</b>直接インストール証明書に設定されている場合</p>	<p>a. <b>[File]</b> をクリックして、CA 証明書ファイルをアップロードします。</p> <p>b. (任意) 証明書のプロパティを確認するには、「<b>View Properties</b>」をクリックします。「<b>Certificate Properties</b>」情報ボックスが表示されます。</p>

If	次の操作を行ってください
	<div data-bbox="868 268 1258 630"> <p><b>Certificate Properties</b></p> <p>Issued To: CN = People Counter O = Internet Widgits Pty Ltd OU = Internet Widgits Pty Ltd</p> <p>Issued From: CN = People Counter O = Internet Widgits Pty Ltd OU = Internet Widgits Pty Ltd</p> <p>Validity Period: Jan 17 05:47:37 1970 GMT Feb 18 05:47:37 1971 GMT</p> <p style="text-align: right;">✕</p> </div> <p data-bbox="673 682 1421 745">c. (オプション) 証明書を解析するために、証明書のキーパスワードを入力します。</p>

6. [✓]をクリックしてをクリックして、設定を保存します。

## 802.1x プロトコルパラメータの設定 (PoE バージョンのみ)

IEEE 802.1xは、RADIUSサーバーを利用してネットワークへのアクセスを許可するための認証プロトコルです。このセクションでは、802.1xプロトコルのパラメータを設定する方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。

2. 「802.1x」セクションで、必要に応じて802.1xのパラメータを設定してください。パラメータの説明については、以下の表を参照してください。

Parameters	説明
Enable	802.1x 認証を有効または無効にします。
Authentication Type	オプション : MD5-Challenge、EAP-TLS。

3. 認証タイプを選択し、必要に応じて以下のパラメータを設定してください。

- 認証タイプが「**MD5-Challenge**」に設定されている場合 :

Parameters	説明
EAPOL Protocol Version	オプション : 802.1x-2001、802.1x-2004。
Identity	802.1x 認証の ID を設定します。
Password	802.1x 認証のパスワードを設定します。
Confirm Password	パスワードをもう一度入力してください。

- 「認証タイプ」が **EAP-TLS** に設定されている場合 :

Parameters	説明
EAPOL Protocol Version	オプション : 802.1x-2001、802.1x-2004。
Identity	802.1x 認証の ID を設定します。
CA File	CA ファイルをアップロードします。
Client Certificate File	証明書ファイルをアップロードします。
Client Key File	クライアントキーをアップロードしてください。
Key Password	クライアントキーのパスワードを設定します。

## WLAN パラメータの設定


このセクションでは、WLAN パラメータの設定方法について説明します。

手順 :

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**Communication**」をクリックします。



The screenshot shows the WLAN configuration page. At the top, there is a toggle for 'Enable WLAN' which is turned on. Below it is the 'WLAN Settings' section, also with a toggle for 'Wi-Fi SSID Broadcast' turned on. The settings are as follows:

- Wi-Fi SSID: People Counter\_FA77CC
- WLAN IP Address: 192.168.1.1
- Protocol: 802.11n (2.4G)
- Bandwidth: 20MHZ
- Channel: Auto
- Security Mode: WPA2-PSK
- Cipher: AES
- Wi-Fi Password: masked with dots

2. **WLAN** エリアで、「」をクリックして Wi-Fi 機能を有効にします。
3. 「**WLAN Settings**」エリアで、必要に応じてWLANパラメータを設定してください。パラメータの説明については、以下の表を参照してください。

Parameters	説明
Wi-Fi SSID Broadcast	無効にすると、Wi-Fi SSIDは自動的に検出されなくなりますが、SSIDを手動で入力することで接続することは可能です。
Wi-Fi SSID	このデバイス固有のWi-Fiアクセスポイント識別子です。形式：People Counter_xxxxxx。デバイスのラベルに記載されています。
WLAN IP Address	Webアクセス用のWLAN IPアドレスです。デフォルト値：192.168.1.1。
Protocol	オプション：802.11b (2.4G)、802.11n (2.4G)、および802.11n (2.4G)。
Bandwidth	オプション：20MHz、40MHz。
Channel	無線チャンネル。範囲：自動、1～11。
Security Mode	固定値：WPA2-PSK。
Cipher	固定値：AES。

Parameters	説明
Wi-Fi Password	パスワードをカスタマイズしてください。数字、小文字、大文字、および特殊文字を含める必要があります。範囲：8～63文字。

4.  クリックして  をクリックして設定を保存してください。

## OpenVPN パラメータの設定

このセクションでは、OpenVPN パラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。



2. 「VPN設定」エリアで、必要に応じてVPNパラメータを設定してください。パラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

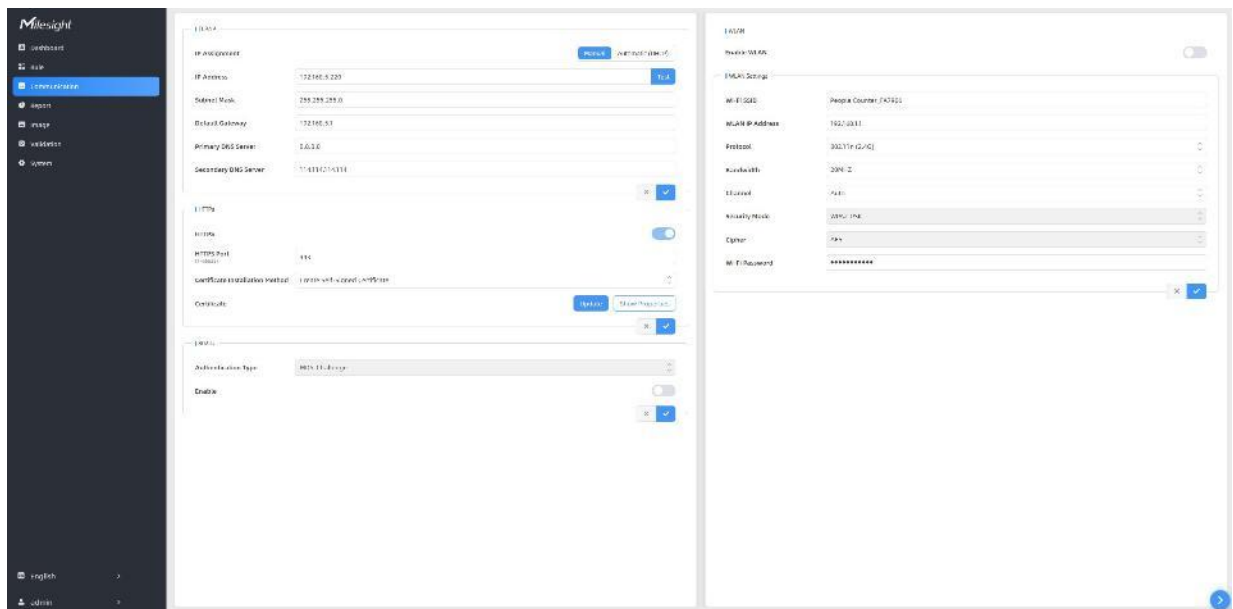
Parameters	説明
OpenVPN Configuration File	「.conf」または「.ovpn」形式の OpenVPN クライアント設定プロファイルをインポートします。
Status	デバイスと VPN サーバーの接続ステータス（切断中、接続中、接続済み）を表示します。
Device Virtual IP	デバイスの仮想 IP を表示します。
Sever Virtual IP	VPNサーバーの仮想IPアドレスを表示します。
Duration	接続時間を表示します。

## データ受信者を追加する

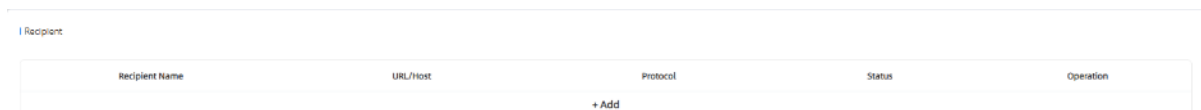
本デバイスは、HTTP(s) または MQTT(s) プロトコルを使用したデータ受信者の追加に対応しています。指定されたレポート形式に従い、設定された受信者に対してデータを能動的にプッシュします。データ形式の詳細については、「アップリンクデータ」をご参照ください。また、CGI インターフェースを通じて、デバイスの設定やピープルカウンティングデータの取得を行うことができます。詳細については、「Milesight AI ステレオビジョン人数カウントセンサー API 仕様」をご参照ください。このセクションでは、データ受信者の追加方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。



2. 右下隅にある「>」をクリックします。「Recipient」ページが表示されます。



3. 「+ Add」をクリックします。「受信者設定」ダイアログボックスが表示されます。最大8名の受信者を追加できます。

### Recipient Settings

Recipient Name	<input type="text" value="Recipient"/>
Report Protocol	<input type="text" value="MQTT"/>
Host	<input type="text"/>
Port <small>(1-65535)</small>	<input type="text"/>
ClientID	<input type="text"/>
Username	<input type="text"/>
Password	<input type="text"/>
Topic ⓘ	<input type="text"/>
QoS	<input type="text" value="QoS 0"/>
TLS	<input checked="" type="checkbox"/>

4. 必要に応じて受信者のパラメータを設定します。

- a. **[Recipient Name]** テキストボックスに、受信者の名前を入力します。
- b. 必要に応じて、「**Report Protocol**」を「**HTTP(s)**」または「**MQTT**」に設定します。
- c. 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

- 「**Report Protocol**」が **HTTP(s)** に設定されている場合は、以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
<b>URL</b>	<p>データ受信先URL。JSON形式のピープルカウンティングデータを受信する宛先URLを設定します。</p> <p>本デバイスは複数のサードパーティ製プラットフォームに対応しています。対応プラットフォームについては、<a href="#">Milesightの公式ウェブサイト</a>をご参照ください。</p>
<b>Connection Test</b>	「テスト」をクリックして、URLにテストメッセージを送信し、接続を確認します。
<b>Username</b>	認証に使用するユーザー名です。
<b>Password</b>	認証に使用するパスワードです。

- 「Report Protocol」がMQTTに設定されている場合は、以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Host	<p>データを受信するMQTTブローカーのアドレスです。</p> <p>本デバイスは、複数のサードパーティ製プラットフォームに対応しています。対応プラットフォームについては、<a href="#">Milesightの公式ウェブサイト</a>をご参照ください。</p>
Port	データを受信するために使用するMQTTブローカーのポートです。
Client ID	MQTTサーバーに対する一意のクライアント識別子です。同じサーバーへのすべての接続において一意である必要があり、QoSレベル1および2でのメッセージ配信を管理するために不可欠です。
Username	MQTTブローカー認証用のユーザー名です。
Password	MQTTブローカー認証用のパスワードです。
Topic	<p>メッセージの送信に使用するトピック名です。トピック名の例は以下の通りです：</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Topic ① <span style="float: right;">device/report/\$devsn</span></p> </div> <p>以下のプレースホルダーは、サブスクリプション時にデバイス情報で動的に置換されます。</p> <p>- \$devsn: デバイス SN \$prdm: 製品モデル \$devid: カスタマイズされたデバイス ID \$siteid: カスタマイズされたサイト ID</p>
QoS	オプション：QoS 0、QoS 1、および QoS 2。
TLS	MQTT通信でTLS暗号化を有効にします。
Certificate Type	オプション：CA 署名済みサーバーまたは自己署名。

Parameters	説明
	<p>「<b>Certificate Type</b>証明書タイプ」が「<b>CA Signed Server CA 署名済みサーバー</b>」に設定されている場合、デバイスにプリインストールされている CA 証明書を使用してサーバーの検証が行われます。</p> <p>「<b>Certificate Type</b>」が「<b>Self-signed</b>」に設定されている場合は、をクリックして、本人確認用の対応するファイルをアップロードします。</p>

5. [ > ] をクリックしてをクリックして設定を保存します。「**Report Strategy**レポート戦略」ダイアログボックスが表示されます。

**Report Strategy**

Trigger Report ①

Trigger Report Cooldown ①

Trigger Report Schedule

Periodic Report

Periodic Report Scheme On the Dot From Now On

Period 15min

Real-time Data Report ①

Data Retransmission

Customize Report Content

6. 必要に応じて、レポート戦略のパラメータを設定してください。パラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	説明
<b>Trigger Report</b>	ライン越え回数または領域数が変化した際に、リアルタイムレポートを有効にします。
<b>Trigger Report Cooldown</b>	人通りが多い際にトリガーによる報告が頻繁に行われないようにするには、このオプションを有効にしてください。累積データは、クールダウン期間が終了した後に報告されます。

Parameter	説明
	<p><b>Cooldown Period</b> : クールダウン期間中は、トリガーイベントは報告されません。クールダウン期間が終了すると、報告が再開されます。</p>
<p><b>Trigger Report Schedule</b></p>	<p>イベントは、設定可能な最大5つの時間枠内で発生した場合にのみ報告されます。クールダウンが有効になっている場合、クールダウンが業務時間内に終了した場合にのみ報告が行われます。定義された期間外では報告は行われません。</p>
<p><b>Periodic Report</b></p>	<p>ライン越えおよびエリアアカウントデータの定期的なレポート機能を有効にします。</p>
<p><b>Periodic Report Scheme</b></p>	<p>オプション: 「<b>On the Dot</b>」または「<b>From Now On</b>」。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 「<b>Periodic Report Method</b>」が「<b>Scheduled</b>」に設定されている場合は、必要に応じて「<b>Period</b>」ドロップダウンリストから間隔を選択してください。その後、デバイスは毎時の00分00秒にレポートを送信します。例: <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 1時間間隔: レポートは毎時 (00:00、01:00、02:00...) に送信されます。10分間隔: レポートは10分刻み (00:10、00:20、00:30...) に送信されます。「<b>Periodic Report Method</b>」が「<b>今すぐ開始</b>」に設定されている場合は、必要に応じて「<b>Period</b>」テキストボックスに間隔の値を入力してください。そうすると、デバイスは起動直後に定期レポートを開始し、設定された間隔で定期的にレポートを送信します。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>Real-time Data Report</b></p>	<p>リアルタイムのレポート送信が必要な場合は、この機能を有効にしてください。有効にすると、デバイスは500ミリ秒間隔でデータを送信します。高頻度のレポート送信は、ネットワークトラフィックやサーバーの負荷を増大させる可能性があります。レポートの内容に関する詳細は、「<a href="#">レポート内容のカスタマイズ</a>」をご参照ください。</p>
<p><b>Data Retransmission</b></p>	<p>この機能を有効にすると、ネットワーク接続が回復した時点で、デバイスはオフライン期間中にバッファに蓄積されたすべてのデータパケットを自動的に送信します。各受信エンドポイントは、最大50,000件のデータレコードに対応しています。</p>
<p><b>Customize Report Content</b></p>	<p>レポートの内容をカスタマイズできるようになります。データの重複を防ぐため、必要なコンテンツを選択してください。</p>

Parameter	説明
	<div style="text-align: right;">Customize Report Content <input checked="" type="checkbox"/></div> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> Device Info</li> <li><input type="checkbox"/> Time Info</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> Line</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> Region</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> Attention Region</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> I/O</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> Alarm</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> Live Data</li> </ul>

7. [ > ]をクリックしてをクリックして設定を保存します。追加された受信者は、「**Recipient**受信者」ページに表示されます。

Recipient

Recipient Name	URL/Host	Protocol	Status	Operation
Recipient	https://webhook.site/144e61bc-d755-4a4d-...	HTTP	Disconnect	
Recipient	192.168.44.125	MQTT	Disconnect	

+ Add

8. (オプション) 受信者を編集または削除するには、 または をクリックします。

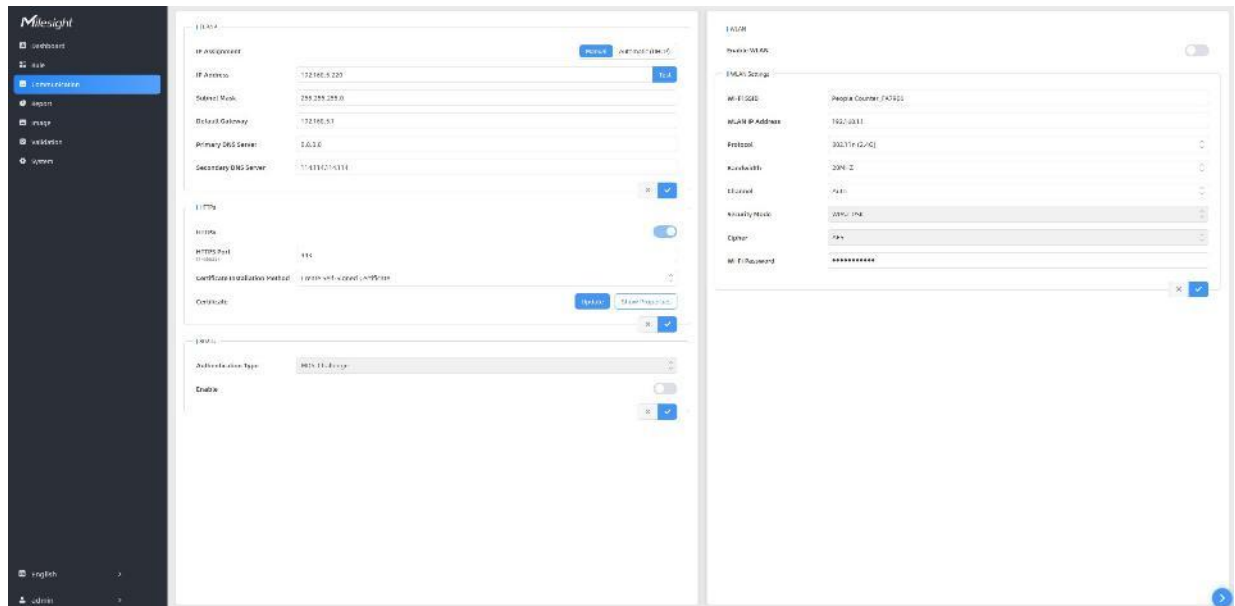
## BACnet パラメータの設定 (PoE バージョンのみ)

本デバイスは、BMSシステムへのBACnet/IPプロトコル接続を提供し、BACnetサーバーとして、ビルオートメーションシステム内のデバイス間でのデータ交換と通信を可能にします。

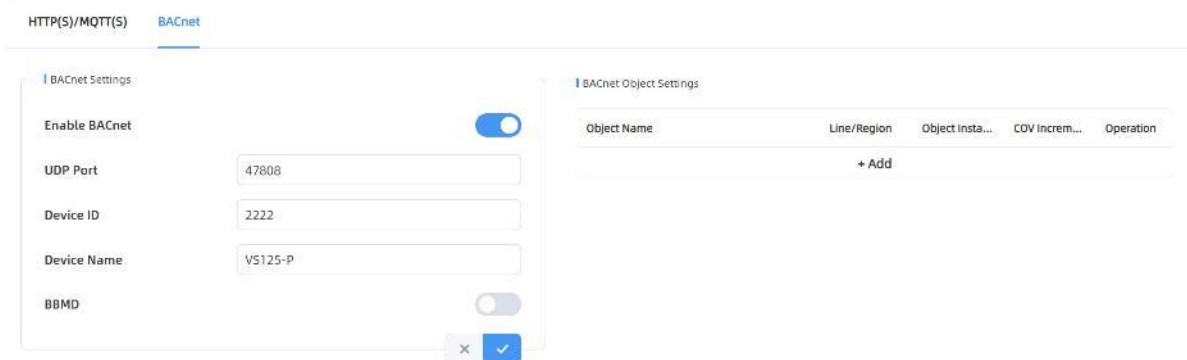
このセクションでは、BACnetパラメータの設定方法について説明します。これはPoEバージョンのみに適用されます。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。




2. 右下隅の「>」をクリックし、「BACnet」をクリックしてください。**BACnet**ページが表示されます。



3. 必要に応じて、BACnet設定パラメータを構成してください。

Parameters	説明
UDP Port	BACnet/IP の通信ポートを設定します。範囲：1～65535。デフォルトのポートは 47808 です。
Device ID	他のデバイスと重複しない、一意の BACnet デバイス識別子です。デフォルト値は、SN の 6 文字目から 11 文字目です。
Device Name	デバイスを表す名前です。

Parameters	説明
<b>BBMD</b>	<p>異なるネットワークサブネット上のBACnetデバイスを連携させる場合は、BBMD（BACnet/IPブロードキャスト管理デバイス）を有効にしてください。</p> <p><b>IPアドレス</b>：BBMDデバイスまたは外部デバイスレジストラのIPアドレスを入力してください。</p> <p><b>IPポート</b>：外部デバイスの登録に使用するUDP/IPポートを入力してください。</p> <p><b>有効期間</b>：外部デバイスの登録に使用される秒数です。</p>

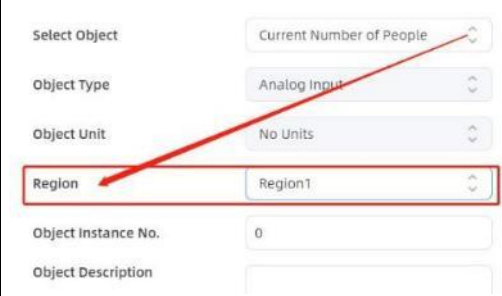
 をクリックして をクリックして設定を保存します。


4. **[+ Add]** をクリックします。「**BACnet Object Settings**」ダイアログボックスが表示されます。

#### | Add Object

Object Name	Cumulative Individuals In-Line1
Object Select	Cumulative Individuals In
Object Type	Analog Input
Object Unit	No Units
Line	Line1
Object Instance No.	0
Object Description	
COV	<input type="checkbox"/>

Parameters	説明
<b>Object Name</b>	BACnet オブジェクトの名前を表示します。
<b>Object Select</b>	デバイスの変数データをオブジェクトとして選択します。
<b>Line/Region</b>	選択したオブジェクトの検出ラインまたは検出領域のいずれかを選択します。

Parameters	説明
	
<b>Object Instance No.</b>	オブジェクトのインスタンス番号を設定します。
<b>Object Description</b>	オブジェクトの説明を設定します。
<b>COV</b>	有効にすると、オブジェクトの値が変更された際に、新しい値が BACnet クライアントに通知されます。
<b>COV Increment</b>	現在のオブジェクトの最小変更値を設定します。

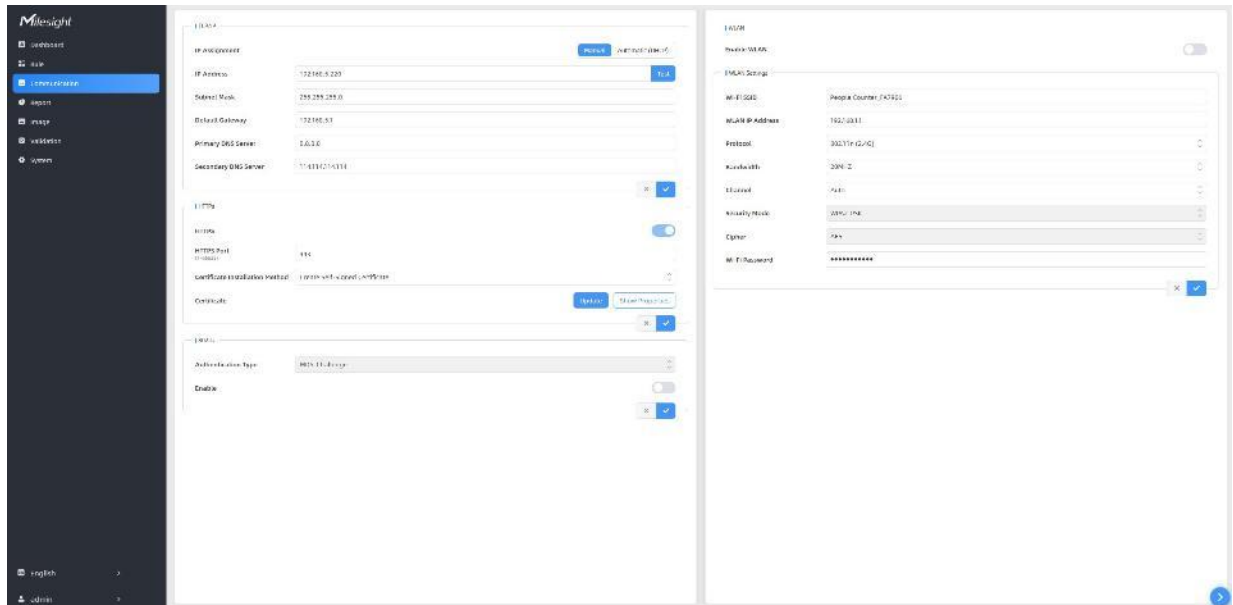
5. [  ] をクリックして をクリックして設定を保存します。


## MQTT API パラメータの設定（セルラー版のみ）

本デバイスは、ピープルカウンティングデータの取得やデバイス設定の変更を行うための [ダウンリンクコマンド](#) を受信する MQTT API を提供しています。このセクションでは、MQTT API のパラメータ設定方法について説明します。これはセルラー版にのみ適用されます。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**Communication**」をクリックします。





2. 右下隅にある「」をクリックします。MQTT APIページが表示されます。

The screenshot shows the MQTT API configuration page. The title is 'MQTT API'. The status is 'Disconnected'. The fields are: Host (112.48.19.183), Port (10566), Topic (12345), Client ID (empty), Username (admin), Password (masked with dots), QoS (QoS 1), and TLS (disabled). There are 'X' and 'checkmark' buttons at the bottom right.

3. 必要に応じて、以下のパラメータを設定してください。パラメータの説明については、次の表を参照してください。

Parameters	説明
Status	デバイスとMQTTブローカー間の接続状態です。
Host	データを受信するMQTTブローカーのアドレスです。
Port	データを受信するMQTTブローカーのポート番号です。
Topic	<p>メッセージの配信に使用されるトピック名です。トピック名の例は以下の通りです：</p> <p>Topic ① <input type="text" value="device/downlink_config"/></p> <p>以下のプレースホルダーは、サブスクリプション時にデバイス情報に動的に置き換えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>\$devsn: デバイスシリアル番号</li> <li>\$prdmd: 製品モデル</li> <li>\$devid: カスタマイズされたデバイスID</li> <li>\$siteid: カスタマイズされたサイトID</li> </ul>
Client ID	MQTTサーバーに対する一意のクライアント識別子です。同じサーバーへのすべての接続において一意である必要があり、QoSレベル1および2でのメッセージ配信を管理するために不可欠です。
Username	MQTTブローカー認証用のユーザー名です。
Password	MQTTブローカー認証用のパスワードです。
QoS	オプション：QoS 0、QoS 1、および QoS 2。
TLS	MQTT通信でTLS暗号化を有効にします。
Certificate Type	このパラメータは、TLSが有効になった後に表示されます。オプション：CA Signed Server CA署名済みサーバーまたはSelf Signed自己署名。

Parameters	説明
	<p>「Certificate Type」が「CA Signed Server CA署名済みサーバー」に設定されている場合、デバイスにプリインストールされているCA証明書を使用してサーバーの検証が行われます。</p> <p>「Certificate Type」が「Self-signed」に設定されている場合は、をクリックし、本人確認用の対応するファイルをアップロードしてください。</p>

4.  をクリックしてをクリックして設定を保存します。

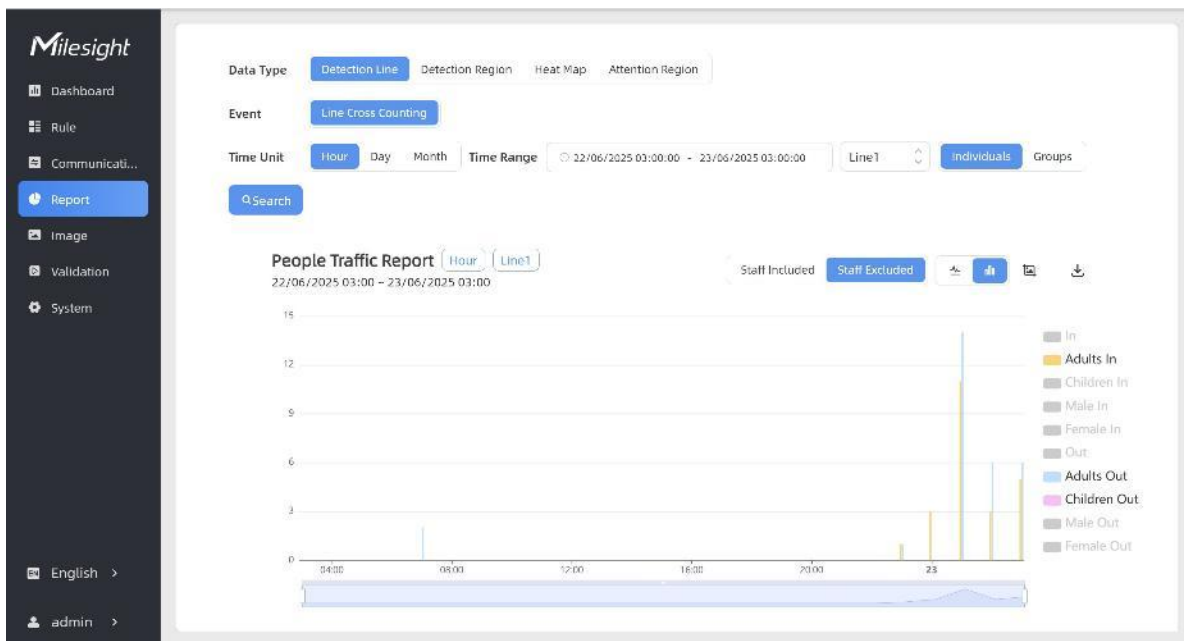
## レポートの生成

基本的なカウント機能と高度なAI再コロニー化機能の両方を設定すると、本デバイスはダッシュボード、レポート、コマンドライン出力など、複数のデータ表示オプションを提供します。











本端末では、人の往来を表示するための視覚的な折れ線グラフや棒グラフの作成に対応しており、レポートのエクスポートも可能です。この機能をご利用になる前に、必ず「System」ページで端末の時刻が正しいことをご確認ください。














手順：






1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックします。



- レポート生成用のデータタイプを選択します。オプション：**Detection Line, Detection Region, Heat Map, Attention Region, I/O**
- 必要に応じて、以下の動作のいずれかを行ってください。

If	実行
<p><b>Data TypeがDetection Lineに設定されている場合</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>Time Unit</b>時間単位と<b>Time Range</b>時間範囲を設定してください。</li> <li>ドロップダウンリストから行を選択してください。</li> <li>必要に応じて「<b>Individuals</b>個人」または「<b>Group</b>」を選択してください。</li> <li>「<b>Search</b>」をクリックします。それに応じて、<b>People Traffic Report</b>来客数レポートが表示されます。</li> <li>「<b>Include Staff</b>」または「<b>Exclude Staff</b>」をクリックして、レポートにスタッフの値を含めるか除外するかを選択します。</li> <li> または  をクリックして、レポートを対応するフォームで表示します。</li> <li> をクリックして、チャートのスクリーンショットをダウンロードします。</li> <li> をクリックして、過去のトラフィックデータをCSVファイルにエクスポートします。システムでは、1つのCSVファイルにつき最大1,000,000件のデータレコードのエクスポートに対応しています。</li> <li>次の図の任意のカテゴリをクリックすると、チャートからそのカテゴリを非表示にできます。 <ul style="list-style-type: none"> <li> In</li> <li> Adults In</li> <li> Children In</li> <li> Out</li> <li> Adults Out</li> <li> Children Out</li> </ul> </li> </ol>
<p><b>Data TypeがDetection Regionに設定されている場合</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>イベントを選択してください。オプション：ピープルカウンティング、滞留時間検出必要に応じて、いずれかの動作を行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「<b>Events</b>」が「<b>Region People Counting</b>」に設定されている場合：<b>Time Range</b>範囲を設定し、ドロップダウンリストからエリアを選択してください。</li> <li>▪ <b>Event</b>が「<b>Dwell Time Detection</b>滞在時間検出」に設定されている場合：<b>Time Range, Min. Value, Bin Width, Number Of Bins</b>設定し、ドロップダウンリストから地域を選択してください。</li> </ul> </li> <li>「<b>Search</b>」をクリックします。それに応じて、「<b>People Counting Report</b>」または「<b>Total Dwell Time Report</b>」が表示されます。</li> </ol>

If	実行
	<p>d. <b>[Staff Included]</b> または <b>[Staff Excluded]</b> をクリックして、レポートにスタッフのカウンタ値を含めるか除外するかを選択します。</p> <p>e.  をクリックして、チャートのスクリーンショットをダウンロードします。</p> <p>f. ここをクリックして  をクリックして、過去のトラフィックデータをCSVファイルにエクスポートしてください。システムでは、1つのCSVファイルにつき最大1,000,000件のデータレコードのエクスポートに対応しています。</p> <p>g. 次の図の任意のカテゴリをクリックすると、チャートからそのカテゴリを非表示にできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> Count</li> <li> Adults Count</li> <li> Children Count</li> <li> Male Count</li> <li> Female Count</li> </ul>
Data Type が Heat Mapに設定されている	<p>a. イベントを選択してください。オプション : <b>Motion Heatmap, Dwell Heatmap</b>。</p> <p>b. <b>Time Range</b>時間範囲を設定します。</p> <p>c. 「<b>Search</b>」をクリックしてください。それに応じて、「<b>Motion Heatmap Report</b>」または「<b>Dwell Heatmap Report</b>」が表示されます。</p> <p>d.  をクリックして、チャートのスクリーンショットをダウンロードします。</p> <p>e.  をクリックして画像を更新します。</p>
Data Type が Attention Region に設定されている	<p>a. 「<b>Time Range</b>」、「<b>Min. Value</b>」、「<b>Bin Width</b>」、「<b>Number Of Bins</b>」を設定し、注目領域を選択します。</p> <p>b. <b>[Search]</b> をクリックします。それに応じて、<b>Attention Time Report</b>注目時間レポートが表示されます。</p> <p>c. <b>[Staff Included</b>スタッフを含む] または <b>[Staff Excluded</b>スタッフを除く] をクリックして、レポートにスタッフのカウンタ値を含めるか除外するかを選択します。</p> <p>d. [  または  ] をクリックして、レポートを対応する形式で表示します。</p> <p>e.  をクリックして、チャートのスクリーンショットをダウンロードします。</p> <p>f.  をクリックして、過去のトラフィックデータをCSVファイルにエクスポートします。システムでは、1つのCSVファイルにつき最大1,000,000件のデータレコードのエクスポートに対応しています。</p>

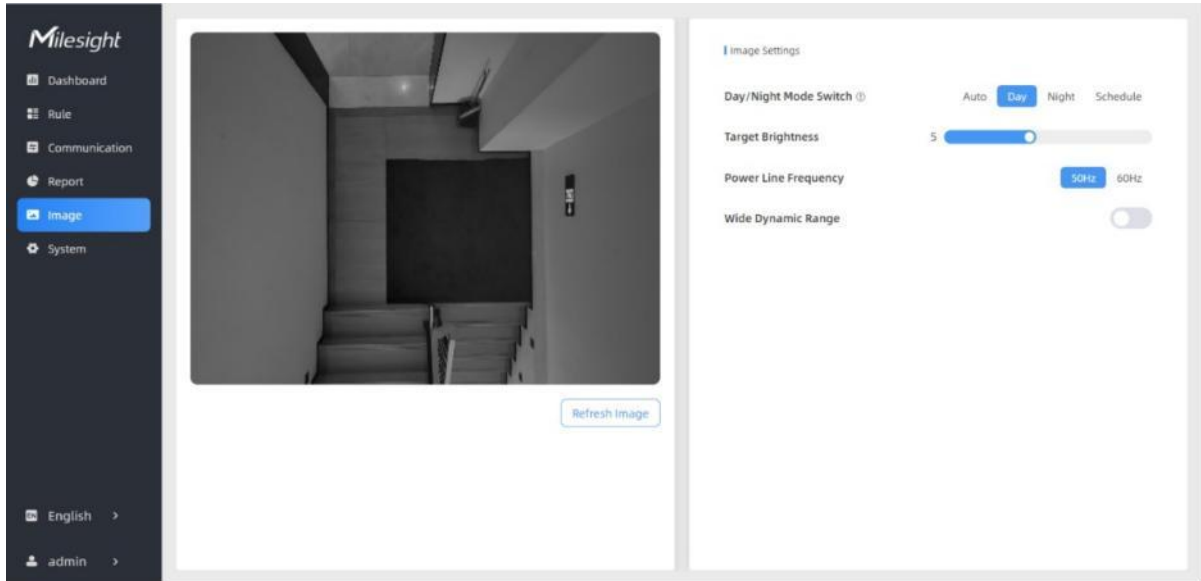
If	手順
	<p>g. 次の図の任意のカテゴリをクリックすると、チャートからそのカテゴリを非表示にできます。</p> 
Data Type が I/O に設定されている	<p>a. <b>Time Unit</b>時間単位と<b>Time Range</b>時間範囲を設定します。</p> <p>b. 「Search」をクリックしてください。すると、「<b>Digital Input Trigger Count Report</b>」が表示されます。</p> <p>c.  クリック または  をクリックして、レポートを対応するフォームで表示します。</p> <p>d. 「」をクリックして、チャートのスクリーンショットをダウンロードします。</p> <p>e. [] をクリックして、過去のトラフィックデータをCSVファイルにエクスポートします。システムでは、1つのCSVファイルにつき最大1,000,000件のデータレコードのエクスポートに対応しています。</p>

## 画像パラメータの設定

本デバイスは優れた照明適応性を備えており、低照度環境や完全な暗闇でも正常に動作します。非光感受性方式に基づく昼夜モードの切り替えに対応しています。このセクションでは、画像パラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Image」をクリックします。

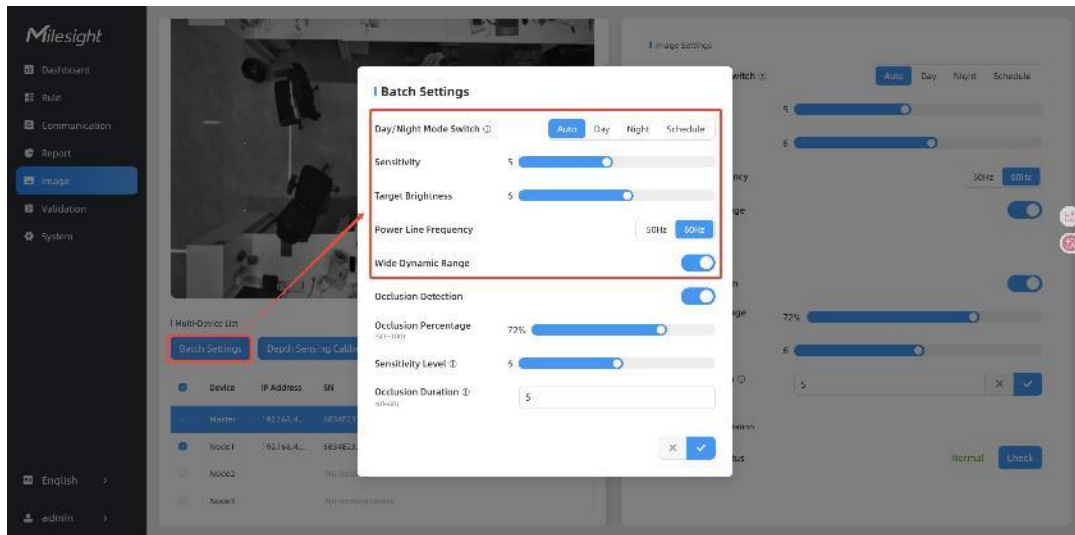


2. 右側の「Image Settings画像設定」エリアで、必要に応じて以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
<b>Day/Night Mode Switch</b>	<p>画像モードを設定します。オプション：<b>Auto</b>、<b>Day</b>、<b>Night</b>、<b>Schedule</b>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>Auto</b>：画像の明るさに応じて、昼モードと夜モードを自動的に切り替えます。</li> <li>- <b>Day</b>：白黒モード。</li> <li>- <b>Night</b>：赤外線を利用した白黒モードです。</li> <li>- <b>Schedule</b>：設定されたスケジュールに基づいて、昼モードと夜モードを切り替えます。</li> </ul>
<b>Sensitivity</b>	自動昼夜モード切替の感度を設定します。感度が高いほど、昼モードと夜モードの切り替えが容易になります。
<b>Night Mode Duration</b>	夜間モードの継続時間を設定します。
<b>Target Brightness</b>	対象物の明るさを設定して、画像を鮮明にします。明るさを高く設定するほど、対象物の明るさが増します。

Parameters	説明
<b>Power Line Frequency</b>	画像のちらつきを防ぐために周波数を選択してください。オプション： <b>50Hz、60Hz。</b>
<b>Wide Dynamic Range</b>	<b>Wide Dynamic Range</b> ワイドダイナミックレンジを有効または無効にします。有効にすると、光の条件が大きく異なるシーンでも、より詳細な情報を捉えることができます。

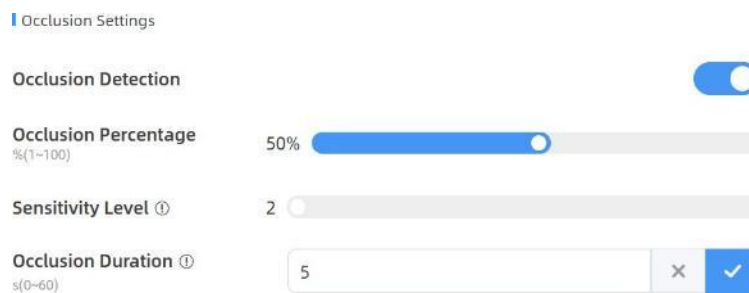
3. (オプション) 複数のデバイスを結合した際、設定が必要なデバイスを選択し、一括動作を行うことができます。



4. 「Refresh Image」をクリックして、画像の変更を確認してください。

## オクルージョンアラームの設定を行う

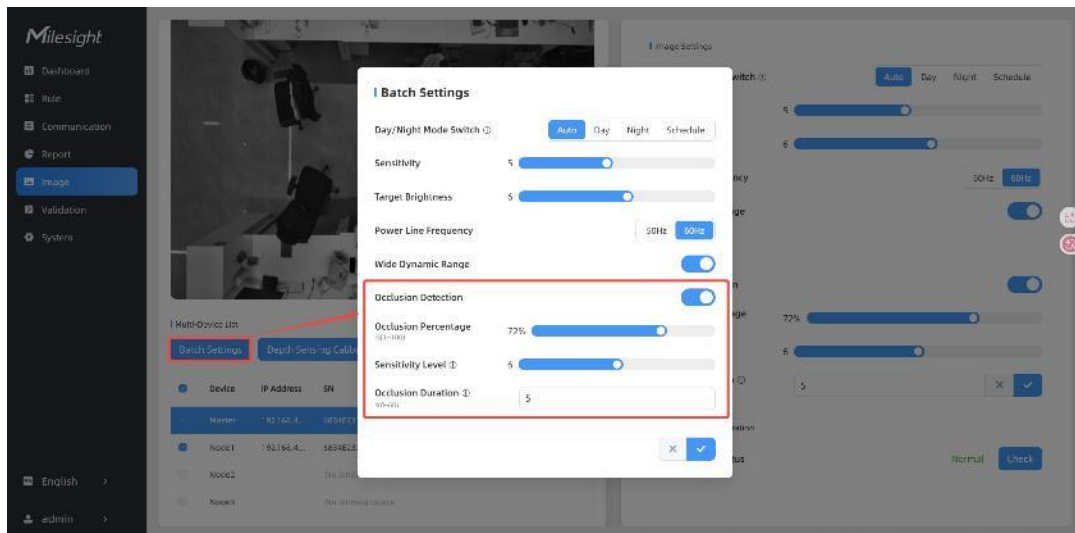
「遮蔽アラーム」を有効にすると、センサーが遮蔽されたことを検知できます。遮蔽が発生するとアラームが鳴り、遮蔽が解除されると解除通知が表示されます。




1. **Occlusion Detection** **遮蔽検出**を有効にします。
2. 必要に応じて、以下のパラメータを設定してください。マルチデバイス・ステッチング・モードが有効になっている場合、マスターデバイスとノードデバイスのオクルージョン設定パラメータは同期されます。どのデバイスがマスクされていても、マスターデバイスがアラームを發します。

Parameters	説明
<b>Occlusion Percentage</b>	プログレスバーをドラッグし、アラームをトリガーするために視野全体の何パーセントが遮蔽されなければならないかの閾値を調整します。デフォルト：50%。
<b>Sensitivity Level</b>	「ドラッグ感度レベル」のプログレスバーをドラッグして、オクルージョントリガーの感度を調整します。レベルが高いほどオクルージョンを検出しやすくなりますが、誤検知率も高くなります。デフォルト：2。
<b>Occlusion Duration</b>	値を指定して、センサーが遮蔽されている必要がある時間を設定します。

3. (任意) 複数のデバイスを結合した際、設定が必要なデバイスを選択し、一括動作を行うことができます。



4.  をクリックして、設定を完了してください。
5. また、ユーザーは[アラームレポート](#)を通じてデータを表示することもできます。

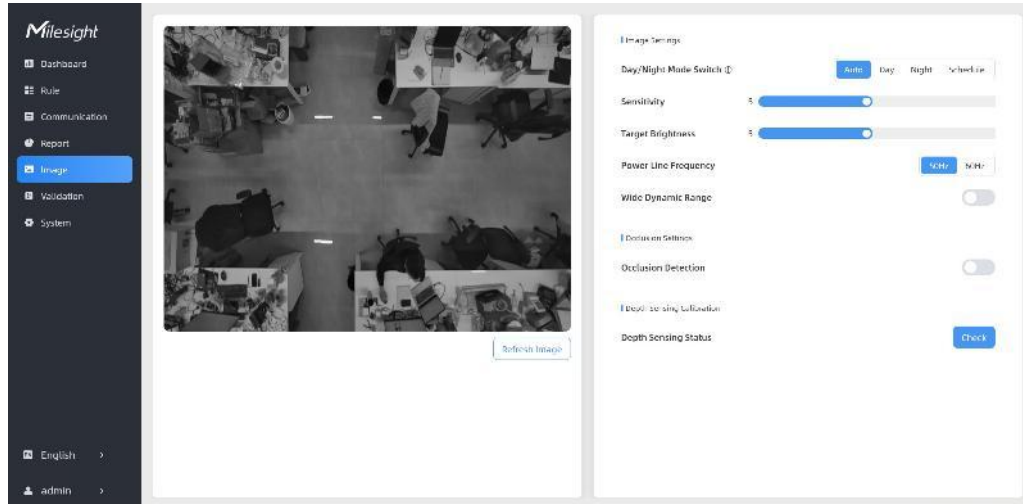
## 深度検知の較正を設定する

設置時の負荷や物理的な衝撃により、VS125の性能が低下し、深度マップの品質やピープルカウンティングの精度に影響が出る可能性があります。適切に設置したにもかかわらず、深度マップが異常な表示になったり、計測精度が低下したりした場合は、デバイスの深度検知機能を点検・復旧することができます。

**Prerequisite前提条件**：十分な照明のある環境にデバイスを設置してください。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Image」をクリックしてください。



2. 右側の「深度検知の校正」エリアで、「Confirm」をクリックし、現在の深度検知機能を確認してください。



3. 「Normal」と表示されている場合は、深度検知が正常に機能していることを示しています。



「Abnormal」とは、深度検知が正しく機能していないことを意味します。2回連続でチェックを行った後に「Abnormal」と表示された場合は、「Repair」をクリックしてください。



問題が解決しない場合は、表示された手順に従って複数の固定オブジェクトを配置するか、テクニカルサポートまでご連絡ください。

4. (オプション) 複数のデバイスを結合している場合、マスターデバイスの深度検知インターフェースで検知対象のデバイスを選択し、一括検知を行うことができます。

Multi-Device List Refresh Image

Batch Settings Depth Sensing Calibration

<input checked="" type="checkbox"/>	Device	IP Address	SN	Device Name	Depth Sensing Status	Operation	
<input checked="" type="checkbox"/>	Master	192.168.4...	6834E231...	People Count...	Normal		
<input checked="" type="checkbox"/>	Node1	192.168.4...	6834E232...	People Counter	-		
<input type="checkbox"/>	Node2	No binding device					
<input type="checkbox"/>	Node3	No binding device					

「Normal」は、深度検知が正常に機能していることを示します。

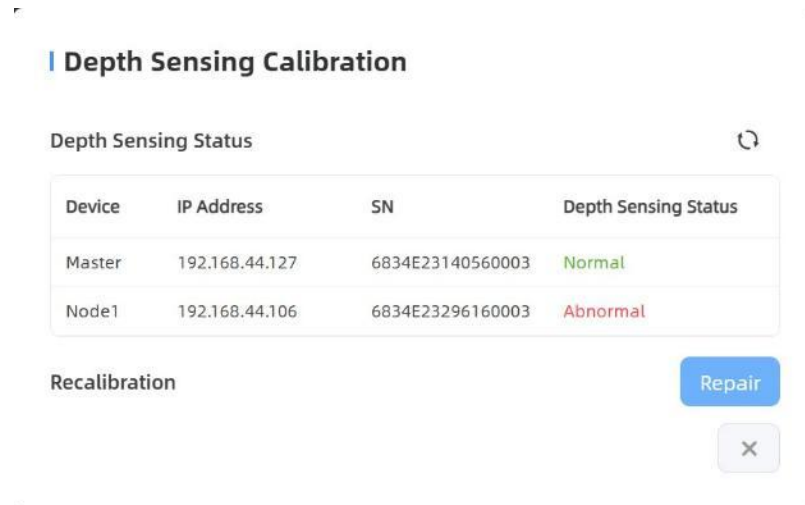
### Depth Sensing Calibration

Depth Sensing Status

Device	IP Address	SN	Depth Sensing Status
Master	192.168.44.127	6834E23140560003	Normal
Node1	192.168.44.106	6834E23296160003	Normal



「Abnormal」とは、深度検知が正しく機能していないことを意味します。2回連続でチェックを行った後に「Abnormal」と表示された場合は、「Repair」をクリックしてください。



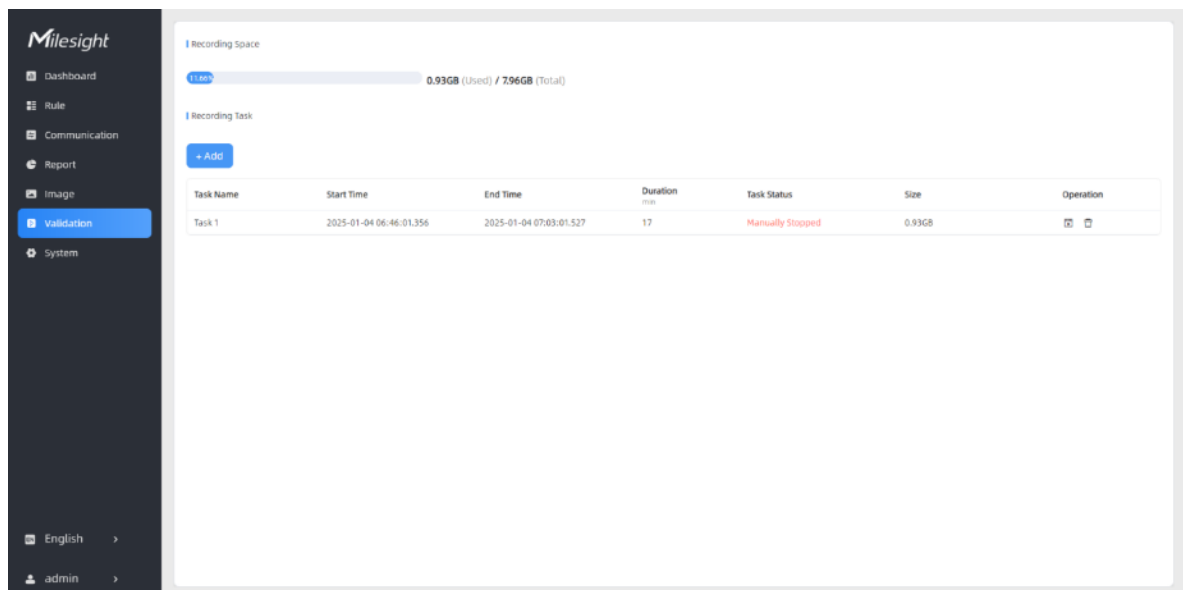
問題が解決しない場合は、表示された手順に従って複数の静止物を配置するか、テクニカルサポートまでご連絡ください。

## ビデオ検証の設定

動画検証機能を使用すると、記録された動画と結果を比較することで、ピープルカウンティングの精度を確認することができます。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Verification」をクリックします。



2. 右側の「録画タスク」エリアで、「+ Add」をクリックします。「**Set a Task of Recording**」ダイアログボックスが表示されます。このデバイスでは、最大 50 件のタスクを追加できます。

**Set a Task of Recording**

Task Name

Recording Mode  Record Now  Setting Time

Start Time

Duration   
min(1~60)

3. 必要に応じて、以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Task Name	タスク名をカスタマイズします。
Recording Mode	オプション：「 <b>Record Now</b> 今すぐ録画」または「 <b>Setting Time</b> 録画時間を設定」。
Start Time	このパラメータは、 <b>Recording Mode</b> 録画モードが「 <b>Setting Time</b> 時間設定」に設定されている場合にのみ表示されます。録画の開始時間を設定します。
Duration	録画時間を設定します。範囲：60分以下。



注：

異なるタスクで設定された範囲が重複しないようにしてください。

4.  をクリックしてください。タスクは「**Recording Task**記録タスク」エリアに表示されます。



制限事項：

記録処理中は、検出ルールを変更することはできません。


5. 記録が完了したら、



**Operation**動作エリアのページです。次のページが表示

されます。



6. プレビューレイアウトを編集するには、[  ] をクリックしてください。詳細については、次の表を参照してください。

### Edit Preview Layout

#### Visual Configuration

- Detection Line
- U-turn Area
- Detection Region
- Obstacle Exclusion Region


#### AI Result

- Real-time Track Line
- Static Track Line

#### Other


- Track Start  / Stop  Points

Parameters	説明
<b>Visual Configuration</b>	対応するルールをクリックすると、ビデオ内でそのルールを表示または非表示にできます。
<b>AI Result</b>	対応する行をクリックすると、動画内でその行を表示または非表示にできます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>Real-time Track Line</b>リアルタイム追跡線：ターゲットのリアルタイムの軌跡線</li> <li>- <b>Static Track Line</b>静的追跡線：ターゲットの過去の軌跡線</li> </ul>
<b>Other</b>	 をクリックすると、動画内の追跡ポイントを表示または非表示にできます。

7.  をクリックして動画を再生し、ピープルカウンティングの精度を確認してください。

**注：**

下部の再生プログレスバーは、データに変化が生じた動画フレームをハイライト表示します。

- (オプション)  をクリックして動画をダウンロードし、専用の **Milesight VS Player** を使用してローカル再生を行ってください。

## システムパラメータの設定

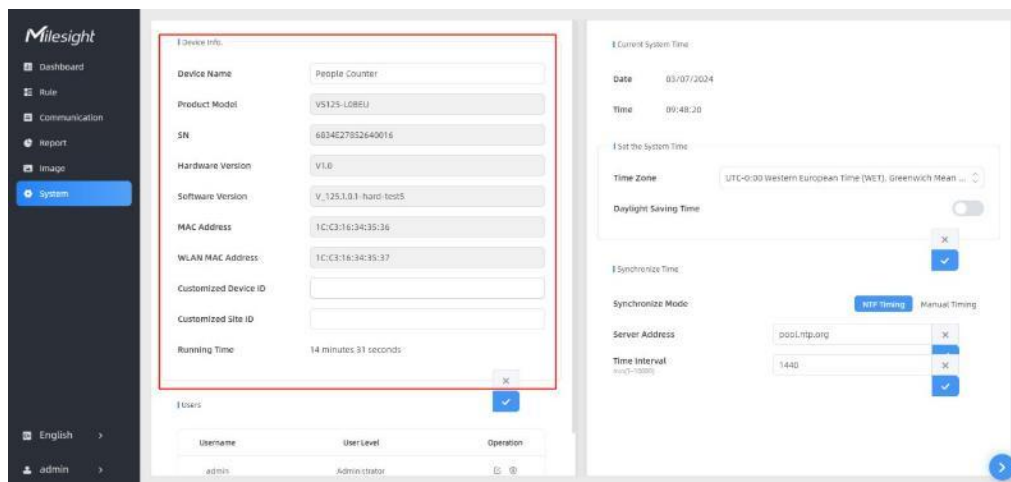
このセクションでは、システムパラメータの設定方法について説明します。


### デバイスパラメータの設定

デバイスのハードウェアおよびソフトウェア情報は、「**System**」ページで確認できます。また、ユーザーは、複数デバイスの管理のために、デバイス名、デバイスID、およびサイトIDをカスタマイズすることができます。

手順：

- メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**System**」をクリックします。



- 「**Device Information**」エリアで、デバイス情報を確認し、必要に応じてデバイス名、デバイスID、サイトIDを設定します。
- 「」をクリックして設定を保存します。

### ユーザーパラメータの設定


このセクションでは、ユーザーパラメータの設定方法について説明します。

ユーザーロール：

- 管理者：すべてのウェブページ設定にアクセスできる、システム全体の権限を持っています
- 閲覧者：DashboardとReportページにのみアクセスできます

### 管理者のパラメータを変更する

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「System」をクリックします。
2. デバイスのログインパスワードを変更するには：


- a. 「User」エリアで、 Operation列でクリックします。「Users modify」ダイアログボックスが表示されます。

#### Users modify

Username	<input type="text" value="admin"/>
User Level	<input type="text" value="Administrator"/>
Administrator Password	<input type="password"/>
New Password	<input type="password"/>
Confirm Password	<input type="password"/>




At least



- 8 characters
- Must contain uppercase letters, lowercase letters, numbers, and special characters


- b. 「Administrator Password」エリアに、デバイスのログインパスワードを入力します。
  - c. 「New Password」の欄に、新しいパスワードを入力してください。
  - d. 「Confirm Password」欄に、新しいパスワードをもう一度入力してください。
  - e. 「」をクリックして設定を保存してください。
3. セキュリティの質問を設定するには：

- a.  をクリックします。「Security Question Settings」ダイアログボックスが表示されます。

**Secure Question Settings** Already Set

Password	<input type="text"/>
Security Question1	What is your lucky number? 
Answer1	<input type="text"/>
Security Question2	What is your favorite sport? 
Answer2	<input type="text"/>
Security Question3	What is your favorite color? 
Answer3	<input type="text"/>

- b. ログインパスワードを入力し、3つのセキュリティの質問に対する回答を入力してください。
- c.  をクリックして設定を保存します。

トラブルシューティング：パスワードをお忘れの場合は、ログインページの「Forgot Password」をクリックし、3つのセキュリティの質問に答えることでパスワードをリセットできます。

## 閲覧者の追加

1. 「+ ユーザーを追加」をクリックします。「ユーザーを追加」ダイアログボックスが表示されます。





### Add User


Username	<input type="text" value="viewer"/>
User Level	<input type="text" value="Viewer"/>
Password	<input type="password"/>
Confirm Password	<input type="password"/>

**At least**

- 8 characters
- Must contain uppercase letters, lowercase letters, numbers, and special characters

2. 「Password」欄に、新しいパスワードを入力してください。
3. 「Confirm Password」欄に、新しいパスワードをもう一度入力してください。
4.  をクリックして設定を保存します。ユーザーが **[Users]** エリアに表示されます。

Username	User Level	Operation
admin	Administrator	 
viewer	Viewer	 

5. (オプション)  をクリックして、ビューアのパスワードを変更します。

### Users modify

Username

User Level

Administrator Password

New Password

Confirm Password

At least

- 8 characters
- Must contain uppercase letters, lowercase letters, numbers, and special characters



## 時間パラメータの設定

このセクションでは、時間パラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[System]** をクリックします。
2. 「**Set the System Time**システム時刻の設定」エリアで、必要に応じて以下のパラメータを設定します。

Parameters	説明
<b>Time Zone</b>	システム同期用のタイムゾーンを選択してください。
<b>Daylight Saving Time</b>	夏時間 (DST) を有効または無効にします。 <b>Start Time</b> : 夏時間の範囲の開始時刻です。 <b>End Time</b> : DST 範囲の終了時刻です。

Parameters	説明
	<b>DST Bias</b> : 夏時間期間中に時計の時刻を早めるためのオフセット値を指定します。

3. 「**Synchronize Time**」エリアで、必要に応じて以下の動作を行ってください。
- 必要に応じて、「**Synchronize Mode**」を「**NTP Timing**」または「**Manual Timing**」に設定してください。
  - 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

If	「実行」
<b>Synchronize Mode</b> が <b>NTP Timing</b> に設定	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>[Server Address]</b> フィールドに NTP サーバーのアドレスを入力し、<input checked="" type="checkbox"/> をクリックします。</li> <li>「<b>Time Interval</b>」エリアで、デバイスとNTPサーバー間の時刻同期間隔を入力し、「<input checked="" type="checkbox"/>」をクリックしてください。</li> </ol>
<b>Synchronize Mode</b> が <b>Manual Timing</b> に設定	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>[Setting Time]</b> エリアで、デバイスの時刻を設定し、<input checked="" type="checkbox"/> をクリックします。</li> <li><b>[Synchronize with your computer time]</b> コンピュータ時刻と同期 エリアで、<b>[Synchronize]</b> をクリックして、デバイスの時刻をコンピュータのシステム時刻と同期させます。</li> </ol>

## リモート管理パラメータの設定


Milesightは、[Milesight DeviceHubプラットフォーム](#)および[Milesight Development Platform](#)を通じて、本デバイスのリモート管理サービスを提供しています。接続を確立するには、デバイスがネットワークに接続されており、インターネット接続が安定している必要があります。このセクションでは、リモート管理の設定方法について説明します。

手順：

- メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**System**」をクリックします。
- 右下隅の「」をクリックします。次のページが表示されます。




If	実行
Platformが DeviceHub2.0 (PoE Version Only)に設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 「<b>Server Address</b>」欄に、DeviceHub 2.0 管理サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力してください。</li> <li>b. 「<b>Synchronize Device Name</b>」を有効にすると、デバイス名が Devicehub 2.0と同期されます。</li> <li>c. 「<b>Synchronize Customized ID</b>」を有効にすると、デバイスIDとサイトIDがDevicehub 2.0と同期されます。</li> <li>d. <b>[Connect]</b> をクリックします。</li> </ul>
Platform が IoT Development Platformに設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 「<b>Remote Management Service</b>」を有効にすると、Milesight Development Platform を通じてデバイス設定を変更できます。</li> <li>b. 「<b>Auto Provisioning</b>」を有効にしてください。これにより、デバイスは、初回起動時、またはリセット後にインターネットに接続した際に、IoT Development Platform サーバーから事前設定ファイルを取得します。</li> <li>c. 指定された間隔でピープルカウンティングデータをMilesight Developmentプラットフォームに送信するように、データ転送パラメータを設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>i. <b>Data Transfer Service</b>を有効にしてください。 <b>Periodic Report</b>は自動的に有効になります。</li> <li>ii. 必要に応じて、<b>Periodic Report Scheme</b>のスキームを「<b>On the Dot</b>」または「<b>From Now On</b>」に設定します。</li> <li>iii. <b>Period</b>を設定します。</li> <li>iv. 必要に応じて、<b>Trigger Report</b>を有効にしてください。</li> </ul> </li> </ul>

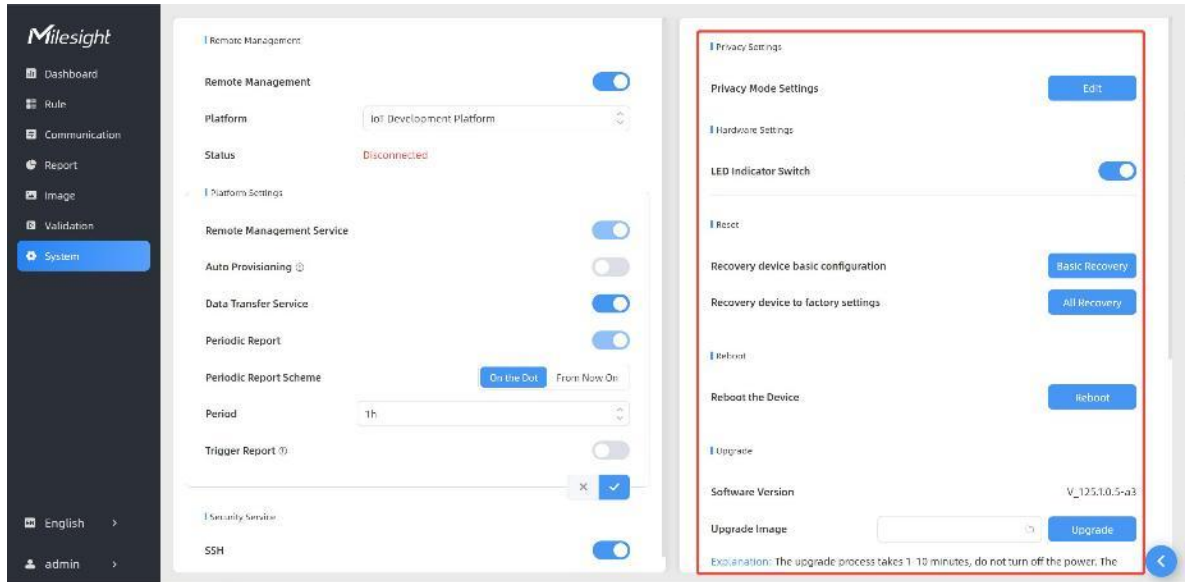
6.  をクリックしてをクリックして設定を保存します。
7. **[Security Service]** エリアで、**SSH** を有効にして SSH アクセスを許可します。SSH ポートは 22 に固定されています。

## システムメンテナンスパラメータの設定

このセクションでは、システムメンテナンスパラメータの設定方法について説明します。


手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**System**」をクリックしてください。
2. 右下隅にある「」をクリックします。次のページが表示されます。



3. 右側のページで、必要に応じて以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Privacy Settings	初回ログイン」 <b>Privacy Mode Settings</b> : ダッシュボードの表示を変更したい場合は、「Edit」をクリックしてプレビューモードを切り替えてください。パラメータの定義については、「初回ログイン」をご参照ください。
Hardware Settings	<b>LED Indicator Switch</b> : デバイスが通常動作している際のLEDインジケータを有効または無効にします。
Reset	<b>Recovery device basic configuration</b> : 「Basic Recovery」をクリックすると、IP設定とユーザー情報を保持したままデバイスをリセットします。
	<b>Recovery device to factory settings</b> : <ol style="list-style-type: none"> <li>「All Recovery」をクリックして、デバイスを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。「Tips」ダイアログボックスが表示されます。               <div style="margin-left: 20px;"> <p><b>Tips</b></p> <p>Administrator Password <input type="text"/></p> <p style="text-align: right;">x ✓</p> </div> </li> <li>デバイスのログインパスワードを入力してください。</li> </ol>
Reboot	デバイスの再起動 : 「Reboot」をクリックすると、デバイスが直ちに再起動します。
Upgrade	<b>Upgrade Image</b> : <input type="file"/> をクリックしてアップグレードファイルをアップロードし、「Upgrade」をクリックしてデバイスをアップグレードします。アップグレード処理には1~10分かかります。

Parameters	説明
	<p>この作業中は、電源を切らないでください。アップグレードが完了すると、デバイスは自動的に再起動します。</p> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p><b>!</b> <b>重要 :</b> バージョン1.0.5以上にアップグレードすると、以前のバージョンに戻すことはできなくなりますので、アップグレード前に十分にご確認ください。</p> </div>
Backup and Restore	<p><b>Export Config File :</b> 「Export」 をクリックして、設定ファイルをエクスポートします。</p> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;"></div> <p><b>Import Config File :</b> クリックしてをクリックして設定ファイルをアップロードし、「Import」 をクリックして設定ファイルをインポートしてください。</p>
Diagnostics	<p><b>System Log :</b> トラブルシューティング用のログファイルをダウンロードするには、「Download」 をクリックしてください。</p> <p><b>Logging Level Settings :</b> デフォルトでは、システムログにはデバッグ情報は含まれません。トラブルシューティングのために、より詳細なデバッグログを取得するには、「Include Debug」 に切り替えてください。</p> <p><b>IP Ping :</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>a. <b>[Open Ping Tool]</b> をクリックします。<b>[Ping Tool]</b> ダイアログボックスが表示されます。</li> <li>b. 「Host」 欄に、ネットワーク接続をテストするIPアドレスまたはURLを入力してください。</li> <li>c. <b>[Ping]</b> をクリックしてください。</li> </ol> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>Ping Tool</b></p> <p>Host <input type="text" value="www.google.com"/> <span style="margin-left: 10px;"><b>Ping</b></span> <span style="margin-left: 10px;"><b>Stop</b></span></p> <pre style="font-family: monospace; font-size: 0.9em;">PING www.google.com (142.250.196.228): 56 data bytes 64 bytes from 142.250.196.228: seq=0 ttl=113 time=31.403 ms 64 bytes from 142.250.196.228: seq=1 ttl=113 time=30.818 ms 64 bytes from 142.250.196.228: seq=2 ttl=113 time=34.176 ms 64 bytes from 142.250.196.228: seq=3 ttl=113 time=30.537 ms  --- www.google.com ping statistics --- 4 packets transmitted, 4 packets received, 0% packet loss round-trip min/avg/max = 30.537/31.733/34.176 ms</pre> <p style="text-align: right;"><span style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px 5px;">×</span></p> </div>

## 第5章 アップリンクデータとダウンリンクコマンド

この章では、本デバイスが対応するアップリンクデータパケットおよびダウンリンクコマンドについて説明します。

### アップリンクデータ

本デバイスは、ピープルカウンティングデータをJSON形式でHTTP URLまたはMQTTブローカーに送信することができます。設定の詳細については、「[受信先パラメータの設定](#)」をご参照ください。このセクションでは、リアルタイムおよび定期的なレポート作成のためのアップリンクデータの例をご紹介します。

#### リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例

レポート戦略が「**Trigger Report**」（リアルタイムレポートが有効）に設定されている場合、デバイスはデータが変更されるとアップリンクデータを報告します。このセクションでは、リアルタイムレポートにおけるアップリンクデータの例をご紹介します。

#### ライン通過者ピープルカウンティングのデータ例

```
{
  "device_info":
  {
    "cus_device_id": "123456", "cus_site_id": "789123", "device_mac": "24:E1:24:FA:0C:6C", //PoE version only
    "device_name": "People Counter",
    "device_sn": "6384E16179950009",
    "firmware_version": "V_125.1.0.1",
    "hardware_version": "V1.0",
    "ip_address": "192.168.60.183",
    "running_time": 58, "wlan_mac":
    24:E1:24:54:23:0A
  }, "network_info": //Cellular version only
  {
    "network_status": "1", //1 is connected, 0 is disconnected
    "iccid": "89860117838009934120", "imei": "860425047368939", "cell_id": "340db80", "lac": "5299"
  },
}
```

```
"line_trigger_data":  
[  
  {  
    "children":  
    { "female_in": 8,  
      "female_out": 2,  
      "in": 14,  
      "male_in": 8,  
      "male_out": 2,  
      "out": 6  
    }, "group": {  
      "in": 0, "out": 0  
    }, "staff": { "female_in": 0, "female_out": 0, "in": 0, "male_in": 0, "male_out": 0, "out": 0  
    }, "total": { "female_in": 20, "female_out": 22, "in": 27, "male_in": 20, "male_out": 22, "out": 27  
    }, "line": 1, "line_name": "Line11111111111111111111111111111111", "line_uuid": "9a0440de-3188-4f6d-b886-bb20c97bd26b"  
  }, {  
    "children": {
```

```
    "female_in": 8, "female_out": 2, "in": 14, "male_in": 8, "male_out": 2, "out": 6
  }, "group": {
    "in": 0, "out": 0
  }, "staff": { "female_in": 0, "female_out": 0, "in": 0, "male_in": 0, "male_out": 0, "out": 0
  }, "total": { "female_in": 20, "female_out": 22, "in": 27, "male_in": 20, "male_out": 22, "out": 27
  }, "line": 3, "line_name": "Line33333333333333333333333333333333", "line_uuid": "82ffe54d-0191-484b-a2fc-495628a8f2a1"
}
], "time_info":
{
  "dst_status": false,
  "enable_dst": true,
  "time": "2024-05-
30T20:11:32+08:0
0",
```

```

"time_zone": "UTC+8:00 China Standard Time (CT/CST)"
}
}

```

### 地域のピープルカウンティングに関するデータ例

```

{
"device_info":
{
"cus_device_id": "123456", "cus_site_id": "789123", "device_mac": "24:E1:24:FA:0C:6C", //PoE version only
"device_name": "People Counter",
"device_sn": "6384E16179950009",
"firmware_version": "V_125.1.0.1",
"hardware_version": "V1.0",
"ip_address": "192.168.60.183",
"running_time": 105, "wlan mac":
24:E1:24:54:23:0A
}, "network_info": //Cellular version only
{
"network_status": "1", //1 is connected, 0 is disconnected
"iccid": "89860117838009934120", "imei": "860425047368939", "cell_id": "340db80", "lac": "5299"
}, "region_trigger_data":
{
"region_count_data":
[
{
"total":
{ "current_female": 0,
"current_male": 1,

```

```

    "current_total": 2
  }, "children": { "current_female": 0, "current_male": 1, "current_total": 2
  }, "staff": { "current_female": 0, "current_male": 1, "current_total": 2
  }, "region": 1, "region_name": "Region1", "region_uuid": "bd1e6ce2-e113-4ce4-a9b6-0633f7083cac"
}
]
}, "time_info":
{
  "dst_status": false,
  "enable_dst": true,
  "time": "2024-05-
30T20:12:20+08:0
0", "time_zone":
"UTC+8:00 China
Standard Time
(CT/CST)"
}
}

```

### 滞留時間検出のデータ例

```

{
  "device_info":
  {
    "cus_device_id": "123456", "cus_site_id": "789123", "device_mac": "24:E1:24:FA:0C:6C", //PoE version only
    "device_name": "People Counter",
    "device_sn": "6384E16179950009",
    "firmware_version": "V_125.1.0.1",
  }
}

```

```

"hardware_version": "V1.0",
"ip_address": "192.168.60.183",
"running_time": 106, "wlan_mac":
24:E1:24:54:23:0A

}, "network_info": //Cellular version only
{
  "network_status": "1", //1 is connected, 0 is disconnected
  "iccid": "89860117838009934120", "imei": "860425047368939", "cell_id": "340db80", "lac": "5299"
}, "region_trigger_data":
{
  "dwell_time_data":
[
{
  "children": false,
  "duration": 96799,
  "dwell_end_time": "2024-
05-30T20:12:20+08:00",
  "dwell_start_time": "2024-
05-30T20:10:43+08:00",
  "people_id": 5, "region": 1,
  "region_name": "Region1",
  "region_uuid":
"bd1e6ce2-e113-4ce4-
a9b6-0633f7083cac",
  "gender": "male", "staff":
true

}
]
}, "time_info":
{
  "dst_status": false,
  "enable_dst": true,
  "time": "2024-05-
30T20:12:20+08:0
0",

```

```
"time_zone": "UTC+8:00 China Standard Time (CT/CST)"
}
}
```

### 有効なビューアトラックが消失した場合のデータ例

```
{
  "device_info":
  { "cus_device_id": "123456",
    "cus_site_id": "789123",
    "device_mac":
    "24:E1:24:FA:0C:6C",
    "device_name": "People
    Counter11", "device_sn":
    "6384E16179950009",
    "firmware_version":
    "V_125.1.0.1-chenjs-
    20240530a",
    "hardware_version":
    "V1.0", "ip_address":
    "192.168.60.183",
    "running_time": 58
  }, "network_info": { "network_status": "1", "iccid": "89860117838009934120", "imei": "860425047368939", "cell_id": "340db80",
  "lac": "5299"
}, "attention_region_trigger_data": { "region_attention_time_data": [
  {
    "region": 1, "region_uuid": "c2cff789-8311-4a73-8ff3-9348cf4fa0d9", "children": false, "attention_time_ms": 96799,
    "people_id": 5, "gender": "male", "staff": true
  }, {
    "region": 2,
```

```
"region_uuid": "c2cff789-8311-4a73-8ff3-9348cf4fa0d9",  
"children": false, "attention_time_ms": 96799, "people_id": 5,  
"gender": "male", "staff": true  
}  
]  
, "time_info": {"dst_status": false, "enable_dst": true, "time": "2024-05-30T20:11:32+08:00", "time_zone": "UTC+8:00 China  
Standard Time (CT/CST)"  
}  
}
```

### デジタル入力のデータ例

```
{  
  "device_info":  
    { "cpu": {  
      "cpu_temperature": 50, "cpu_usage": 62  
    }, "device_mac": "24:E1:24:FA:77:49", "device_name": "66", "device_sn": "6834E23009150005", "device_tilt_pitch_roll": { "pitch":  
161.8, "roll": 147.6  
    }, "firmware_version": "V_125.1.0.5-a2", "hardware_version": "V1.1", "ip_address": "192.168.49.152", "ram": {  
      "memory_usage": 52.97, "total_memory_mb": 480.62,  
    }  
  }  
}
```

```

    "used_memory_mb": 254.56
  }, "running_time": 496781, "storage": {
    "storage_usage": 26.83, "total_space_gb": 11.71, "used_space_gb": 3.14
  }, "wlan_mac": "24:E1:24:FA:77:4A"
}, "network_info": { "network_status": "1", "iccid": "89860117838009934120", "imei": "860425047368939", "cell_id": "340db80",
"lac": "5299"
}, "di_trigger_data": { "di_trigger_count": 69390, "di_trigger_event_name": "test"
}, "isRetransmission": false, "time_info": {
  "dst_status": false,

  "enable_dst": true,

  "time": "2024-05-
30T20:11:32+08:0
0", "time_zone":
"UTC+8:00 China
Standard Time
(CT/CST)"
}
}
}

```

## 定期レポート用のアップリンクデータ例

レポート戦略が「**Periodic Report**」に設定されている場合、デバイスは設定された間隔でデータが変更された際に、アップリンクデータを報告します。このセクションでは、定期レポートにおけるアップリンクデータの例をご紹介します。

```

{
  "device_info":
  { "cus_device_id": "123456",

```

```
"cus_site_id": "789123", "device_mac": "24:E1:24:FA:0C:6C", //PoE version only
"device_name": "People Counter11",
"device_sn": "6384E16179950009",
"firmware_version": "V_125.1.0.1-
chenjs-20240530a",
"hardware_version": "V1.0",
"ip_address": "192.168.60.183",
"running_time": 141, "wlan_mac":
"24:E1:24:54:23:0A"
}, "network_info": { //Cellular version only
"network_status": "true", //True is connected, False is disconnected.
"iccid": "89860117838009934120", "imei": "860425047368939", "cell_id": "340db80", "lac": "5299"
}, "line_periodic_data": [{"line": 1, "line_name": "Line11111111111111111111111111111111", "line_uuid": "9a0440de-3188-4f6d-b886-bb20c97bd26b"},
"total": {
"female_in": 0, "female_out": 0, "in": 0, "male_in": 0, "male_out": 0, "out": 0
}, "children": { "female_in": 0, "female_out": 0, "in": 0, "male_in": 0, "male_out": 0, "out": 0
}
}
```





```
"out_counted": 0
}, "group" { "in_counted": 0, "out_counted": 0
}

}, "region_data": { "dwell_time_data": [{
  "avg_dwell_time": 308367, "children_avg_dwell_time": 0, "children_max_dwell_time": 0, "female_avg_dwell_time": 0,
  "female_max_dwell_time": 519934, "male_avg_dwell_time": 0, "male_max_dwell_time": 96799, "max_dwell_time": 519934,
  "staff_max_dwell_time": 1522, "staff_avg_dwell_time": 1522, "region": 1, "region_name": "Region1", "region_uuid": "bd1e6ce2-e113-4ce4-
a9b6-0633f7083cac"
}
], "region_count_data": [{"total": { "current_female": 0, "current_male": 1, "current_total": 2
}, "children": { "current_female": 0, "current_male": 1, "current_total": 2
}, "staff": {
```

```

"current_female": 0, "current_male": 1, "current_total": 2
}, "region": 1, "region_name": "Region1", "region_uuid": "bd1e6ce2-e113-4ce4-a9b6-0633f7083cac"
}}
}, "attention_region_total_data": { "region_effective_audience_data": [
{
"region": 1, "region_uuid": "c2cff789-8311-4a73-8ff3-9348cf4fa0d9", "total": {
"effective_audience": 1, //Including staffs and children
"male_effective_audience": 1, //Including male staffs and boys
"female_effective_audience": 1, //Including female staffs and girls
}, "children": { "effective_audience": 1, "male_effective_audience": 1, "female_effective_audience": 1
}, "staff": { "effective_audience": 1, "male_effective_audience": 1, "female_effective_audience": 1
}
}
}, "region_avg_attention_time_data": [//Excluding staffs and children
{
"region": 1, "region_uuid": "c2cff789-8311-4a73-8ff3-9348cf4fa0d9", "avg_time_s": 10, "children_avg_time_s": 10,

```

```
"staff_avg_time_s": 10,"male_avg_time_s": 10,"female_avg_time_s": 10
}, {
  "region": 2,"region_uuid": "c2cff789-8311-4a73-8ff3-9348cf4fa0d8", "avg_time_s": 10,"children_avg_time_s": 10,
  "staff_avg_time_s": 10,"male_avg_time_s": 10,"female_avg_time_s": 10
}
]
}, {"di_period_data": {"di_trigger_count": 119,"di_trigger_event_name": "test"
}, {"di_total_data": {"di_trigger_count": 69390,"di_trigger_event_name": "test"
}, {"time_info": {"dst_status": false, "enable_dst": true, "end_time": "2024-05-30T20:21:49+08:00", "start_time": "2024-05-30T20:20:49+08:00", "time_zone": "UTC+8:00 China Standard Time (CT/CST)"
}
}
```

## アラーム報告用のアップリンクデータ例

デバイスが異常な状況に遭遇した場合、アラームを報告します。このセクションでは、アラーム報告に関するアップリンクデータの例を示します。

## デバイスの異常な傾きに関するデータ例

```
{
  "device_abnormal_tilt_alarm": [
    {
      "alarm_status": "alarm",
      "device_sn": "6834E23009150005"
    }
  ],
  "device_info": { "cpu": {
    "cpu_temperature": 60, "cpu_usage": 54
  }, "device_mac": "24:E1:24:FA:77:49", "device_name": "66", "device_sn": "6834E23009150005", "device_tilt_pitch_roll": { "pitch": 105, "roll": -153
  }, "firmware_version": "V_125.1.0.5-a1", "hardware_version": "V1.1", "ip_address": "192.168.49.152", "ram": {
    "memory_usage": 36.01, "total_memory_mb": 480.62, "used_memory_mb": 173.05
  }, "running_time": 7362, "storage": {
    "storage_usage": 0.04, "total_space_gb": 11.71, "used_space_gb": 0
  }, "wlan_mac": "24:E1:24:FA:77:4A"
  }, "isRetransmission": false,
```

```
"time_info":  
  {"dst_status":  
    false, "enable_dst":  
    false, "time":  
    "2026-01-  
13T19:49:58+08:00  
", "time_zone":
```

### デバイスのオクルージョンに関するデータ例

```
{  
  "device_info":  
    {"cpu": {  
      "cpu_temperature": 60, "cpu_usage": 76  
    }, "device_mac": "24:E1:24:FA:77:49", "device_name": "66", "device_sn": "6834E23009150005", "device_tilt_pitch_roll": {"pitch":  
129.5, "roll": 142.1  
}, "firmware_version": "V_125.1.0.5-a2", "hardware_version": "V1.1", "ip_address": "192.168.49.152", "ram": {  
  "memory_usage": 36.89, "total_memory_mb": 480.62, "used_memory_mb": 177.28  
}, "running_time": 2682, "storage": {  
  "storage_usage": 21.59, "total_space_gb": 11.71, "used_space_gb": 2.53  
}, "wlan_mac": "24:E1:24:FA:77:4A"
```

```

}, "device_occlusion_alarm": [
  {
    "alarm_status": "alarm",
    "device_sn": "6834E23009150005"
  }
], "isRetransmission": false, "time_info": {
  "dst_status": false,
  "enable_dst": false,
  "time": "2026-01-
27T16:09:03+08:00
", "time_zone":
"UTC+8:00 China
Standard Time
(CT/CST)"
}

```

## MQTT API コマンド

このセクションでは、本デバイスが対応するMQTT APIコマンドの例をご紹介します。MQTT APIパラメータの設定方法については、「[MQTT APIパラメータの設定 \(セルラー版のみ\)](#)」をご参照ください。

### レポート検索コマンド

リクエスト例：

```

{
  "dst": "all",
  "type": 0,
  "command": "/api/
v1/system/search
Report",
  "msgId": "1",
  "requestData": { "e
vent": 0,
  "startTime": "2025-
01-
22T08:00:00.000",
  "endTime": "2025-
01-

```

```

"regionCount":{ "reg
  ionId":0
  }, "dwellDetect":{ "regionId":0,"timeMin":10,"timeBinWidth":10,"numOfBins":10
  }, "heatMap":{
    "type":0
    }, "uuid":"1d4f62b5-37f0-4bda-80f8-a5625613fc6e"
  }
}

```

リクエストのパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	タイプ	説明
<b>dst</b>	文字列	<b>all:</b> MQTT API トピックを購読しているすべての受信者に送信します。 <b>SN:</b> 特定の受信者に送信します。
<b>type</b>	番号	<b>0:</b> リクエスト、 <b>1:</b> レスポンス。
<b>msgId</b>	数値	リクエスト識別子。
<b>requestData</b>	オブジェクト	
<b>event</b>	番号	<b>0:</b> ライン越えカウント <b>1:</b> エリア内の人数ピープルカウンティング <b>2:</b> 滞留時間の検出 <b>3:</b> ヒートマップ <b>4:</b> 履歴ポイント
<b>startTime</b>		

Parameter	タイプ	説明
endTime		
lineParam		
regionCount		
dwelldetct		
heatMap		
uuid	文字列	ユーザーが定義したランダムな一意のID

応答例：成功

```
{
  "code":0,
  "message":"ok",
  "msgId":"1",
  "src":"6834E161
84430017",
  "transmitTime":
2,"type":1
```

応答例のパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	タイプ	説明
code	整数	
message	文字列	
msgId	数値	応答識別子
src	文字列	番号レスポンス SN
type	数値	<b>0</b> : リクエスト、 <b>1</b> : レスポンス

レポート結果取得コマンド

リクエストの例：

```
{
  "dst": "all",
  "type":0,
```

```

"command":"/api/v1/system/getReportResult",
"msgId":"1", "requestData":{
  "uuid":"1d4f62b5-37f0-4bda-80f8-a5625613fc6e",
  "event":0
}
}

```

リクエスト例のパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	タイプ	説明
<b>dst</b>	文字列	<b>all:</b> MQTT API トピックを購読しているすべての受信者に送信します。 <b>SN:</b> 特定の受信者に送信します。
<b>type</b>	number	<b>0:</b> リクエスト、 <b>1:</b> レスポンス。
<b>msgId</b>	数値	リクエスト識別子。
<b>requestData</b>	オブジェクト	
<b>uuid</b>	文字列	ユーザーが定義したランダムな一意のIDです。
<b>event</b>	数値	<b>0:</b> ライン越えカウント。 <b>1:</b> エリア内でのピープルカウンティング。 <b>2:</b> 滞在時間の検出。 <b>3:</b> ヒートマップ。

応答例 :

```

{
  "code": 0, "data": {
    "event": 0,
    "isReady": true,
    "line": [
      {
        "children": {

```

```
    "femaleIn": 0, "femaleOut": 1, "in": 6, "maleIn": 6, "maleOut": 0, "out": 1
  }, "group": {
    "in": 9, "out": 3
  }, "staff": {
    "femaleIn": 0, "femaleOut": 0, "in": 0, "maleIn": 0, "maleOut": 0, "out": 0
  }, "time": "2024-08-15T09:00:00.000", "total": {
    "femaleIn": 0, "femaleOut": 1, "in": 9, "maleIn": 9, "maleOut": 2, "out": 3
  }
}
]
}, "message": "ok", "transmitTime": 1
}
```

応答例のパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	型	説明
<b>code</b>	整数	
<b>data</b>	オブジェクト []	戻り値
<b>event</b>	数値	<b>0:</b> ライン越えカウント <b>1:</b> ピープルカウンティング <b>2:</b> 滞留時間の検出 <b>3:</b> ヒートマップ
<b>isReady</b>	boolean	
<b>line,region</b>	オブジェクト	子要素、スタッフ、グループ、合計を含みます
<b>children, staff,group ,dwell , total</b>	オブジェクト	入、出、女性入、女性出、男性入、男性出を含みます
<b>heatmap</b>	オブジェクト	
<b>height</b>	数値	ヒートマップデータグリッドの高さ
<b>width</b>	数値	数値ヒートマップデータグリッドの幅
<b>max</b>	数値	最大値
<b>min</b>	数値	ヒートマップの最小値
<b>values</b>	オブジェクト []	
<b>X</b>	数値	
<b>Y</b>	数値	
<b>value</b>	数値	
<b>historyPoints</b>		
<b>values</b>	オブジェクト []	軌跡ポイントのタイプ : <b>0:</b> 軌跡の開始点 <b>1:</b> 軌跡の終了点

Parameter	型	説明
<b>X</b>	数値	
<b>Y</b>	数値	
<b>message</b>	文字列	情報
<b>transmitTime</b>	数値	処理時間

## 検索ログコマンド

リクエスト例：

```
{
  "dst": "all",
  "type": 0,
  "command":
  "d":
  "/api/v1/
  system/s
  earchLog"
  ,
  "msgid":
  1234567
  8,
```

リクエスト例のパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	タイプ	説明
<b>dst</b>	文字列	<b>all:</b> MQTT API トピックを購読しているすべての受信者に送信します。 <b>SN:</b> 特定の受信者に送信します。
<b>type</b>	番号	<b>0:</b> リクエスト、 <b>1:</b> レスポンス。
<b>msgid</b>	番号	リクエスト識別子。
<b>requestData</b>	オブジェクト	
<b>startTime</b>	文字列	開始タイムスタンプ。単位：ミリ秒。

Parameter	型	説明
<b>endTime</b>	文字列	以上タイムスタンプ。単位：ミリ秒。
<b>logType</b>	数値	<b>0</b> : 起動ログ。
<b>admin</b>	ブール値	<b>true</b> : 応答パラメータ <b>rebootCode</b> を表示します。 <b>false</b> : 応答パラメータ <b>rebootCode</b> を非表示にします。

応答例：

```
{
  "code": 0, "data": {
    "log": [
      {
        "PowerOnTime": "2024-07-22T09:34:27+08:00",
        "ShutdownTime": "2024-07-22T09:41:59+08:00", "rebootCode":
        1, "rebootMessage": "normal", "runningTime": 451
      }, {
        "PowerOnTime": "2024-07-22T09:42:05+08:00",
        "ShutdownTime": "2024-07-22T09:54:47+08:00", "rebootCode":
        3, "rebootMessage": "upgrade success", "runningTime": 761
      }
    ], "recordCount": 5
  }, "message": "ok", "transmitTime": 3
}
```

レスポンスのパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	タイプ	説明
<b>code</b>	整数	
<b>data</b>	オブジェクト	
<b>log</b>	オブジェクト[]	項目タイプ: オブジェクト
<b>PowerOnTime</b>	文字列	起動時間
<b>ShutdownTime</b>	文字列	電源オフ時刻
<b>rebootCode</b>	文字列	<ul style="list-style-type: none"> <li>-1: 稼働中</li> <li>0: 不明な理由による再起動</li> <li>1: 手動再起動</li> <li>2: ネットワーク変更による再起動</li> <li>3: Webアップグレードによる再起動</li> <li>4: ソフトウェアリセットによる再起動</li> <li>5: ハードウェアリセットによる再起動</li> <li>6: 設定インポートによる再起動</li> <li>7: リモート管理設定インポート</li> <li>8: リモート管理アップグレード</li> <li>9: アップグレードフェイルによる再起動</li> <li>10: マルチキャストネットワーク設定変更による再起動</li> <li>11: mssserverのクラッシュ</li> <li>12: avserverのクラッシュ</li> <li>13: lighttpdのクラッシュ</li> <li>14: マルチデバイススティッチングモードの変更</li> <li>15: 複数の4Gダイヤルアップ失敗</li> </ul>
<b>runningTime</b>	整数	

Parameter	タイプ	説明
runningTime	文字列	
recordCount	整数	再起動回数。最大表示値は1000です。
message	文字列	
transmitTime	数値	処理時間

## 第6章 サービス

Milesightは、お客様に迅速かつ包括的なテクニカルサポートサービスを提供しています。エンドユーザー様は、お近くの販売代理店にご連絡いただければ、テクニカルサポートを受けることができます。販売代理店および再販業者様は、Milesightに直接ご連絡いただければ、テクニカルサポートを受けることができます。

テクニカルサポートのメールアドレス：[iot.support@milesight.com](mailto:iot.support@milesight.com)

オンラインサポートポータル：<https://support.milesight-iot.com>

リソースダウンロードセンター：<https://www.milesight.com/iot/resources/download-center/>

### **MILESIGHT CHINA**

TEL：+86-592-5085280

FAX：+86-592-5023065

住所：Building C09, Software Park Phase III, Xiamen 361024, Fujian, China

**ウェーブクレスト株式会社**

<https://wavecrestkk.co.jp/ms/>